

全国地震動予測地図 2017 年版
地図編

震源断層を特定した地震動予測地図
(シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）について

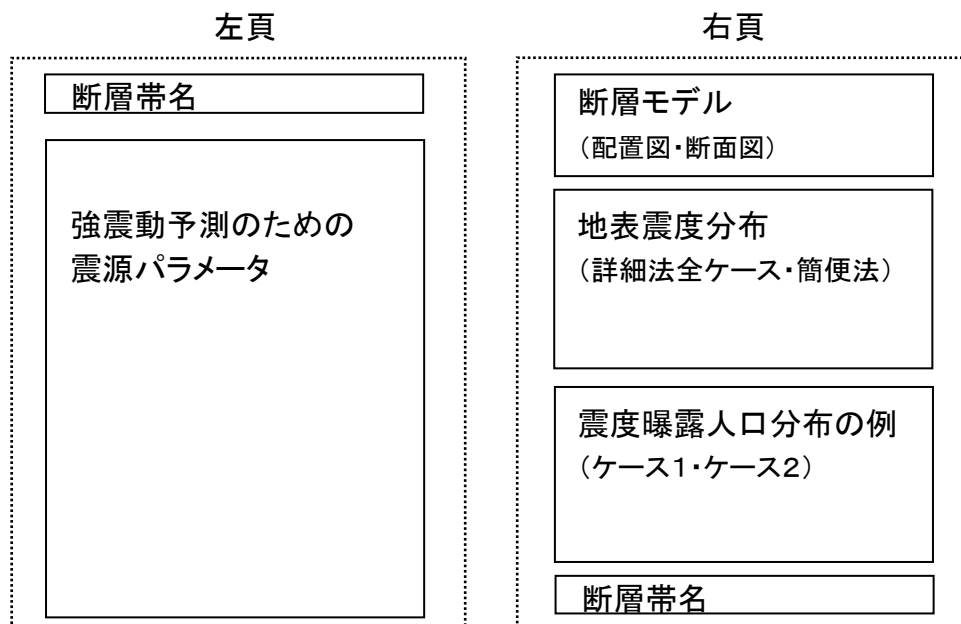
主要活断層帯の「震源断層を特定した地震の地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）」として新規追加あるいは更新されたものを見開き 2 頁毎にまとめて示す。各々の見開き 2 頁の内容は次の通り。

- ・断層帯名
- ・震源パラメータ
- ・断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）
- ・地表震度分布（詳細法全ケース・簡便法）
- ・震度曝露人口分布の例（ケース 1・ケース 2）

但し、断層長さが短いために詳細法の計算を実施していない活断層（長さ 15km 未満が目安）については、各 1 頁にまとめて示す。地図中には、断層の端部から水平距離約 50km の範囲内で、断層との位置関係や人口を参考に選んだ各 10 都市も示す。

主要活断層帯の震源パラメータ、断層モデル、破壊ケースは、「震源断層を特定した地震の強震動予測手法（「レシピ」）」のうち「長期評価された地表の活断層長さ等から地震規模を設定し震源断層モデルを設定する場合」に相当する（イ）の方法、および、次ページに示す「断層モデル作成の基本方針」に従って設定した。

見開き2頁



- ※ 本書に掲載した地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000（空間データ基盤）及び基盤地図情報を使用した。（承認番号 平 29 情使、第 5 号）
- ※ 日本領土のうち、南鳥島と沖ノ鳥島では、計算に必要な基データが整備されていないため、地図を作成していない。
- ※ 本書では、世界測地系を使用している。

断層モデル作成の基本方針

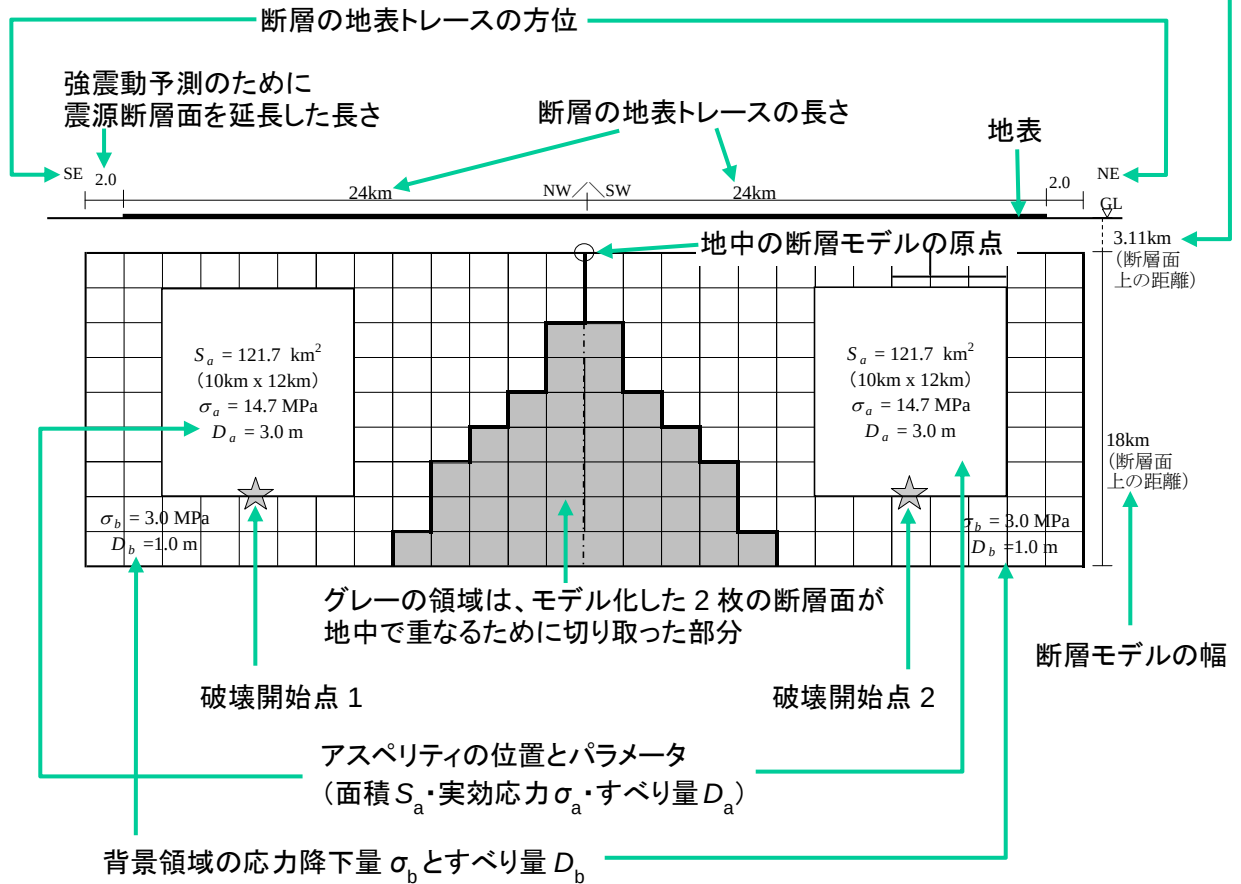
- ・ 強震動評価が既に行われている断層帯については、できる限り強震動評価の際の断層パラメータを用いる。
- ・ 長期評価による長さが 20km 未満の活断層については、「確率論的地震動予測地図」のための巨視的断層パラメータは設定するが、「震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）」のための強震動計算は行わない。ただし、発生確率が高い等、作成が必要と判断した際には、個別に検討する。
- ・ 長さが概ね 10km の断層等、断層モデル設定に課題が残る断層については、新たなモデル化は行わず、2008 年版の確率論的地震動予測地図のパラメータを用いて、簡便法のみにより強震動予測を行う。
- ・ 複数の断層モデルが重なる場合、実際に断層面が交差するか、交差しないか、現状で明らかでない場合は、断層モデルが交差することを許す。
- ・ 長さが概ね 80km を超える断層帯については、「レシピ」に基づいて設定するが、観測された地表変位と整合するように地震モーメントを調整するなど、長大断層のモデル作成を個別検討する。
- ・ 長期評価において複数の断層が同時に活動する場合の地震発生確率が求められていない場合は、同時に活動するケースは設定しない。過去に地震が発生していることが確認されている場合には、別途検討する。
- ・ アスペリティの個数は、原則として、断層の長さが 25km 以下の場合は 1 つ、25km を上回り 30km に満たない場合は 1 つと 2 つ、30km 以上の場合は 2 つ配置する。断層帯付近から得られた諸情報に基づいてアスペリティの配置が推定できる場合は、それに従う。
- ・ 破壊開始点の位置は、根拠となる情報が無い場合、縦ずれ断層の場合は、アスペリティの下端中央に、横ずれ断層の場合は、アスペリティ下端の左右端に設定する。

微視的断層モデルとその直交断面の見方の例

微視的断層モデル（地表トレースの方位に合わせて上から見た断層面図）

（断層のメッシュサイズは 2km×2km）

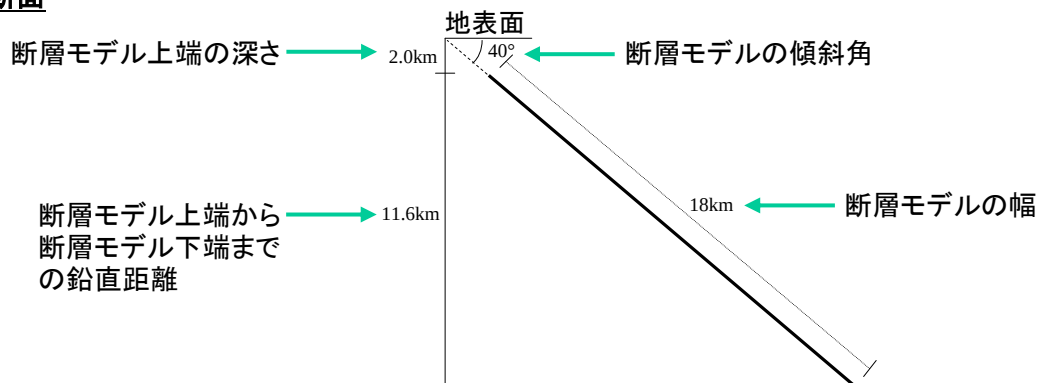
断層面上で傾斜方向に測られた
地表から断層上端までの距離



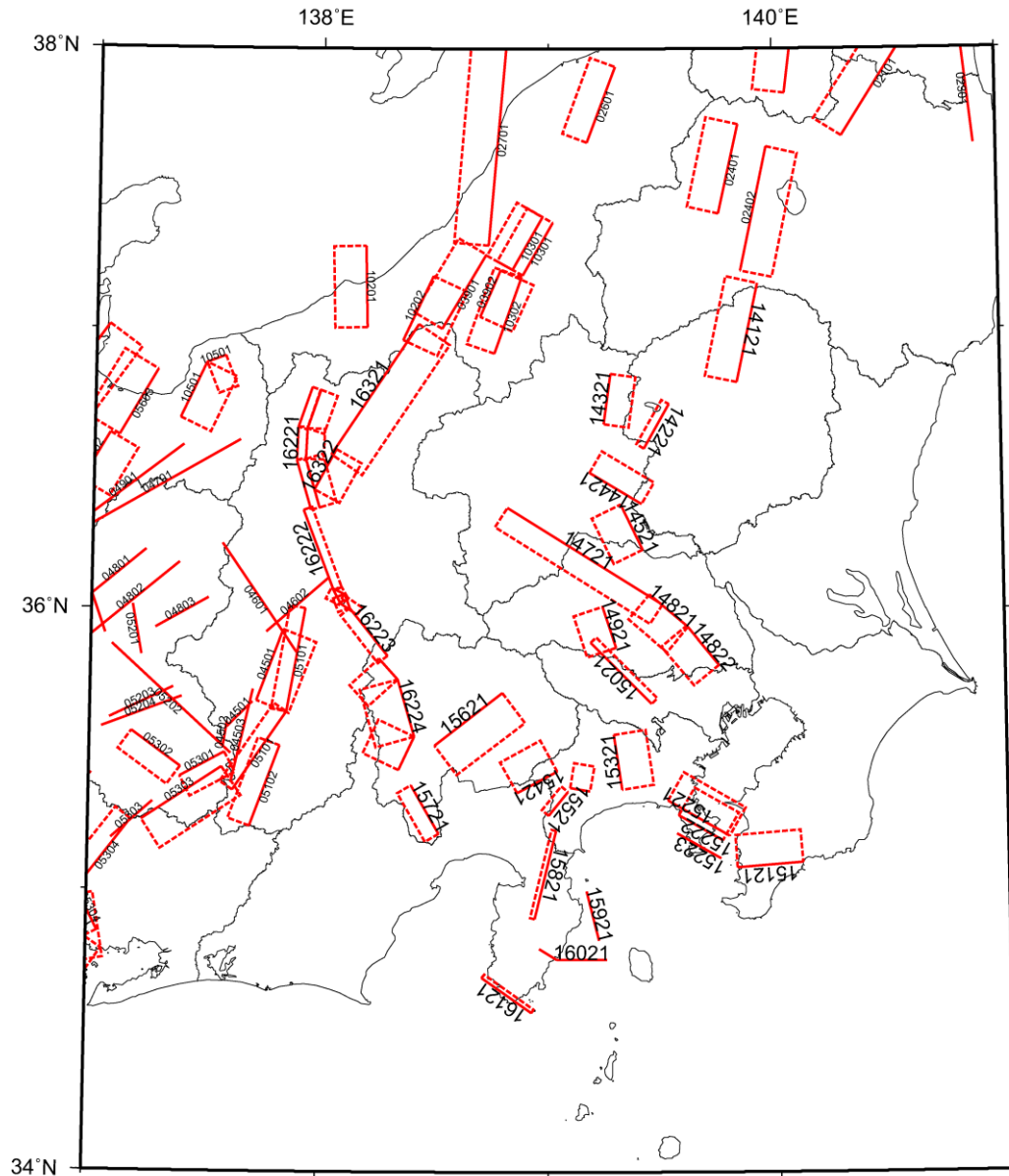
※ ☆が複数ある場合には、破壊開始点異なる複数ケースを想定して計算している。

※ アスペリティの枠線が実線の場合は、長期評価による空間的なすべりの大小の情報から位置を推定したもの。点線の場合は、情報が無いため、レシピに従い配置したもの。

直交断面



関東地域の地図掲載対象断層帯一覧



断層帯名称	断層番号	区間名
関谷断層	14121	
内ノ籠断層	14221	
片品川左岸断層	14321	
大久保断層	14421	
太田断層	14521	
深谷断層帯	14721	
綾瀬川断層	14821	鴻巣－伊奈区間
	14822	伊奈－川口区間
越生断層	14921	
立川断層帯	15021	
鴨川低地断層帯	15121	
三浦半島断層群	15221	主部衣笠－北武断層帯
	15222	主部武山断層帯
	15223	南部

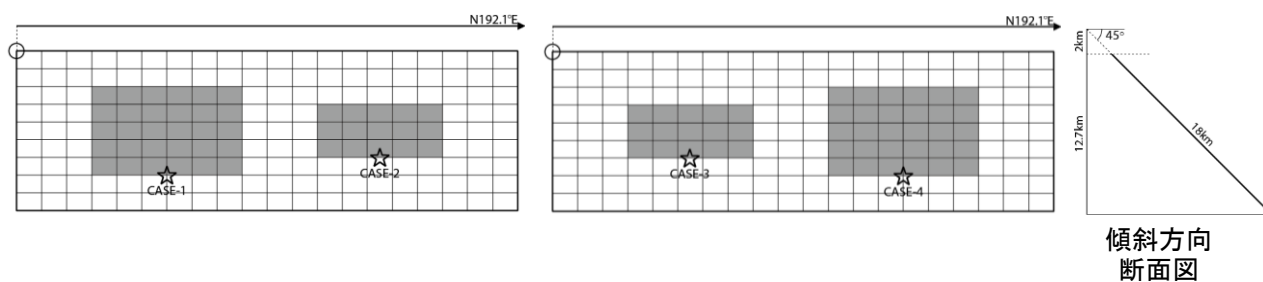
伊勢原断層	15321	
塩沢断層帯	15421	
平山－松田北断層帯	15521	
曾根丘陵断層帯	15621	
身延断層	15721	
北伊豆断層帯	15821	
伊東沖断層	15921	
稲取断層帯	16021	
石廊崎断層	16121	
糸魚川－静岡構造線断層帯	16221	北部区間
	16222	中北部区間
	16223	中南部区間
	16224	南部区間
長野盆地西縁断層帯	16321	飯山－千曲区間
	16322	麻績区間

黒太字：詳細法を更新する断層帯（簡便法は更新無し） 注：20km未満も含む
 灰色字：2017年版では更新しない断層帯

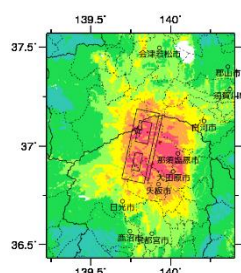
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
関谷断層

関谷断層（F014121）の震源パラメータ

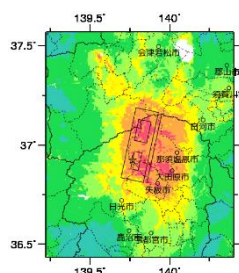
巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	38
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	7.5
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	2.85E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.9
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	720
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	3.6
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	1.27
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	37.164
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.929
走向 θ [度]		長期評価に基づく	192.1
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	45.0
すべり角 λ [度]		「逆断層」	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	15
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	40
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	18
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.62E+19
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	172.0
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	15.1
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.54
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.36E+19
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	114.7
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.1
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	2.82
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	12 × 10
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	57.3
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	15.1
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	1.99
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	10 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	548.0
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.87
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.49E+19



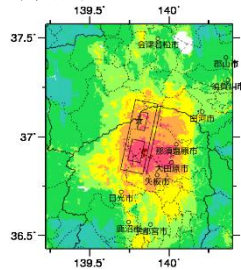
アスペリティと破壊開始点の配置図



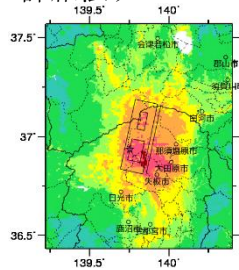
詳細法ケース 1



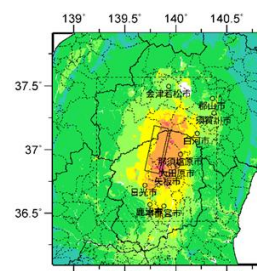
詳細法ケース 2



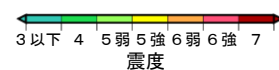
詳細法ケース 3



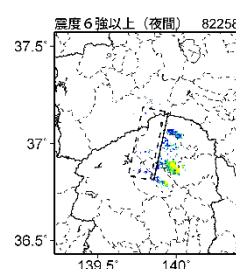
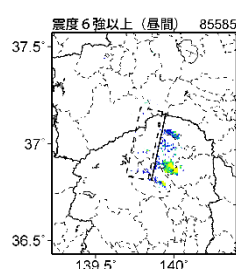
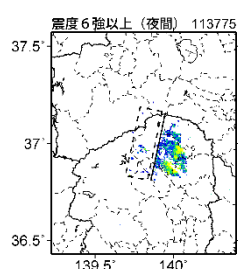
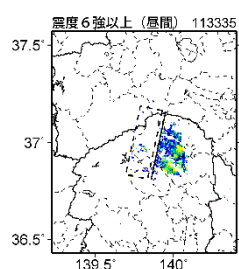
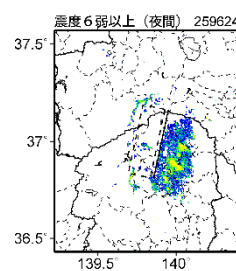
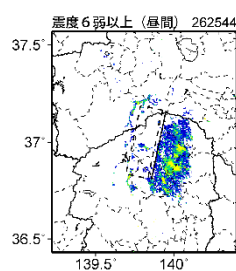
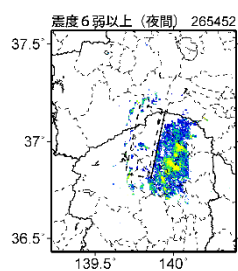
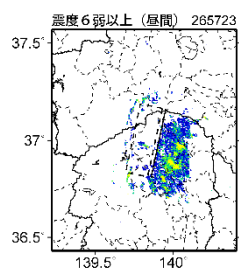
詳細法ケース 4



簡便法

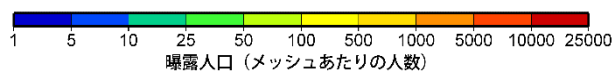


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

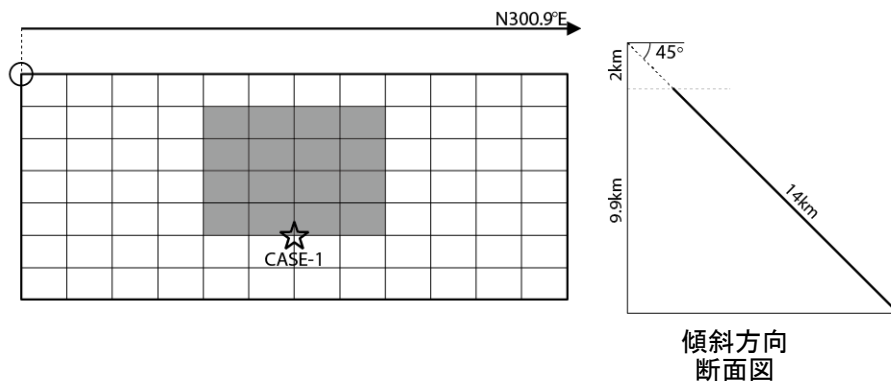
関谷断層

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

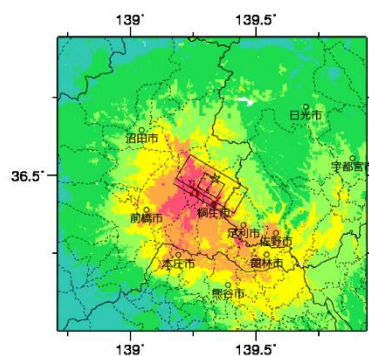
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
大久保断層

大久保断層（F014421）の震源パラメータ

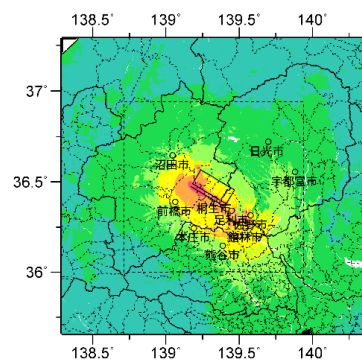
巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	20
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	7.0
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	8.17E+18
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.5
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	336
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	3.2
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.78
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	36.379
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.411
走向 θ [度]		長期評価に基づく	300.9
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	45.0
すべり角 λ [度]		「逆断層」	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	10
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	24
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	14
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.07E+19
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	69.5
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	15.6
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.56
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	3.38E+18
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	69.5
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.6
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.56
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	8 × 8
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	266.5
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma\gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	3.2
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.58
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	4.79E+18



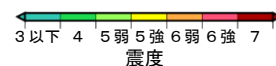
アスぺリティと破壊開始点の配置図



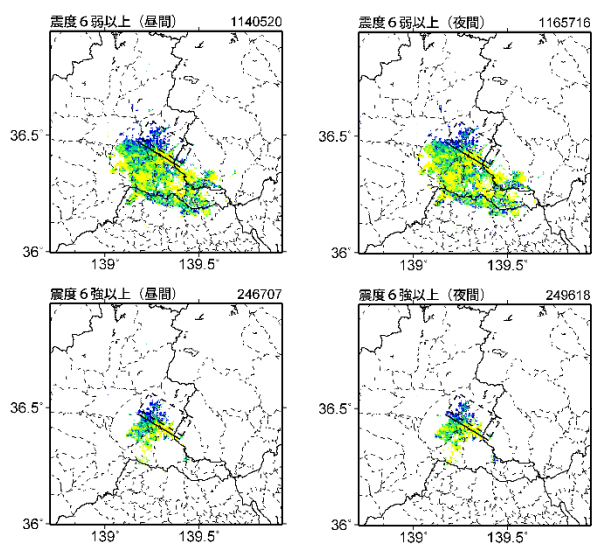
詳細法ケース 1



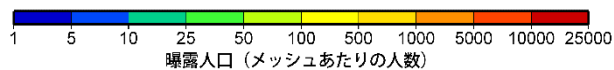
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



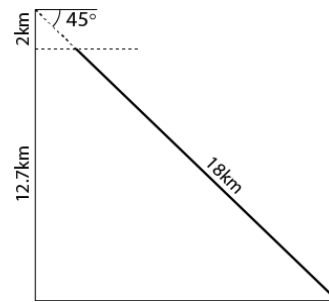
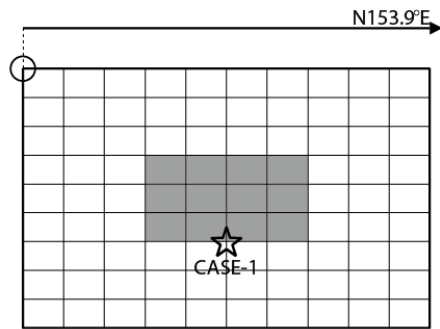
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

大久保断層 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
太田断層

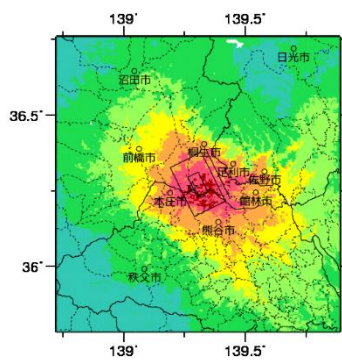
太田断層（F014521）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	18
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	6.9
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	6.65E+18
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.5
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	360
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	2.4
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.59
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	36.378
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.319
走向 θ [度]		長期評価に基づく	153.9
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	45.0
すべり角 λ [度]		「逆断層」	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	15
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	20
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	18
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	9.97E+18
全 テ ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi \cdot r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	49.3
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	17.3
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.18
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.82E+18
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	49.3
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	17.3
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.18
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	310.7
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma\gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.4
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.50
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	4.83E+18

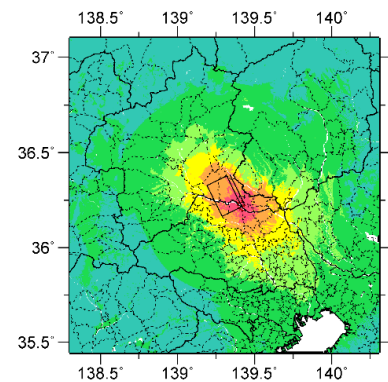


傾斜方向
断面図

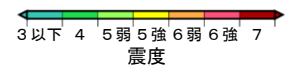
アスペリティと破壊開始点の配置図



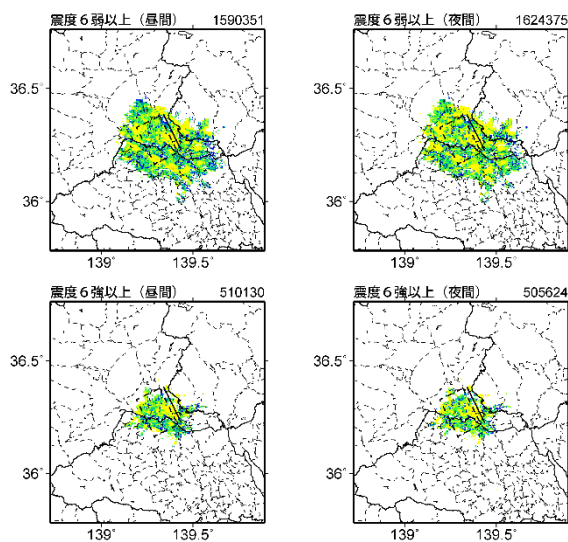
詳細法ケース 1



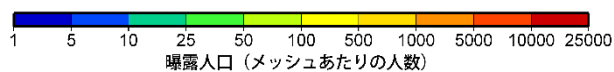
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

太田断層

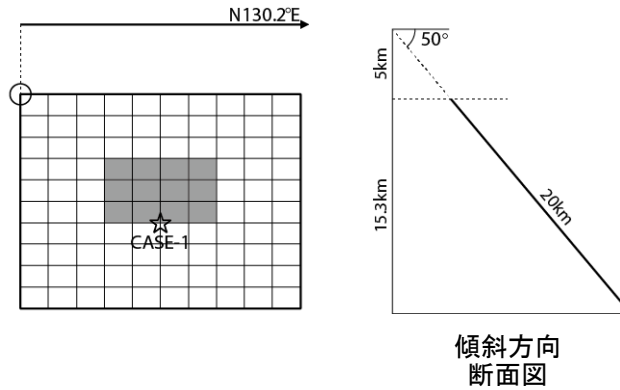
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

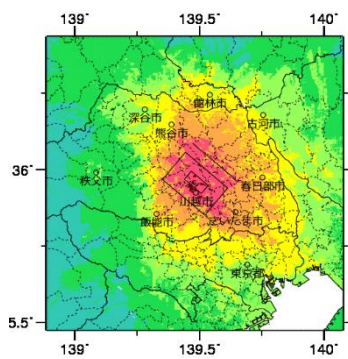
綾瀬川断層 鴻巣－伊奈区間

綾瀬川断層 鴻巣－伊奈区間（F014821）の震源パラメータ

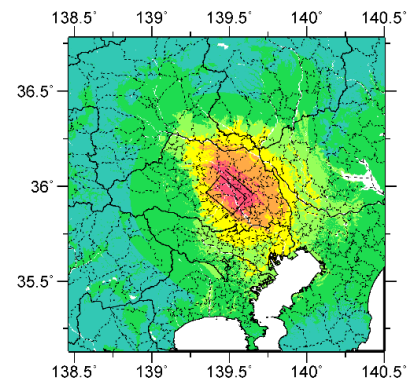
巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	19
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	7.0
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	7.39E+18
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.5
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	400
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	2.2
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.59
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	36.057
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.444
走向 θ [度]		長期評価に基づく	130.2
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	50.0
すべり角 λ [度]		「逆断層」	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	5
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	20
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	20
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.03E+19
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	51.1
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	17.6
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.18
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.89E+18
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	51.1
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	17.6
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.18
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	348.9
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma\gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.3
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.51
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	5.50E+18



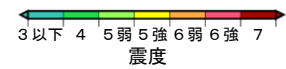
アスペリティと破壊開始点の配置図



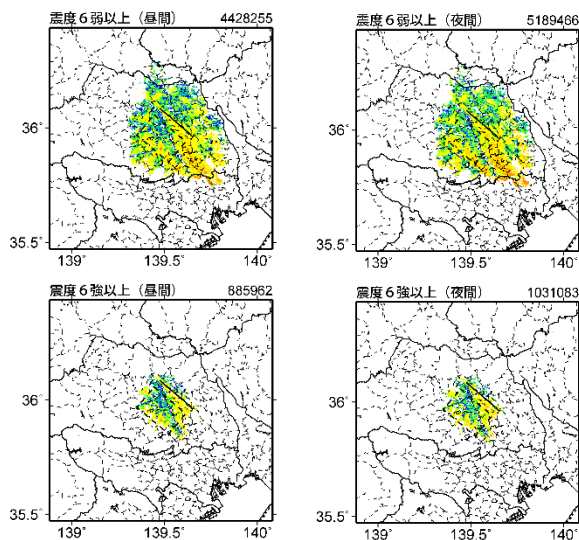
詳細法ケース 1



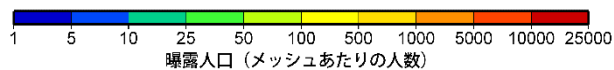
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



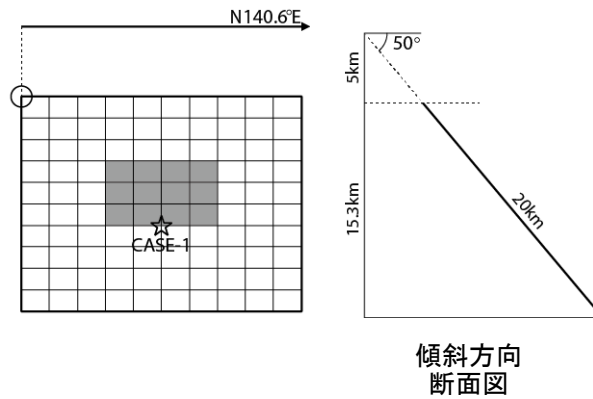
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

綾瀬川断層 鴻巣－伊奈区間 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

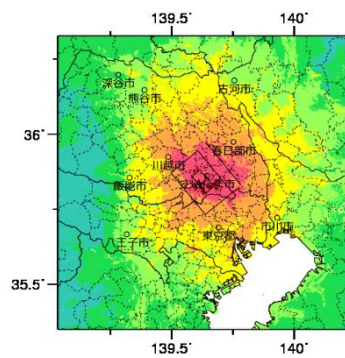
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
綾瀬川断層 伊奈－川口区間

綾瀬川断層 伊奈－川口区間（F014822）の震源パラメータ

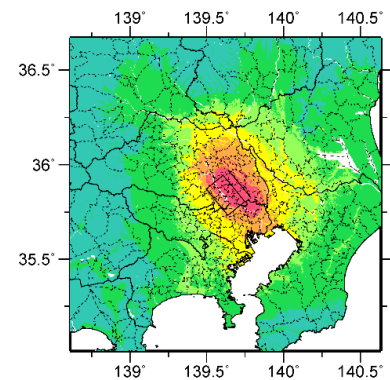
巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	19
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	7.0
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	7.39E+18
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.5
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	400
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	2.2
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.59
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.946
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.607
走向 θ [度]		長期評価に基づく	140.6
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	50.0
すべり角 λ [度]		「不明」（鴻巣－伊奈区間と同じと仮定）	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	5
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	20
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	20
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.03E+19
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	51.1
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	17.6
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.18
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.89E+18
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	51.1
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	17.6
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.18
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	348.9
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.3
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.51
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	5.50E+18



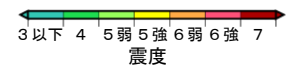
アスペリティと破壊開始点の配置図



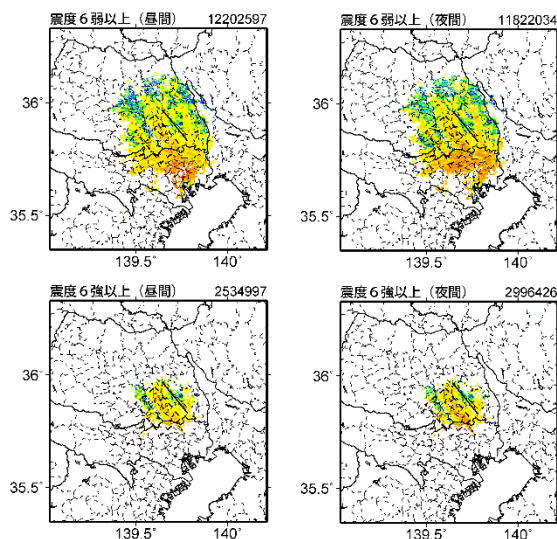
詳細法ケース 1



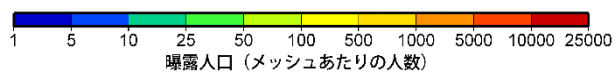
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



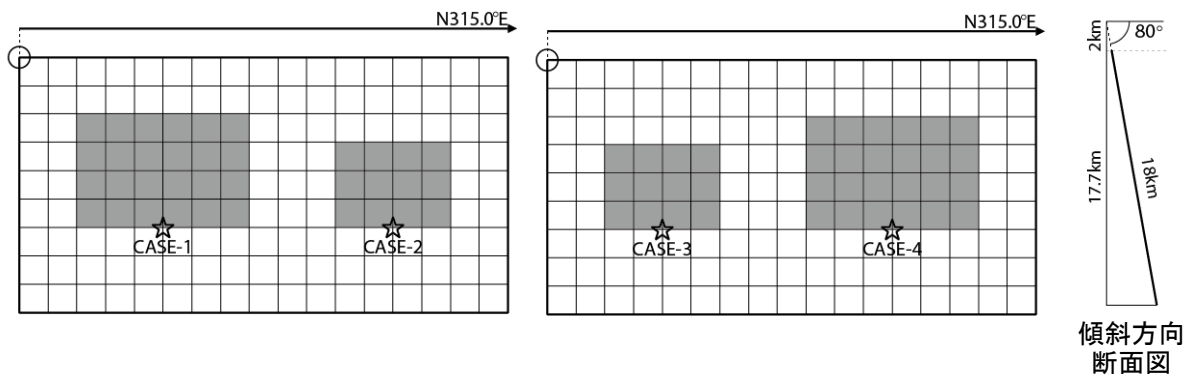
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

綾瀬川断層 伊奈ー川口区間 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

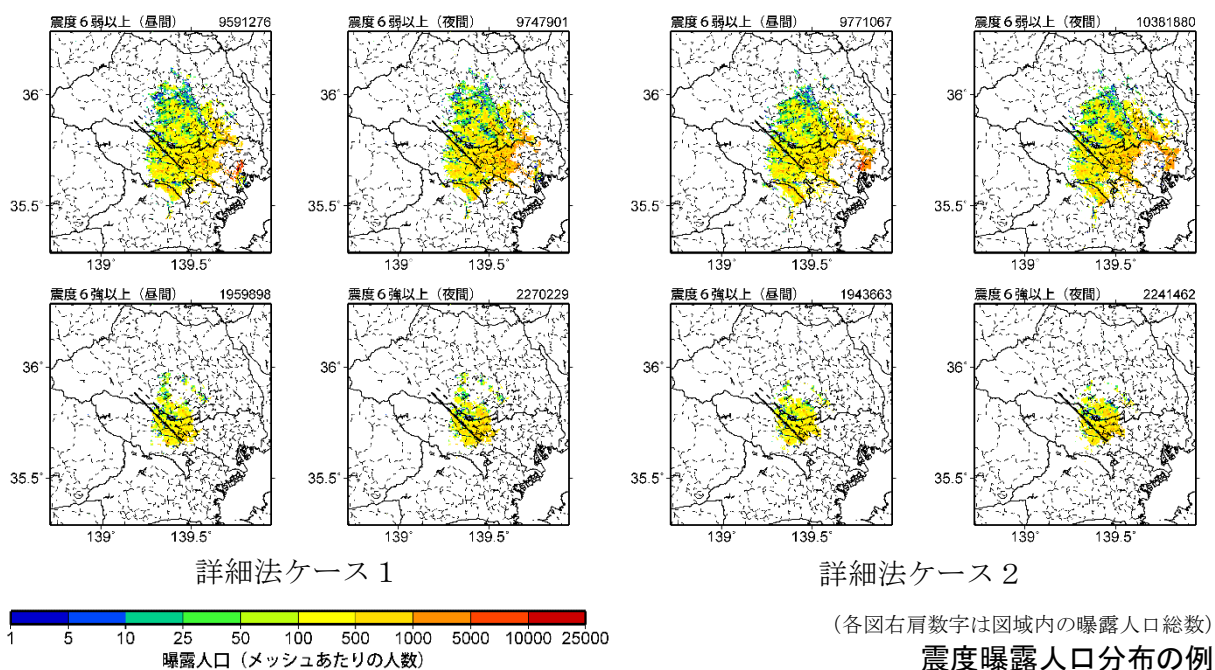
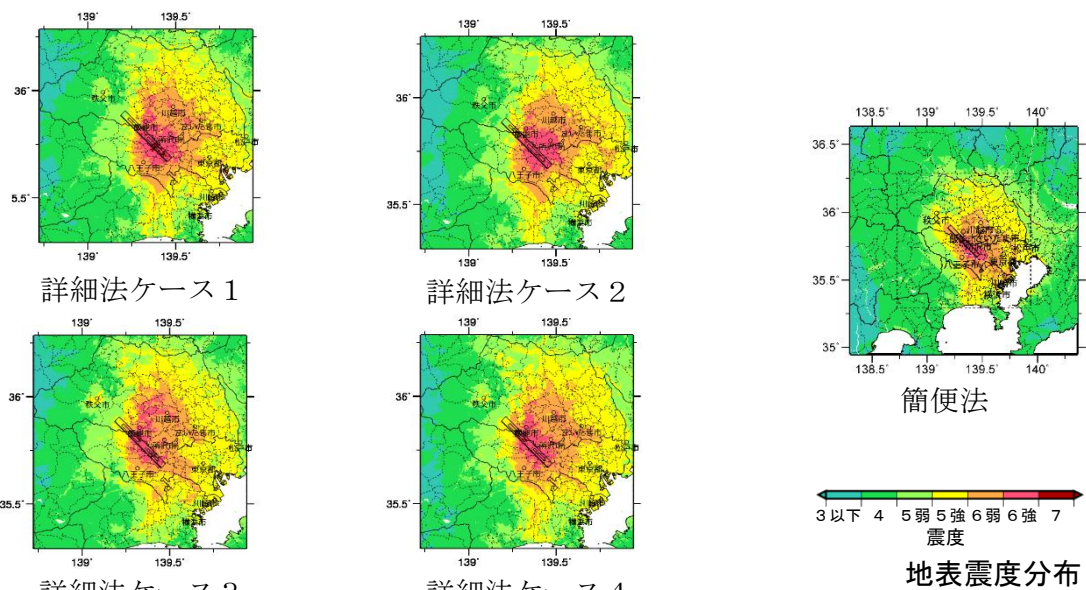
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
立川断層帯

立川断層帯（F015021）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	33
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	7.4
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	2.17E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.8
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	612
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	3.5
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	1.14
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.669
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.453
走向 θ [度]		長期評価に基づく	315.0
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	80.0
すべり角 λ [度]		これまでと同様に逆断層と仮定	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	34
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	18
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.48E+19
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	140.2
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	15.2
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.27
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	9.93E+18
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	93.5
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.2
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	2.52
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	12 × 8
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	46.7
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	15.2
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	1.78
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	471.8
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.6
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.80
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.17E+19



アスペリティと破壊開始点の配置図

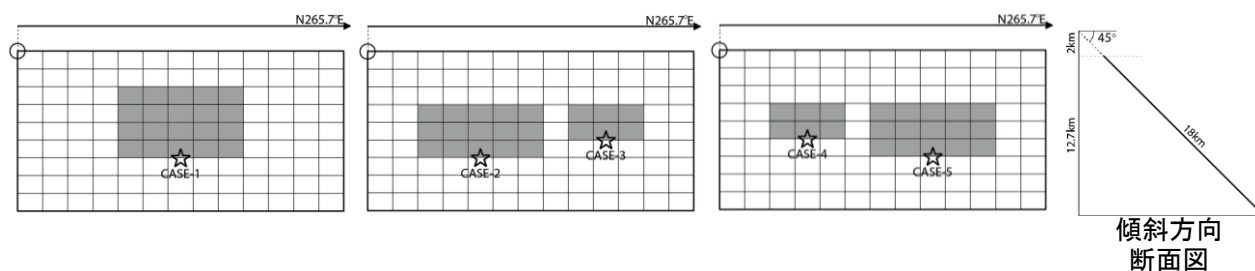


立川断層帯
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

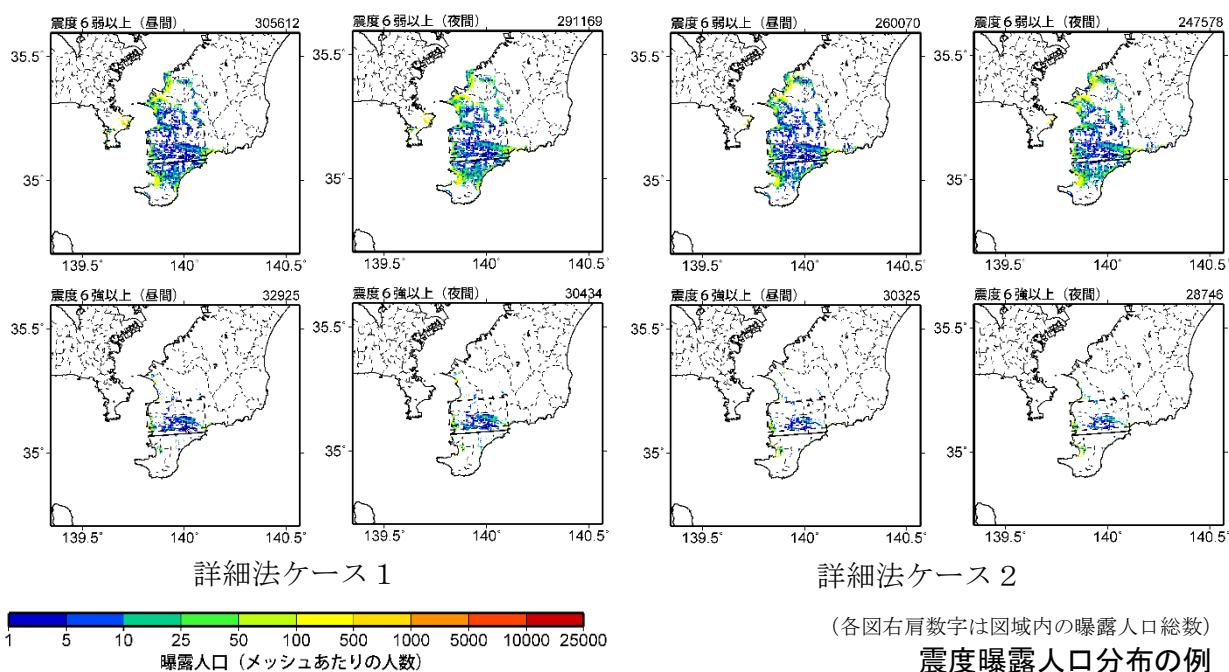
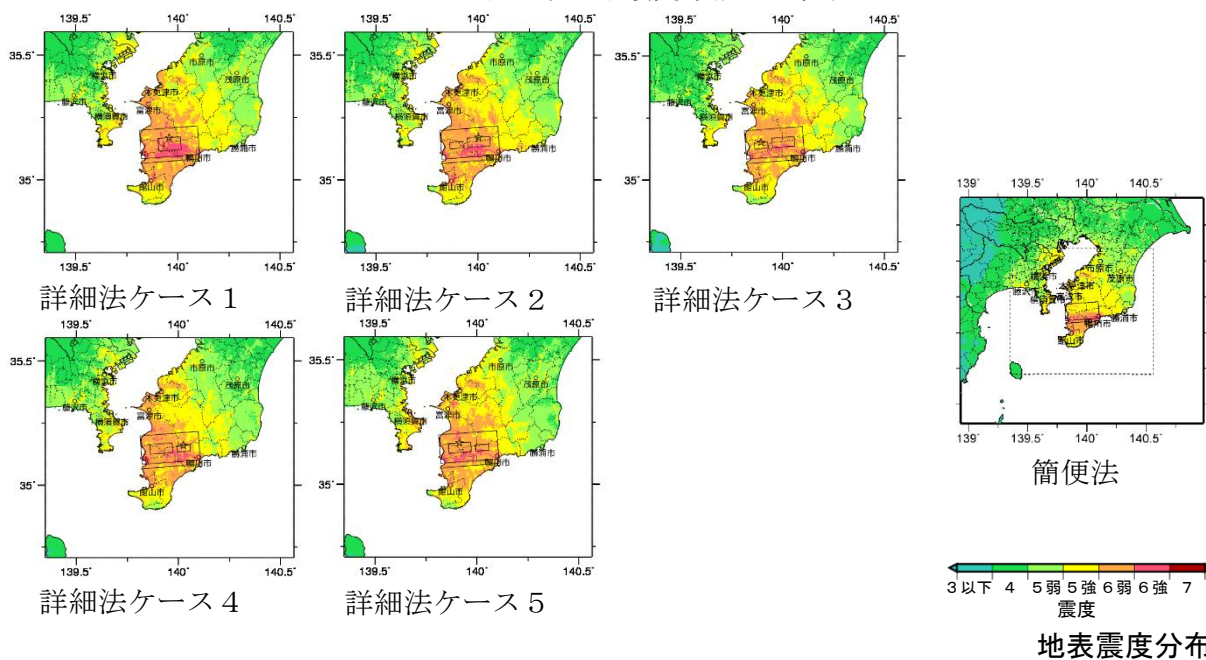
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
鴨川低地断層帯

鴨川低地断層帯（F015121）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		設定方法		
断層長さ L [km]		長期評価による	25	
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	7.2	
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	1.26E+19	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.7	
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	468	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	3.0	
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.86	
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.102	
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	140.107	
走向 θ [度]		長期評価に基づく	265.7	
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	45.0	
すべり角 λ [度]		これまでと同様と仮定	-90	
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2	
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	15	
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	26	
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	18	
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～5	
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.23E+19	
全 テ ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	89.1	
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	16.0	
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.73	
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	4.80E+18	
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	89.1	59.4
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	16.0	16.0
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.73	1.91
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	10 × 8	10 × 6
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」		29.7
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」		16.0
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」		1.35
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ		8 × 4
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	378.9	378.9
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma\gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.7	2.4
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.66	0.66
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	7.81E+18	7.81E+18



アスペリティと破壊開始点の配置図



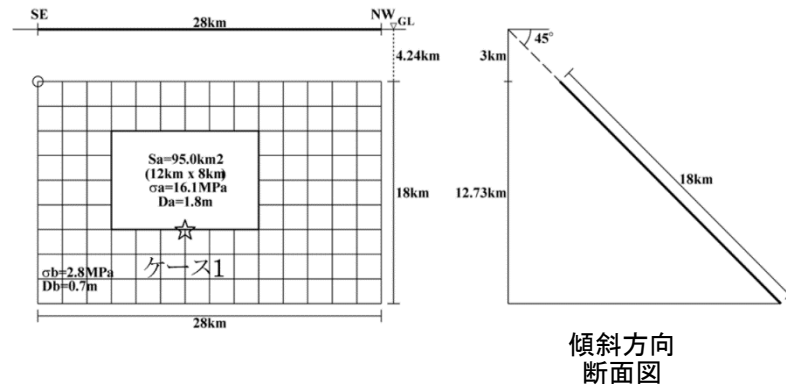
鴨川低地断層帯
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

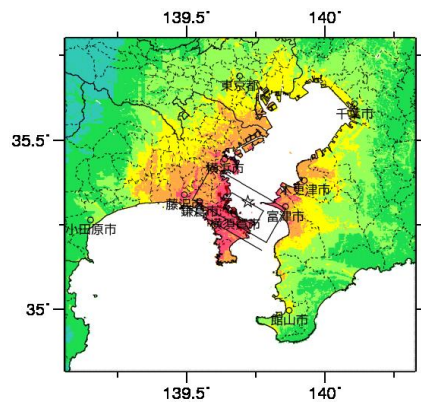
三浦半島断層群 主部衣笠－北武断層帯

三浦半島断層群 主部衣笠－北武断層帯（F015221）の震源パラメータ

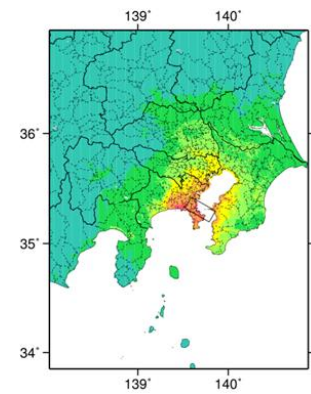
巨視的震源パラメータ		設定方法				
断層長さ L [km]		長期評価による	約14kmもしくはそれ以上			
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	6.7程度もしくはそれ以上			
地震モーメント M_0 [Nm]		$M_0 = (S_{\text{model}} \times 10^{11} / 4.24)^2 \times 10^{-7}$	1.41E+19			
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.7			
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	504			
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	3.0			
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.90			
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.198			
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.788			
走向 θ [度]		長期評価に基づく	300.0			
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	45.0			
すべり角 λ [度]		これまでと同様と仮定	180			
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	3			
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	15			
断層モデル長さ L_{model} [km]		強震動評価に基づく	28			
断層モデル幅 W_{model} [km]		強震動評価に基づく	18			
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1			
短周期 レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.29E+19			
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	95.0			
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	16.1			
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.80			
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	5.34E+18			
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	95.0			
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	16.1			
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.80			
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	12	×	8	
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」				
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」				
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma\gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」				
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ				
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	409.0			
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma\gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8			
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.7			
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	8.79E+18			



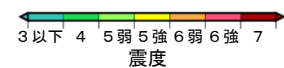
アスペリティと破壊開始点の配置図



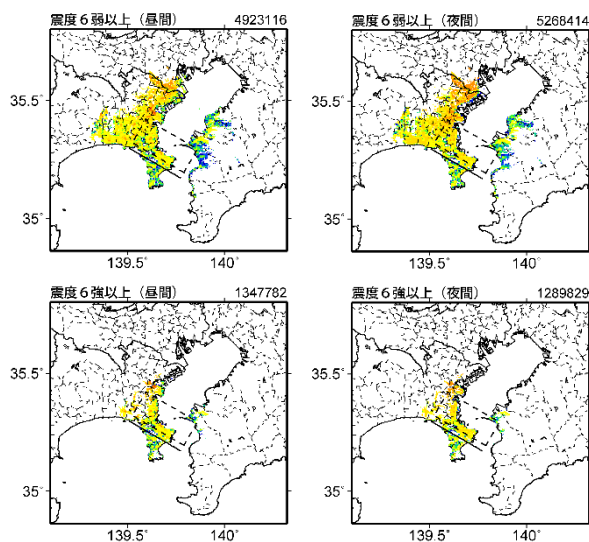
詳細法ケース 1



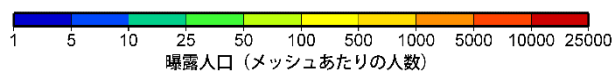
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

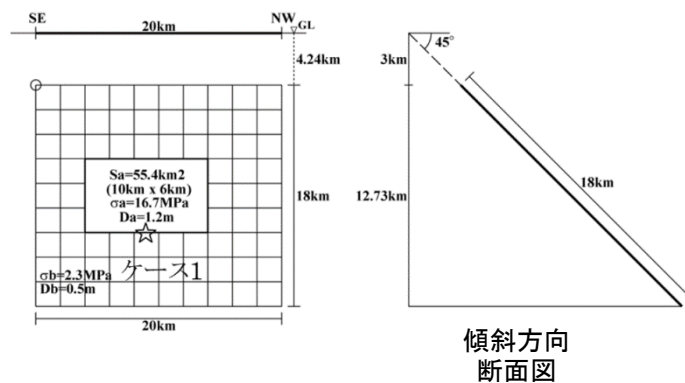
三浦半島断層群 主部衣笠-北武断層帯
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

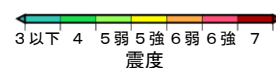
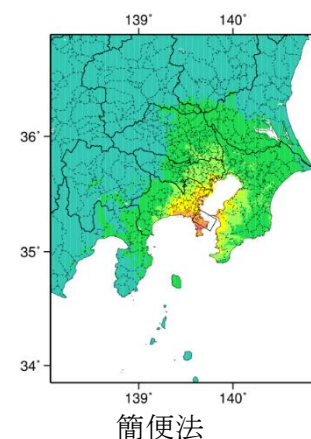
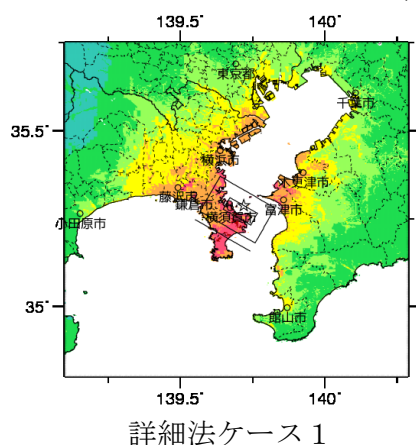
三浦半島断層群 主部武山断層帯

三浦半島断層群 主部武山断層帯（F015222）の震源パラメータ

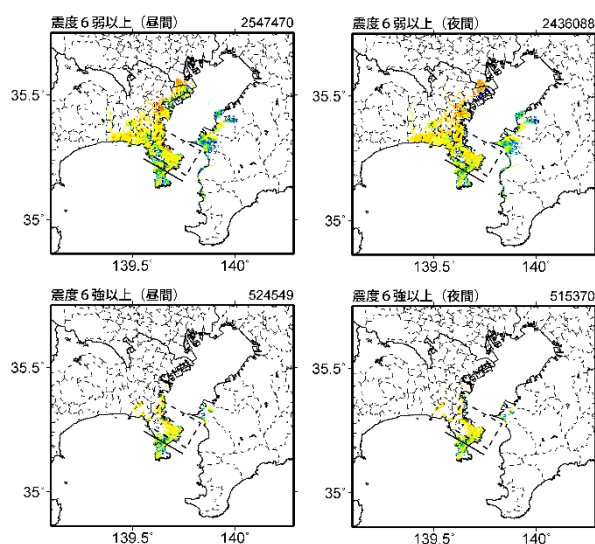
巨視的震源パラメータ		設定方法				
断層長さ L [km]		長期評価による	約11kmもしくはそれ以上			
地震規模 M		長期評価による	6.6程度もしくはそれ以上			
地震モーメント M_0 [Nm]		$M_0 = (S_{\text{model}} \times 10^{11} / 4.24)^2 \times 10^{-7}$	7.21E+18			
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.5			
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	360			
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	2.6			
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.60			
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.181			
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.758			
走向 θ [度]		長期評価に基づく	300.0			
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	45.0			
すべり角 λ [度]		これまでと同様と仮定	180			
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	3			
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	15			
断層モデル長さ L_{model} [km]		強震動評価に基づく	20			
断層モデル幅 W_{model} [km]		強震動評価に基づく	18			
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1			
短周期 レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.02E+19			
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	55.4			
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	16.7			
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.2			
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	2.08E+18			
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	55.4			
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	16.7			
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.2			
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	10	×	6	
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」				
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」				
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」				
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ				
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	304.6			
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.3			
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.5			
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	5.13E+18			



アスペリティと破壊開始点の配置図



地表震度分布



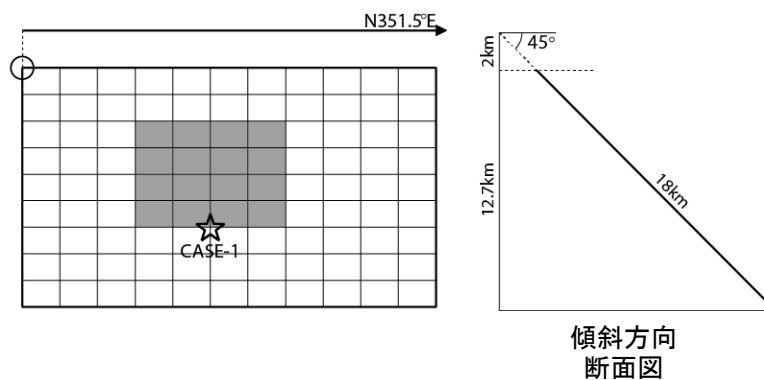
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

三浦半島断層群 主部武山断層帯 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

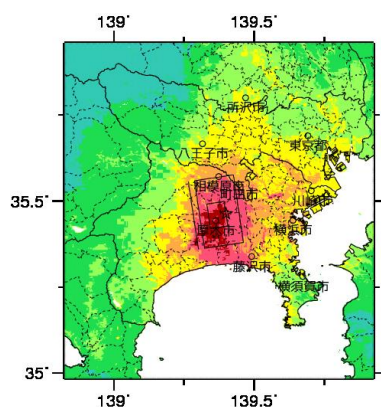
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
伊勢原断層

伊勢原断層（F015321）の震源パラメータ

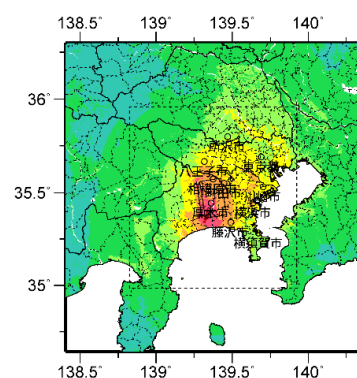
巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	21
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	7.0
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	8.98E+18
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.6
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	396
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	2.8
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.73
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.363
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.323
走向 θ [度]		長期評価に基づく	351.5
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	45.0
すべり角 λ [度]		「逆断層」	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	15
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	22
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	18
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.10E+19
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	66.9
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	16.4
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.45
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	3.03E+18
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	66.9
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	16.4
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.45
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	8 × 8
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	329.1
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.58
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	5.95E+18



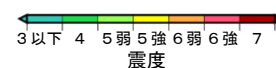
アスペリティと破壊開始点の配置図



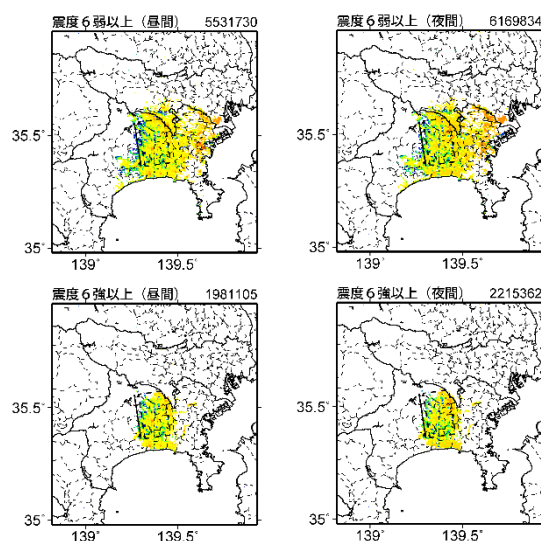
詳細法ケース 1



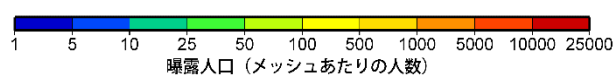
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



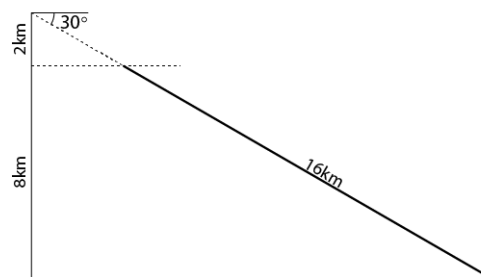
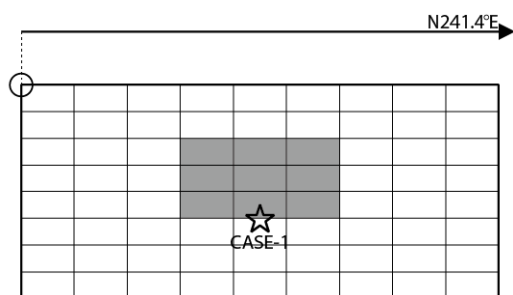
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

伊勢原断層 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
塩沢断層帯

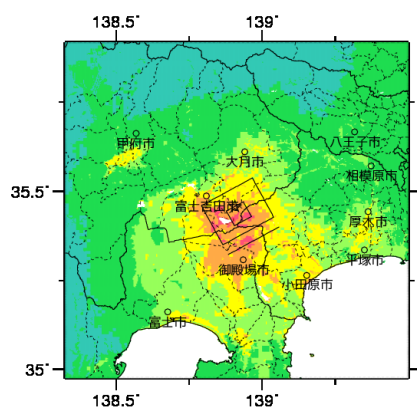
塩沢断層帯（F015421）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	15
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.4
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	288
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3)$, $R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	2.3
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.52
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.428
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.039
走向 θ [度]		長期評価に基づく	241.4
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	30.0
すべり角 λ [度]		「逆断層」	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	10
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	18
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	16
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	8.85E+18
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2$, $r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	38.4
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	17.4
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D$, $\gamma_D = 2.0$	1.04
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.24E+18
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	38.4
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	17.4
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.04
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	6 × 6
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	249.6
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.44
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	3.42E+18

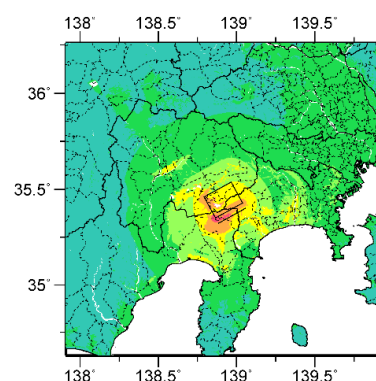


傾斜方向
断面図

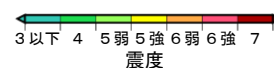
アスペリティと破壊開始点の配置図



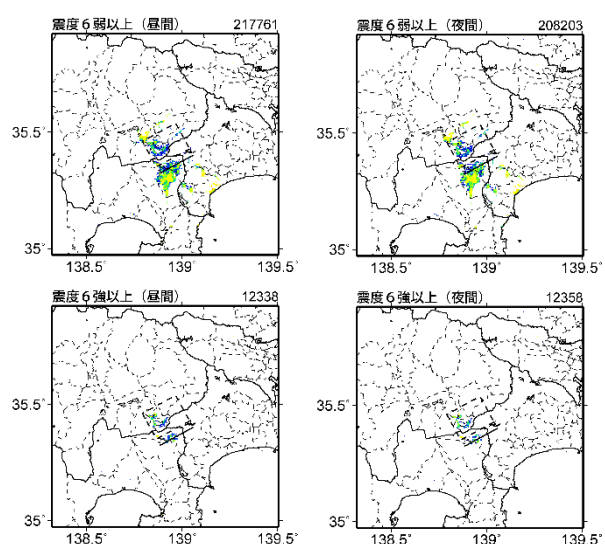
詳細法ケース 1



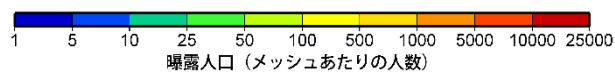
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



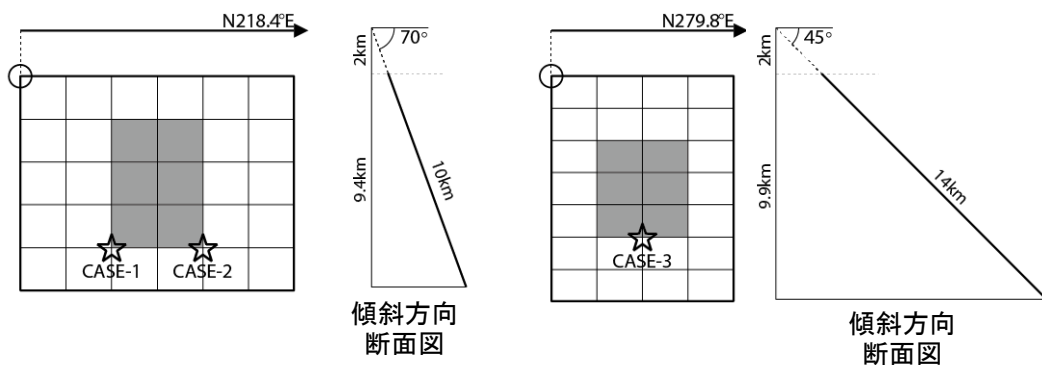
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

塩沢断層帯
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

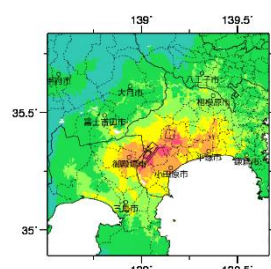
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
平山－松田北断層帯

平山－松田北断層帯（F015521）の震源パラメータ

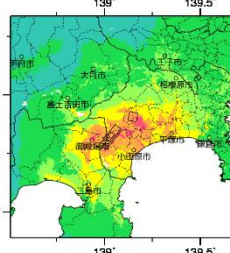
巨視的震源パラメータ		設定方法		
断層長さ L [km]		長期評価による	15	
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	6.8	
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.4	
断層モデル総面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = \Sigma S_{\text{model_seg}}$	232	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	3.2	
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	0.64	
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.356	35.357
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.086	139.183
走向 θ [度]		長期評価に基づく	218.4	279.8
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	70.0	45.0
すべり角 λ [度]		「左横ずれ断層」 「逆断層」	0	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2	2
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	10	10
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	12	8
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	10	14
断層モデル面積 $S_{\text{model_seg}}$ [km ²]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \cdot W_{\text{model_seg}}$	120	112
セグメント地震モーメント $M_{0\text{seg}}$ [Nm]		$S_{\text{model_seg}}$ の1.5乗に応じて分配	2.45E+18	2.21E+18
セグメント平均すべり量 D_{seg} [m]		$D_{\text{seg}} = M_{0\text{seg}} / (\mu \cdot S_{\text{model_seg}})$	0.65	0.63
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～3	
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	8.85E+18	
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	47.6	
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	15.7	
	セグメント面積 S_{a1} [km ²]	$S_{\text{model_seg}}$ に応じて分配	24.6	23.0
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D_{\text{seg}}, \gamma_D = 2.0$	1.31	1.26
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.01E+18	9.07E+17
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	24.6	23.0
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.7	15.7
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	1.31	1.26
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	6×4	6×4
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または「なし」		
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または「なし」		
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または「なし」		
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ		
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	95.4	89.0
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.3	1.7
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.49	0.47
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.44E+18	1.30E+18



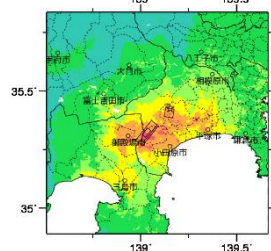
アスペリティと破壊開始点の配置図



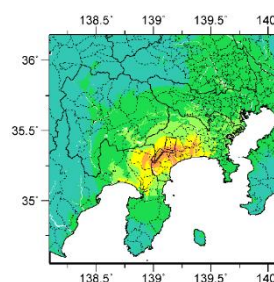
詳細法ケース 1



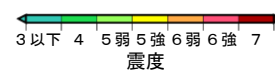
詳細法ケース 2



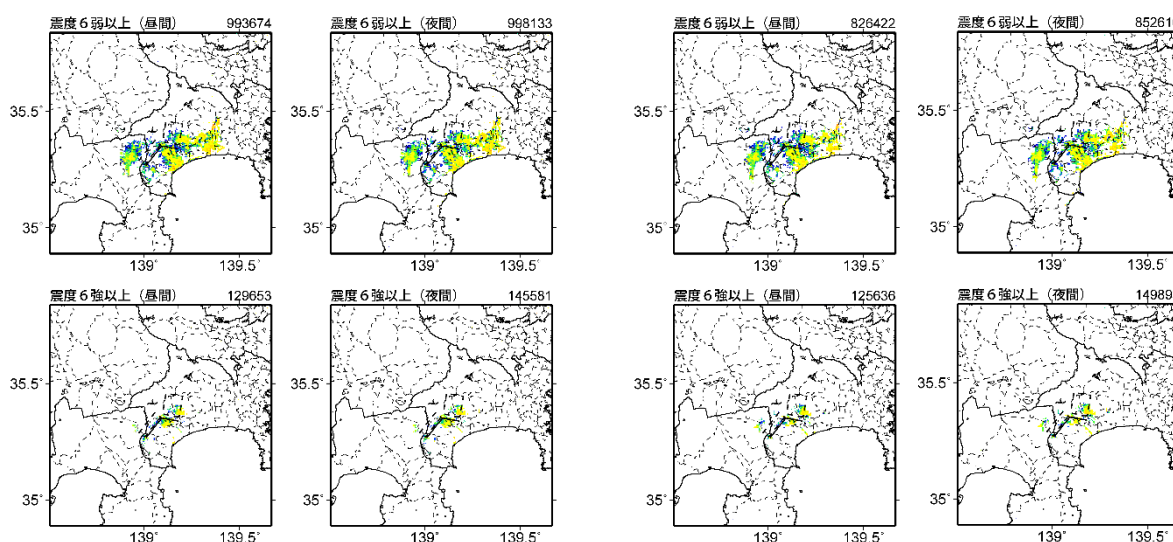
詳細法ケース 3



簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



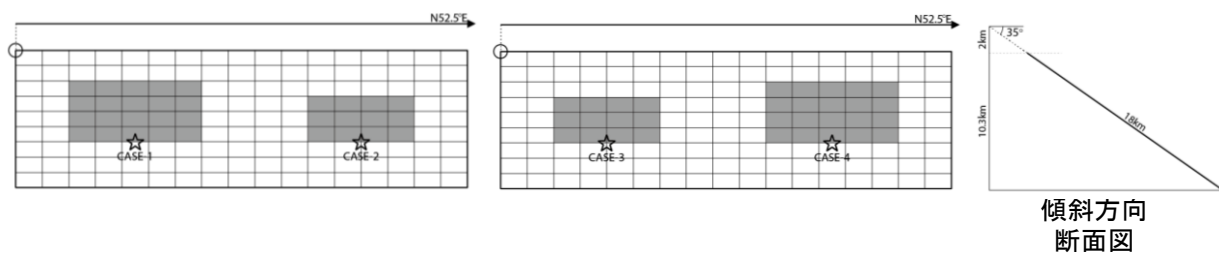
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

平山ー松田北断層帯 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

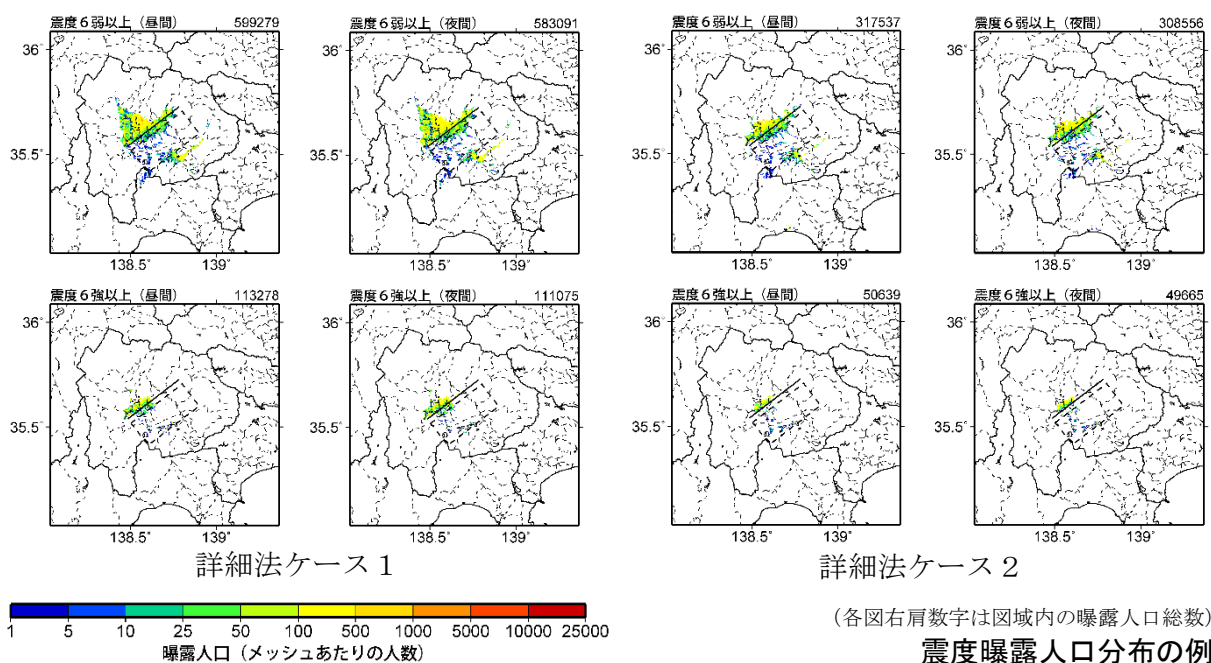
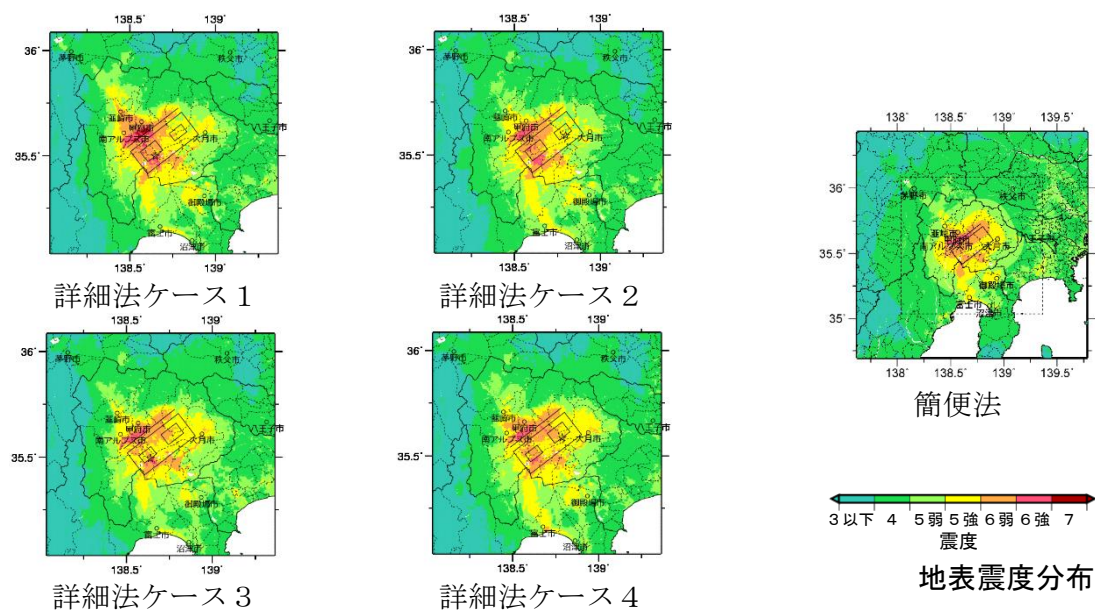
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
曾根丘陵断層帯

曾根丘陵断層帯（F015621）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	32
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	7.3
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	2.04E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.8
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	612
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	3.3
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	1.07
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.520
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	138.504
走向 θ [度]		長期評価に基づく	52.5
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	35.0
すべり角 λ [度]		「逆断層」	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	15
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	34
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	18
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.45E+19
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	129.4
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	15.5
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.14
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	8.64E+18
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	86.3
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.5
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	2.37
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	10 × 8
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	43.1
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	15.5
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	1.68
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	482.6
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.6
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.78
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.18E+19



アスペリティと破壊開始点の配置図

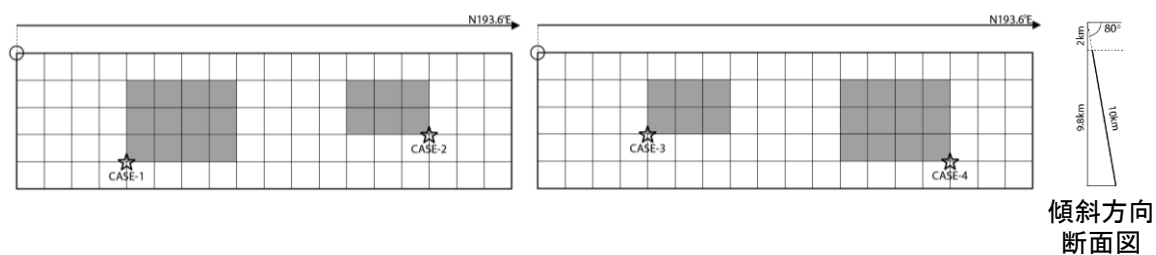


曽根丘陵断層帯
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

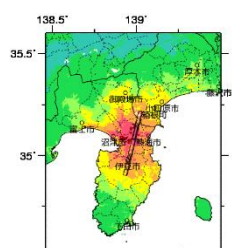
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
北伊豆断層帯

北伊豆断層帯（F015821）の震源パラメータ

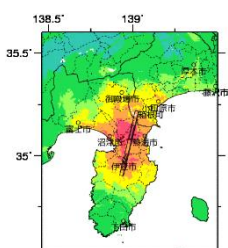
巨視的震源パラメータ		設定方法	
断層長さ L [km]		長期評価による	32
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$	7.3
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	2.04E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$	6.8
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \cdot W_{\text{model}}$	360
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$	3.1
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	1.82
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく	35.217
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく	139.034
走向 θ [度]		長期評価に基づく	193.6
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	80.0
すべり角 λ [度]		「逆断層」	0
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく	10
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	36
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う	10
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース 1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.03E+19
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	79.2
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$	14.1
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	3.63
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	8.98E+18
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$	52.8
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.1
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$	4.03
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」	26.4
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」	14.1
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」	2.85
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ	6 × 4
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	280.8
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	3.3
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	1.30
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.14E+19



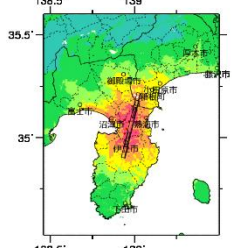
アスペリティと破壊開始点の配置図



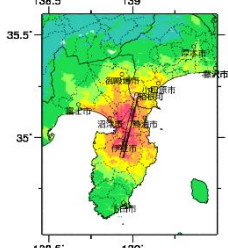
詳細法ケース 1



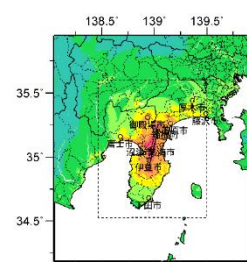
詳細法ケース 2



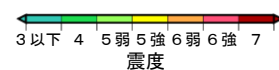
詳細法ケース 3



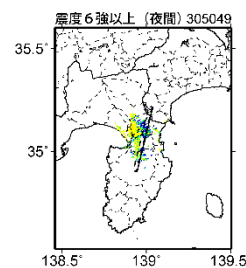
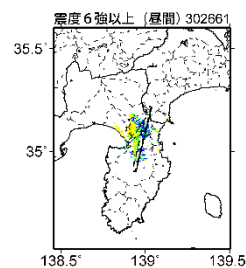
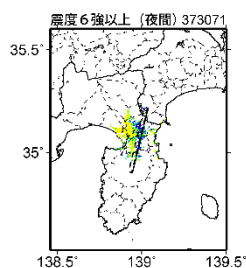
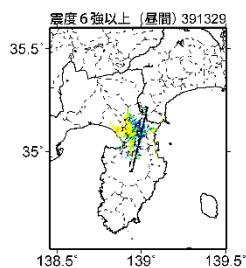
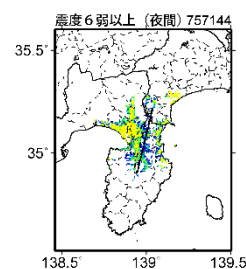
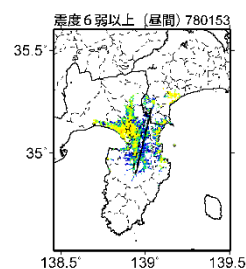
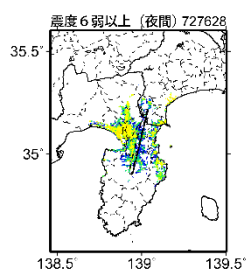
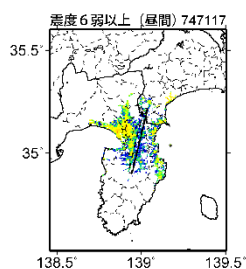
詳細法ケース 4



簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



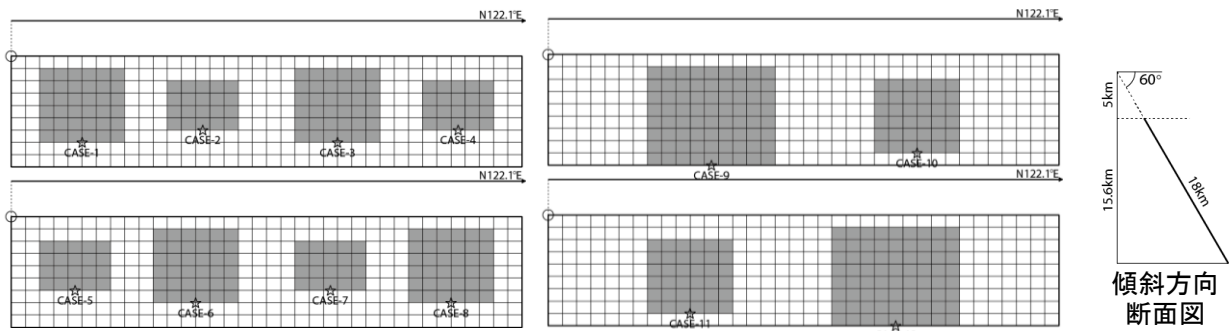
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

北伊豆断層帯 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

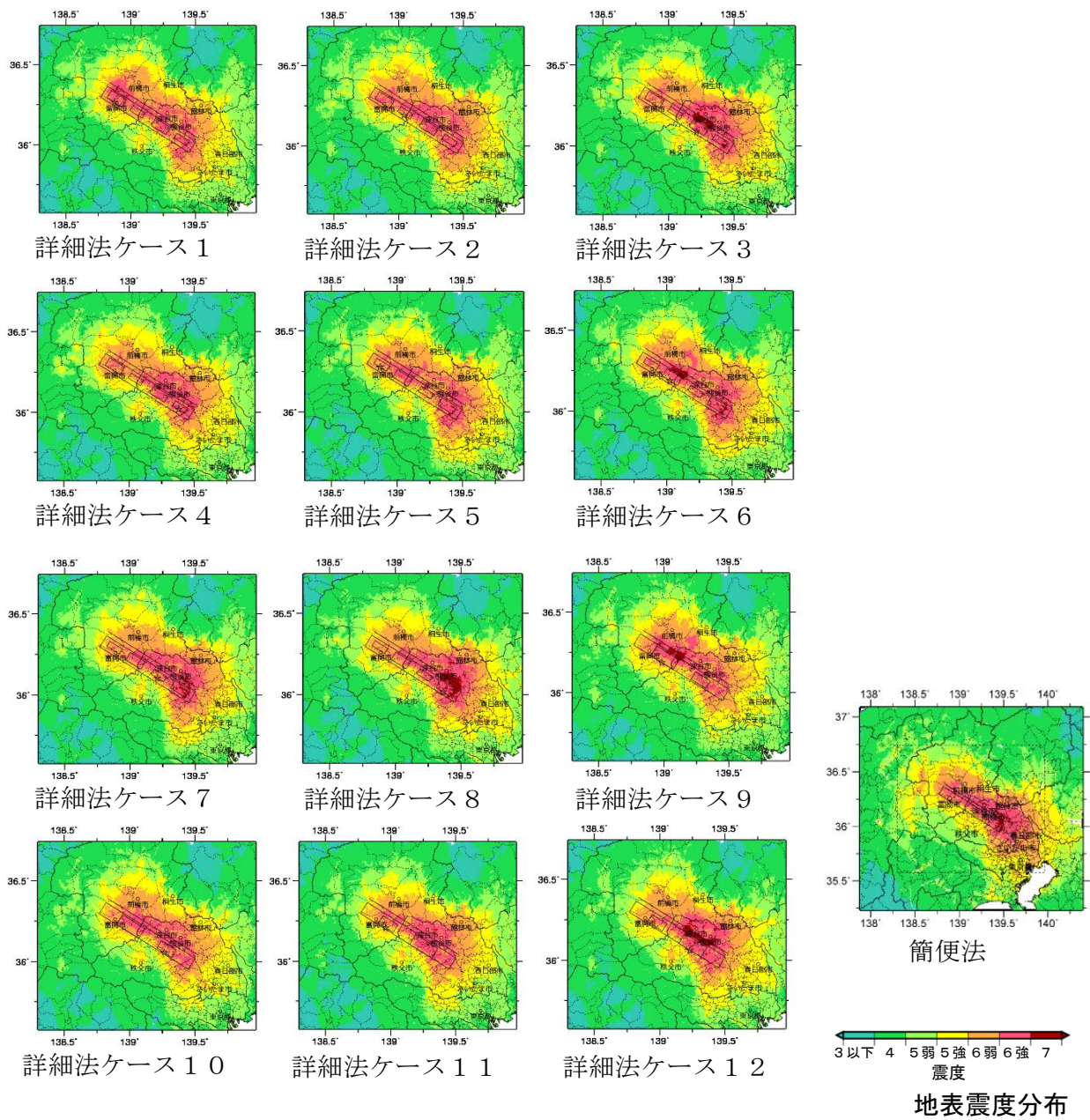
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
深谷断層帯

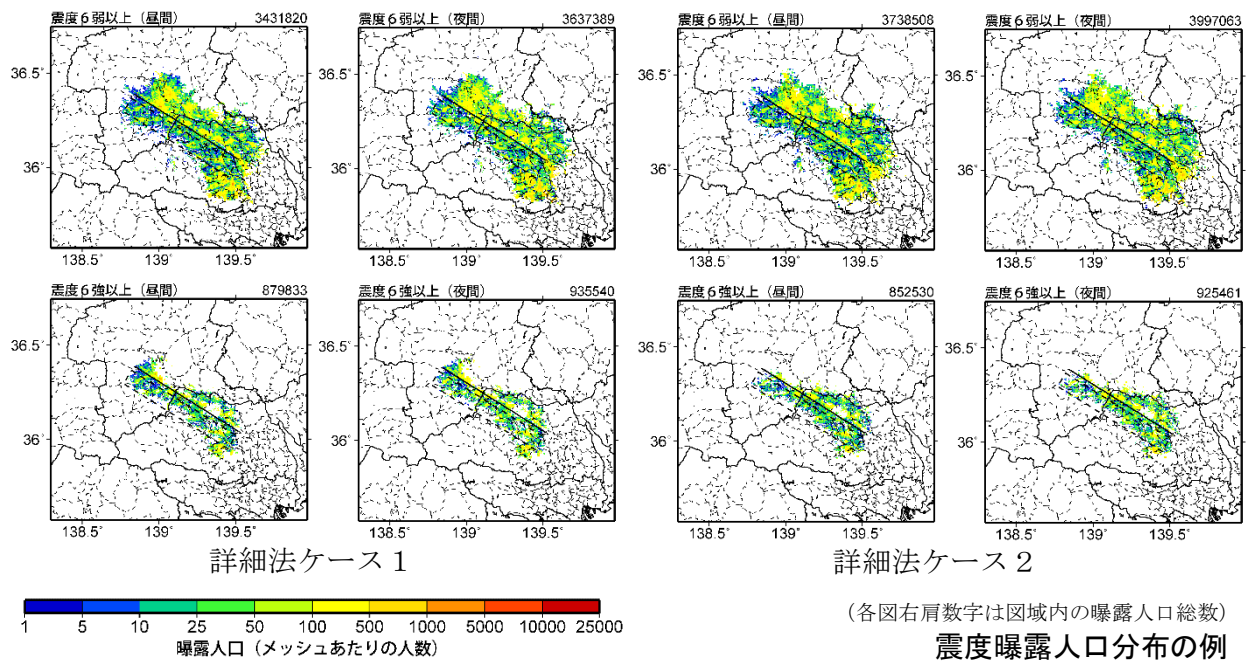
深谷断層帯（F014721）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		設定方法				
断層長さ L [km]		長期評価による		69		
地震規模 M		$M = (\log L + 2.9) / 0.6$		7.9		
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$		9.14E+19		
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = (\log M_0 - 9.1) / 1.5$		7.2		
断層モデル総面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = \Sigma S_{\text{model_seg}}$		1296		
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1/2}$		4.8		
平均すべり量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$		2.26		
断層モデル原点（地中） [°N]		長期評価に基づく		36.366		36.366
断層モデル原点（地中） [°E]		長期評価に基づく		138.821		138.821
走向 θ [度]		長期評価に基づく		122.1	122.1	122.1
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく		60.0	60.0	60.0
すべり角 λ [度]		「逆断層」		90	90	90
断層モデル上端深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方		5	5	5
断層モデル深さ下限 H_d [km]		長期評価に基づく		20	20	20
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う		36	36	72
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の（イ）の手順に従う		18	18	18
断層モデル面積 $S_{\text{model_seg}}$ [km ²]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \cdot W_{\text{model_seg}}$		648	648	1296
セグメント地震モーメント $M_{0\text{seg}}$ [Nm]		$S_{\text{model_seg}}$ の1.5乗に応じて分配		4.57E+19	4.57E+19	9.14E+19
セグメント平均すべり量 D_{seg} [m]		$D_{\text{seg}} = M_{0\text{seg}} / (\mu \cdot S_{\text{model_seg}})$		2.26	2.26	2.26
微視的震源パラメータ		設定方法		ケース 1～8		9～12
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$		2.39E+19		
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$		450.6		
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = 7/16 \cdot M_0 / (r^2 \cdot R)$		13.7		
	セグメント面積 S_{a1} [km ²]	$S_{\text{model_seg}}$ に応じて分配		225.3	225.3	450.6
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = \gamma_D \cdot D_{\text{seg}}, \gamma_D = 2.0$		4.52	4.52	4.52
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$		3.18E+19	3.18E+19	6.35E+19
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$ または $S_{a1} = S_a$		150.2	150.2	300.4
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$		13.7	13.7	13.7
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または $D_{a1} = D_a$		5.01	5.01	5.01
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ		12 × 12	12 × 12	18 × 16
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a / 3$ または 「なし」		75.1	75.1	150.2
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$ または 「なし」		13.7	13.7	13.7
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$ または 「なし」		3.54	3.54	3.54
	計算用面積 [km ²]	2kmメッシュサイズ		10 × 8	10 × 8	12 × 12
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$		422.7	422.7	845.4
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$		2.0	2.0	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$		1.05	1.05	1.05
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$		1.39E+19	1.39E+19	2.78E+19



アスペリティと破壊開始点の配置図

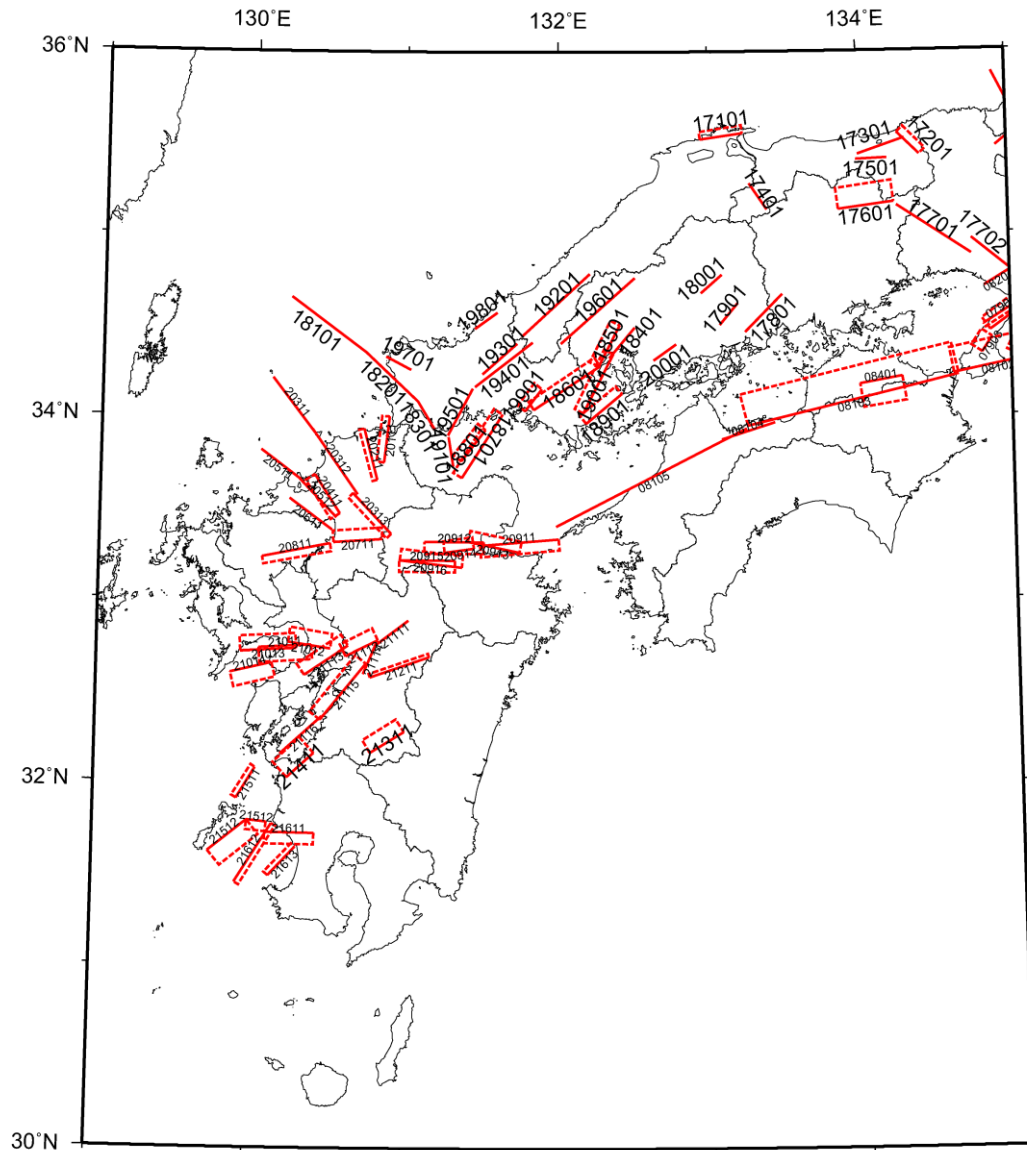




深谷断層帯

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

中国地域の地図掲載対象断層帯一覧



断層帯名称	断層番号	区間名
矢道（鹿島）断層	17101	
雨滝一釜戸断層	17201	
鹿野一吉岡断層	17301	
日南湖断層	17401	
岩坪断層	17501	
那岐山断層帯	17601	
山崎断層帯	17701	主部北西部区間
	17702	主部南東部区間
長者ヶ原一芳井断層	17801	
宇津戸断層	17901	
安田断層	18001	
菊川断層帯	18101	北部区間
	18201	中部区間
	18301	南部区間
岩国一五日市断層帯	18401	己斐断層区間
	18501	五日市断層区間
	18601	岩国断層区間

周防灘断層帯	18701	周防灘断層帯主部区間
	18801	秋穂沖断層区間
安芸灘断層帯	18901	
広島湾一岩国沖断層帯	19001	
宇部南方沖断層	19101	
弥栄断層	19201	
地福断層	19301	
大原湖断層	19401	
小郡断層	19501	
筒賀断層	19601	
滝部断層	19701	
奈古断層	19801	
栄谷断層	19901	
黒瀬断層	20001	

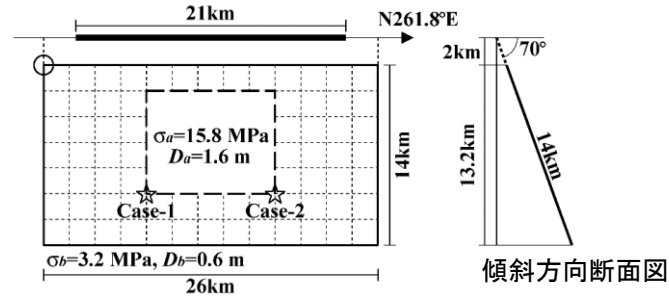
黒太字：シナリオ地震地図を更新する断層帯のうち詳細法計算も実施（長さ20km未満も含む）
 灰色字：シナリオ地震地図を更新する断層帯のうち簡便法計算のみ実施

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
宍道（鹿島）断層

宍道（鹿島）断層（F017101）の震源パラメータ

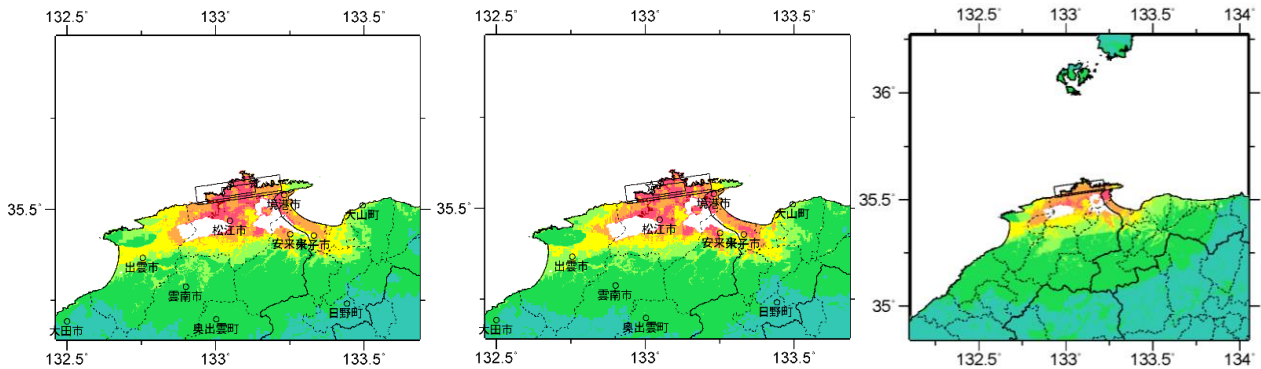
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約21kmもしくはそれ以上」	21
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.0
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	8.98E+18
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.6
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	35.552
断層モデル原点(地中) [°E]			133.223
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	261.8
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	70
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	15
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	26
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	14
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	364
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	3.2
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	0.8
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1・2
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	1.10E+19
全 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \left\{M_0 / (A \cdot R)\right\} \cdot \beta^2$	72.8
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	15.8
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.6
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	3.59E+18
1 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$	72.8
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.8
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$	1.6
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	3.59.E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 8
2 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	—	—
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	—	—
	平均すべり量 D_{a2} [m]	—	—
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	—	—
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	—	—
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	291.2
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	3.2
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.6
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	5.39E+18

F017101



傾斜方向断面図

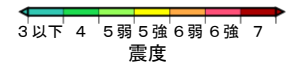
アスペリティと破壊開始点の配置図



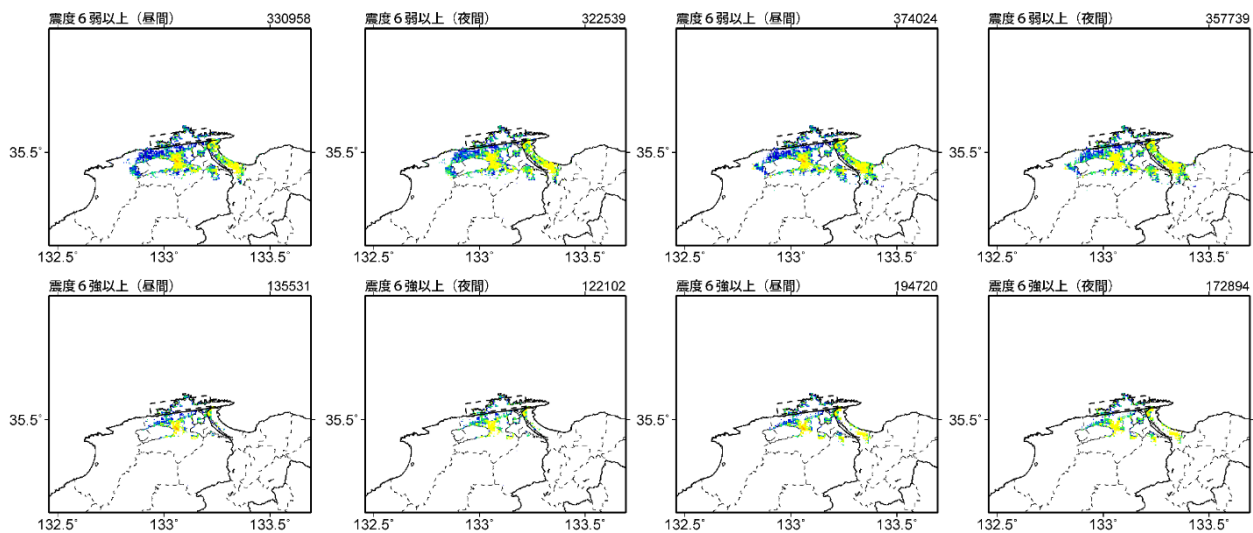
詳細法ケース 1

詳細法ケース 2

簡便法

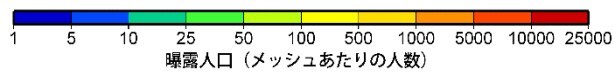


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



曝露人口 (メッシュあたりの人数)

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

宍道（鹿島）断層 震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

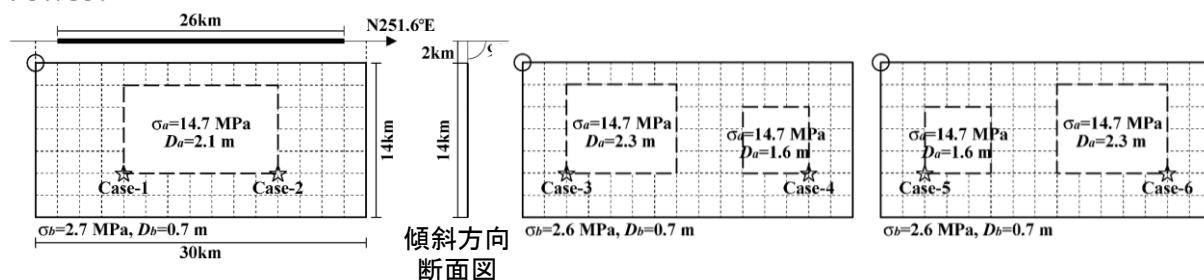
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

鹿野－吉岡断層

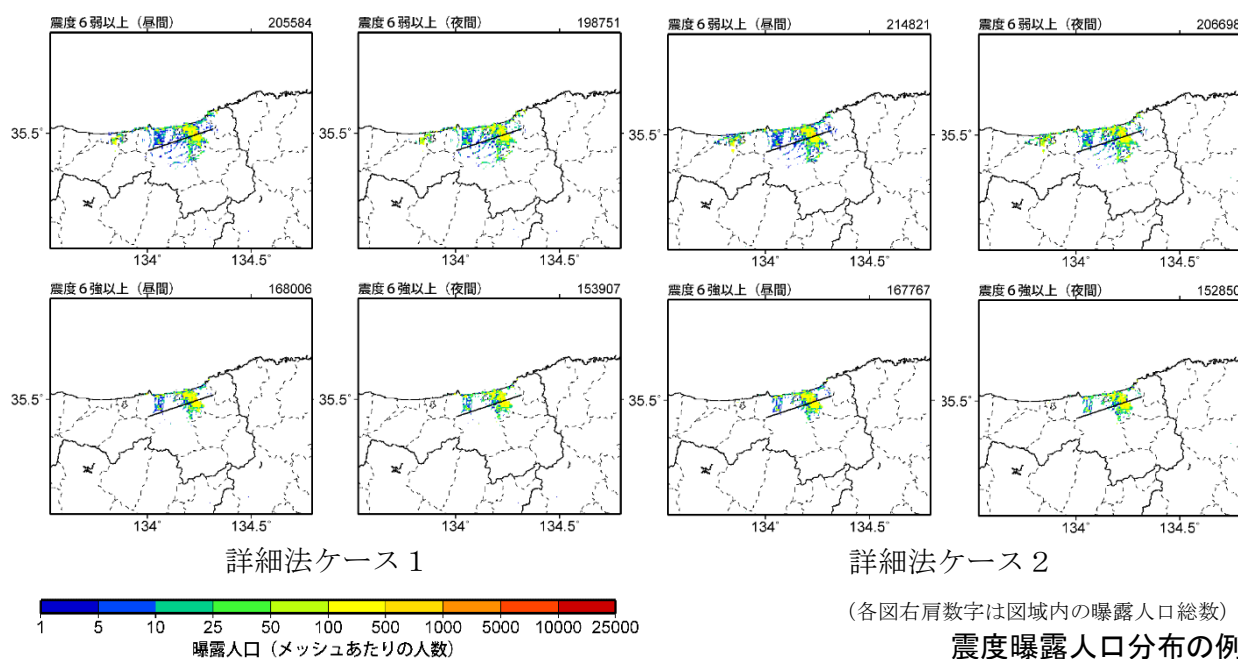
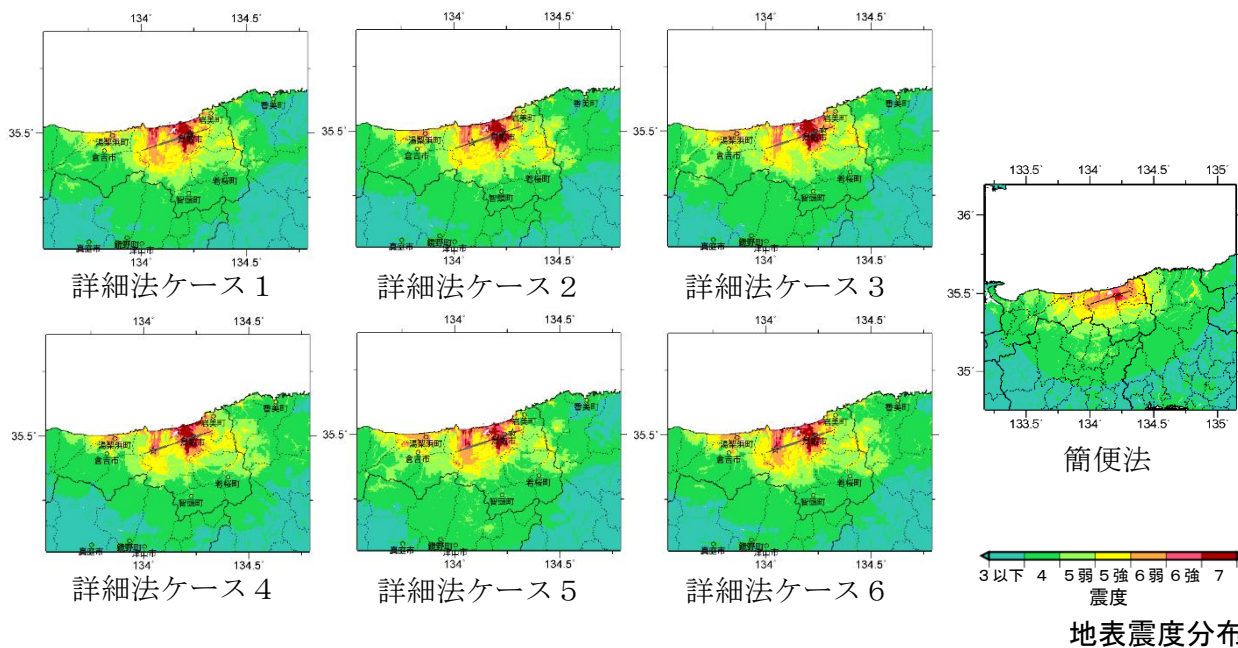
鹿野－吉岡断層（F017301）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値	
断層長さ L [km]		「約26km」	26	
地震規模 M		$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	7.2	
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	1.36E+19	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.7	
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	35.517	
断層モデル原点(地中) [°E]			134.318	
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	251.6	
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90	
すべり角 λ [度]		「横ずれ断層」	180	
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2	
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	15	
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2	
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	30	
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	14	
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	420	
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model}/\pi)^{1/2}$	3.9	
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.0	
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1・2	ケース3～6
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.27E+19	
全 ア ス ペ リ イ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	109.9	
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	14.7	
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.1	
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	7.13E+18	
1 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$ または $S_a \cdot (2/3)$	109.9	73.3
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.7	14.7
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$ または $(\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.1	2.3
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	7.13.E+18	5.27E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	14 × 8	10 × 8
2 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	—	36.6
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	—	14.7
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	—	1.6
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	—	1.86E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	—	6 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	310.1	310.1
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.7	2.6
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.7	0.7
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	6.49E+18	6.49E+18

F017301



アスペリティと破壊開始点の配置図



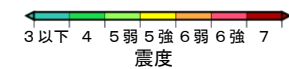
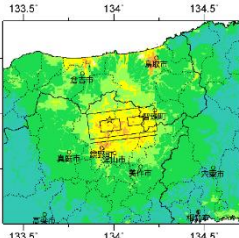
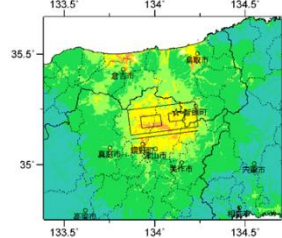
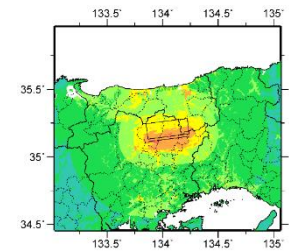
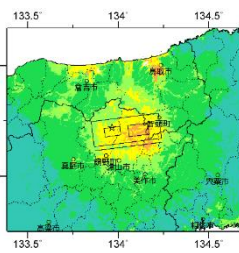
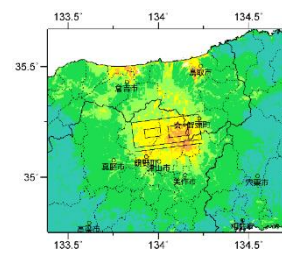
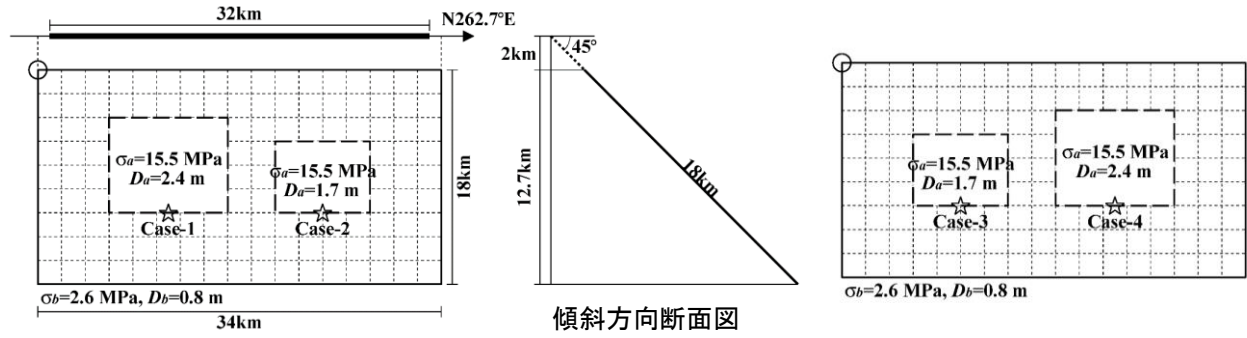
鹿野一吉岡断層
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
那岐山断層帯

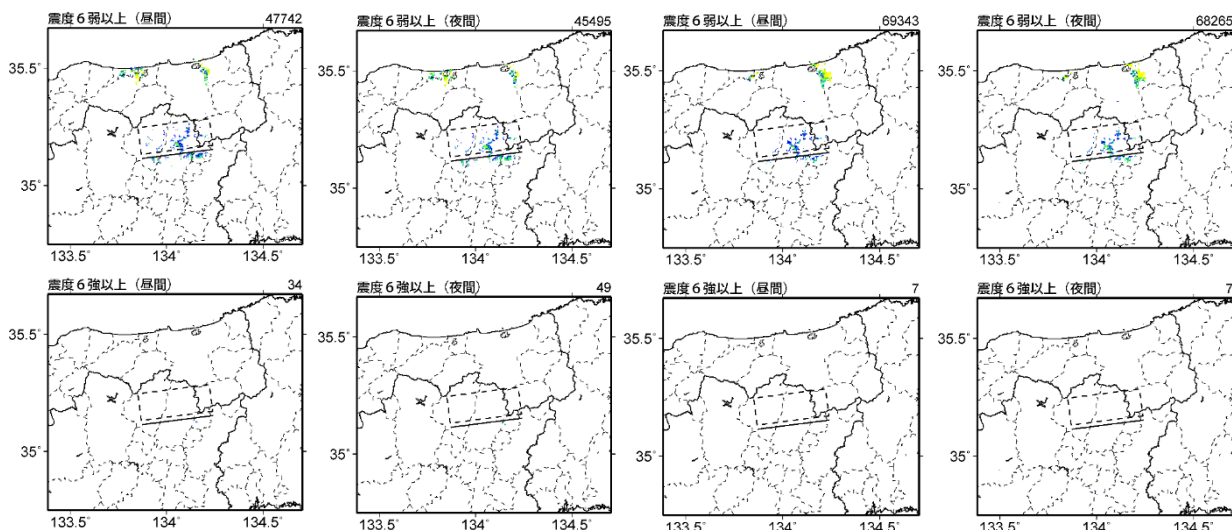
那岐山断層帯（F017601）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約32km」	32
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.3
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	2.04E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.8
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	1.000
断層モデル原点(地中) [°E]			134.239
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	262.7
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	45
すべり角 λ [度]		「北側隆起の断層(左横ずれを含む)」	90
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	34
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	612
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1/2}$	3.3
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.1
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.45E+19
全 テ ス ト ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	129.4
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	15.5
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.1
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	8.64E+18
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$	86.3
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.5
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.4
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	6.38.E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 8
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	43.1
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	15.5
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	1.7
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	2.26.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	482.6
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.6
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.8
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.18E+19

F017601



地表震度分布



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

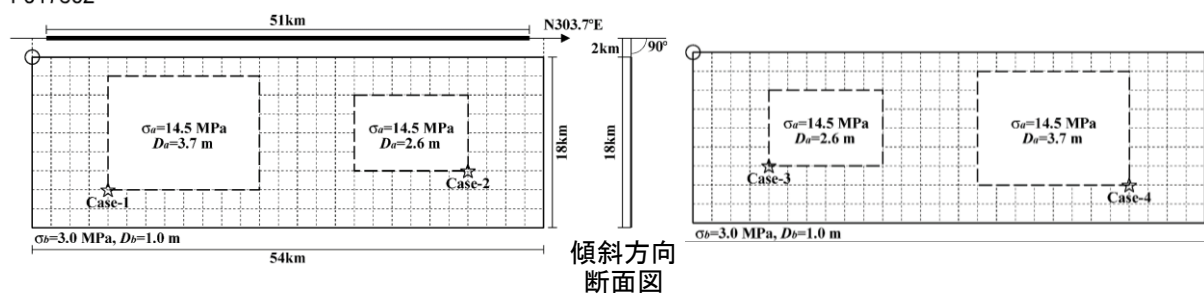
那岐山断層帯

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

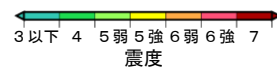
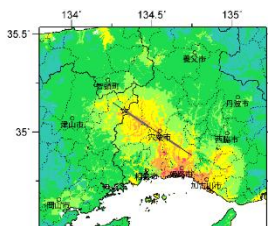
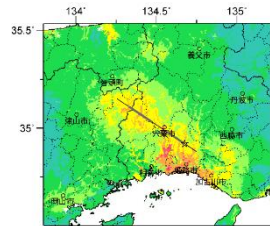
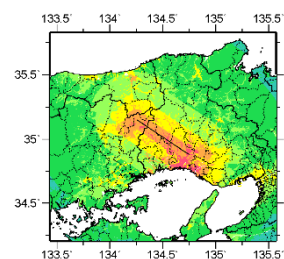
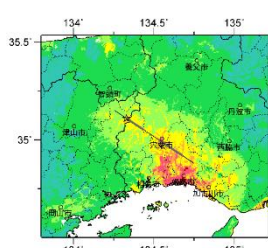
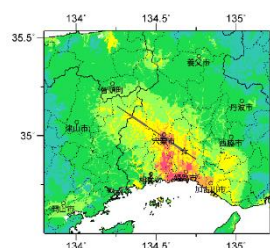
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
山崎断層帯主部北西部

山崎断層帯主部北西部（F017602）の震源パラメータ

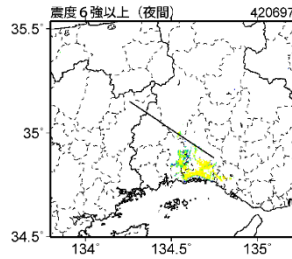
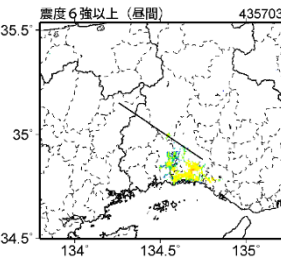
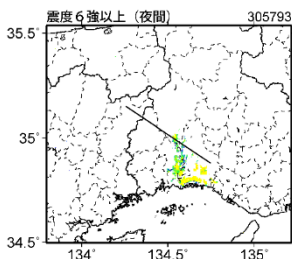
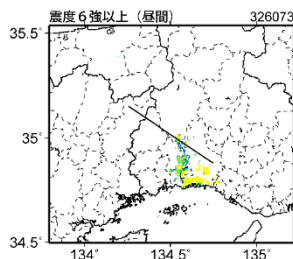
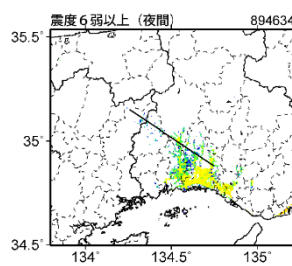
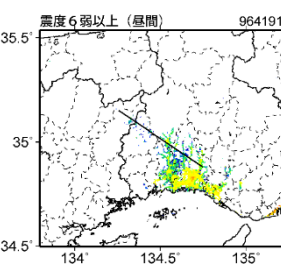
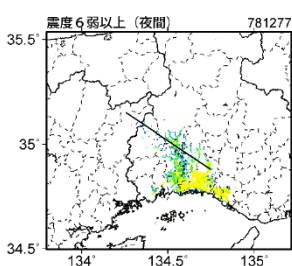
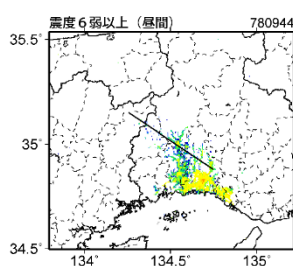
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約51km」	51
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.7
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	5.07E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.1
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.880
断層モデル原点(地中) [°E]			134.748
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	303.7
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「左横ずれ断層」	0
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{\text{top}} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	54
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \times W_{\text{model}}$	972
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1 / 2}$	4.1
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	1.7
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	1.96E+19
全 テ ス ト ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	273.8
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	14.5
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	3.3
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	2.85E+19
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2 / 3)$	182.5
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.5
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	3.7
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	2.11.E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	16 × 12
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	91.3
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	14.5
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.6
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	7.46.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	12 × 8
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	698.2
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	3.0
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	1.0
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	2.21E+19



アスペリティと破壊開始点の配置図

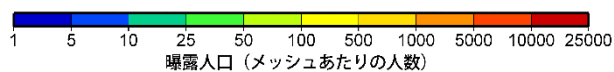


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

山崎断層帯主部北西部 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

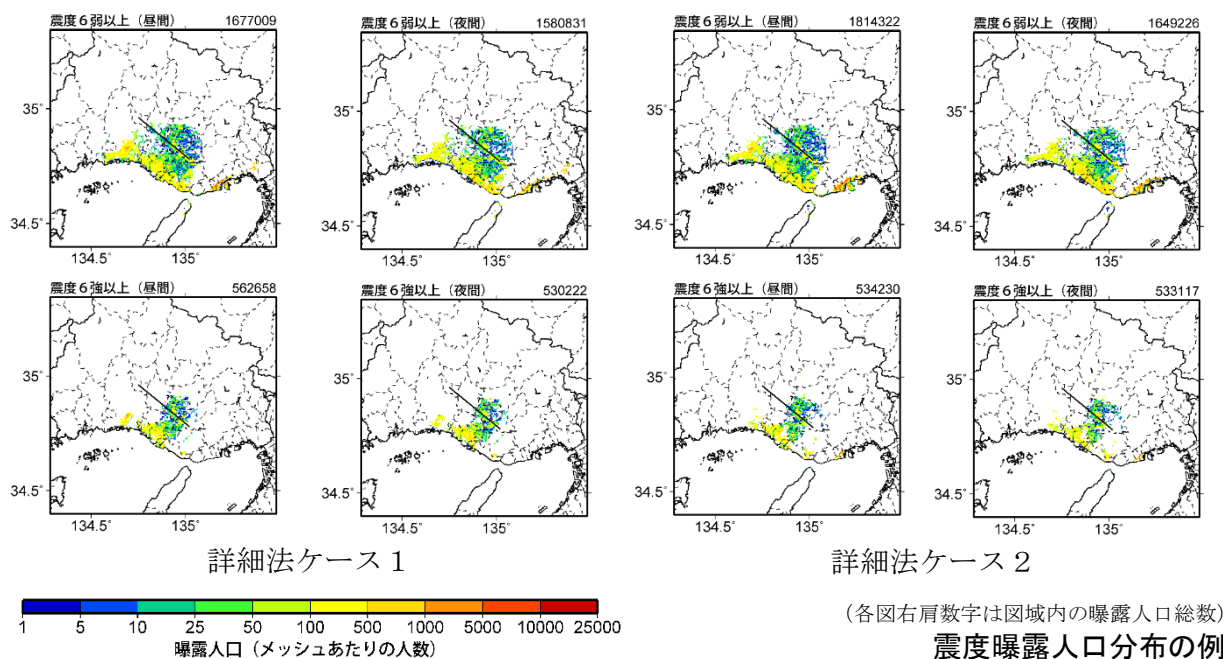
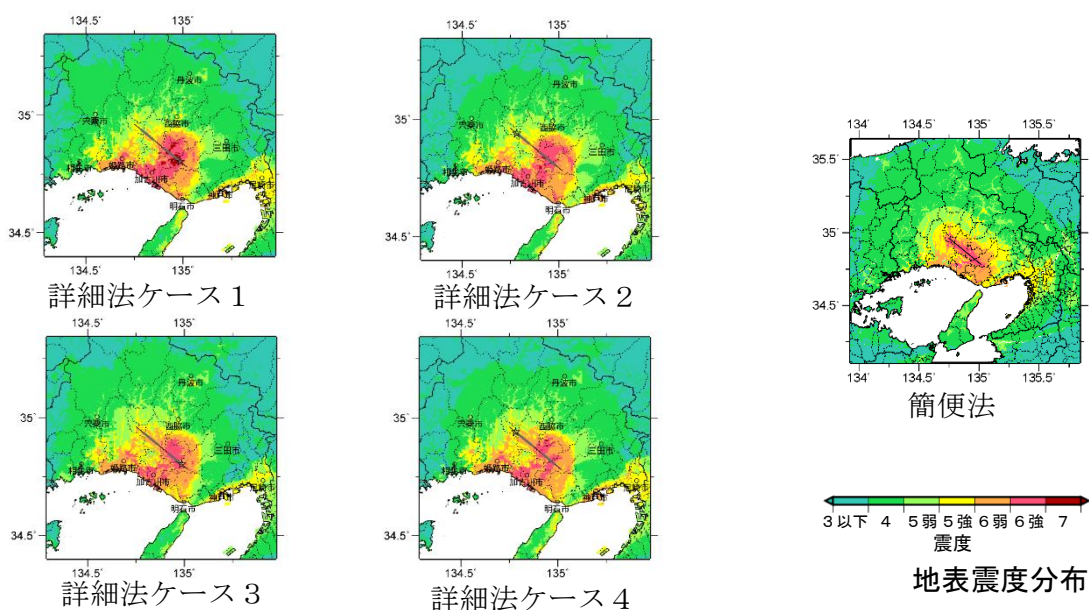
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

山崎断層帯主部南東部

山崎断層帯主部南東部（F017602）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約31km」	31
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.3
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	1.92E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.8
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.780
断層モデル原点(地中) [°E]			135.020
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	309.3
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「左横ずれ断層」	0
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	32
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	576
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1/2}$	3.4
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.1
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.42E+19
全 テ ス ト イ ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	126.6
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	15.4
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.1
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	8.44E+18
ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$	84.4
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.4
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.4
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	6.23.E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 8
ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	42.2
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	15.4
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	1.7
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	2.20.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	449.4
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.5
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.8
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.08E+19

アスペリティと破壊開始点の配置図



山崎断層帯主部南東部
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

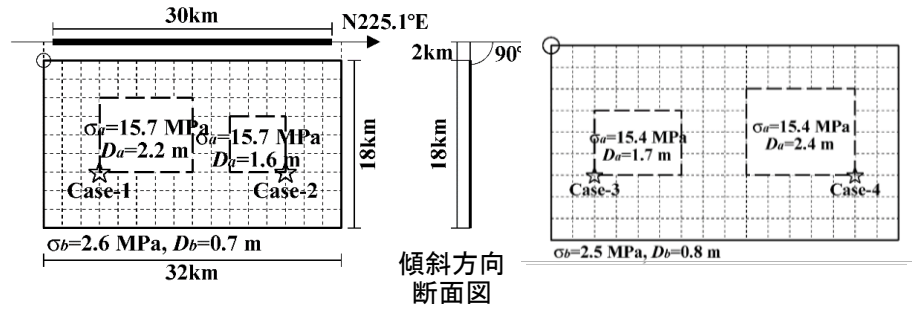
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

長者ヶ原－芳井断層

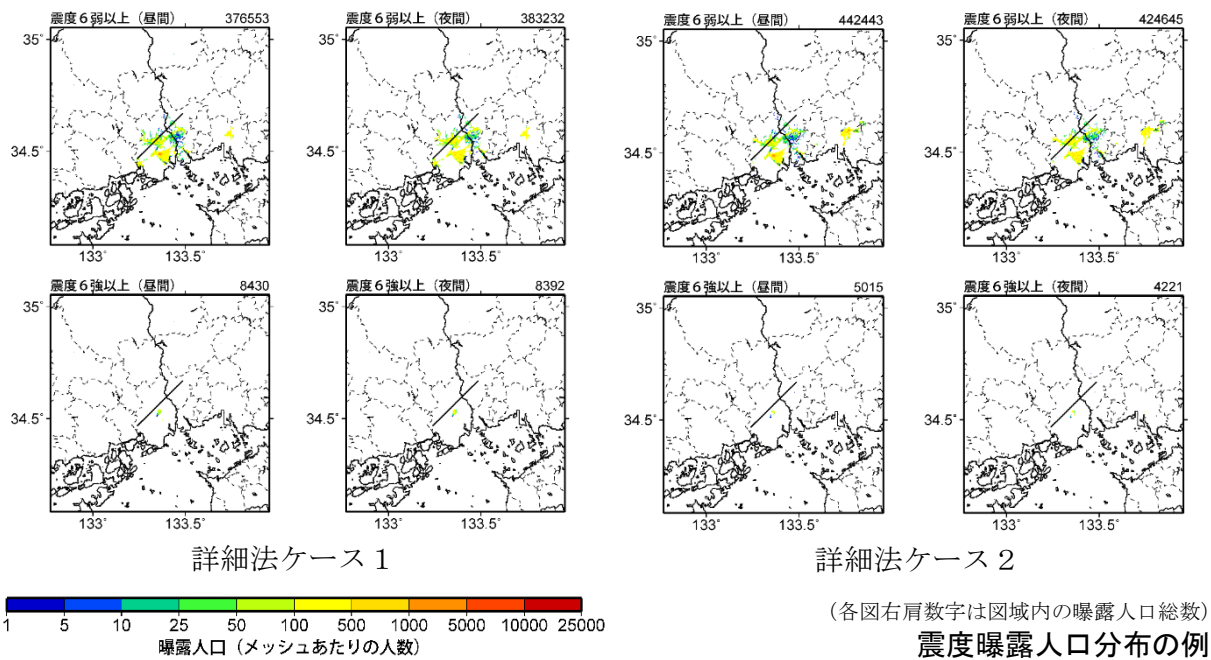
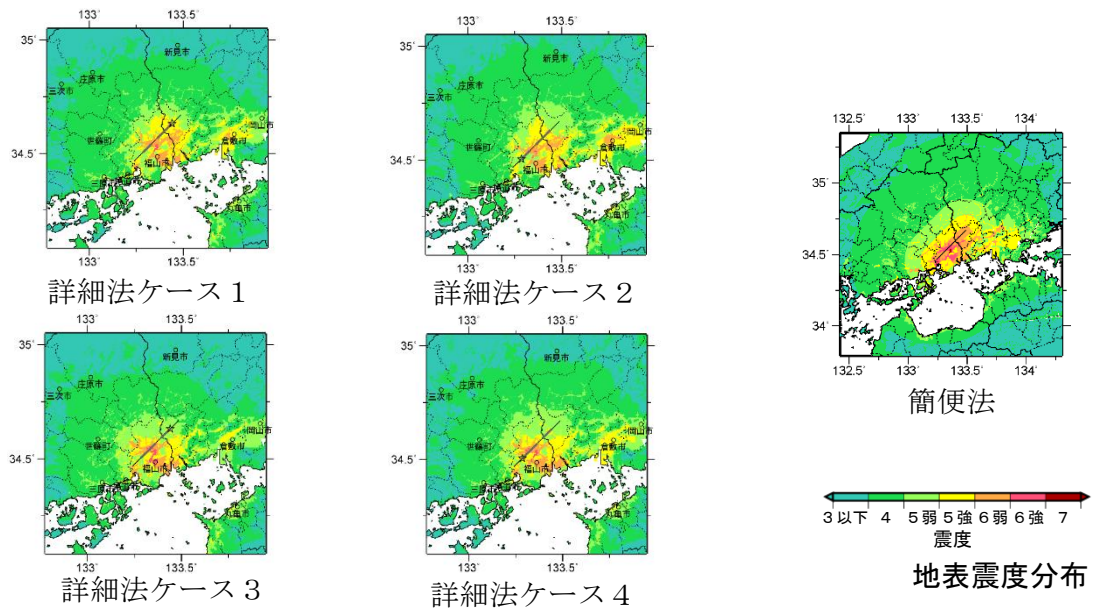
長者ヶ原－芳井断層（F017701）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約30km」	30
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.3
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	1.80E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.8
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.670
断層モデル原点(地中) [°E]			133.487
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	225.1
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	32
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	576
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	3.2
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.0
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	1.39E+19
全 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \left\{M_0 / (A \cdot R)\right\} \cdot \beta^2$	116.3
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	15.7
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.0
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	7.27E+18
1 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$ または $S_a \cdot (2 / 3)$	116.3
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.7
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$ または $(\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.0
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	7.27E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	14 × 8
2 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	38.8
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	15.7
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	1.6
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	1.90E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	6 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	459.7
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.6
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.7
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.07E+19

F017701



アスペリティと破壊開始点の配置図



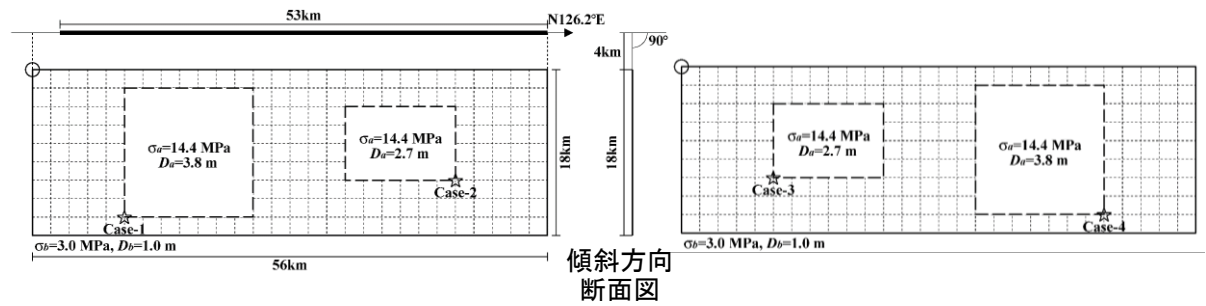
長者ヶ原－芳井断層
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
菊川断層帯北部区間

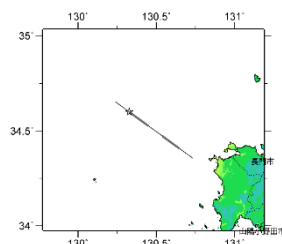
菊川断層帯北部区間（F018001）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約53km」	53
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.7
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	5.46E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.1
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.653
断層モデル原点(地中) [°E]			130.239
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	126.2
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「左横ずれ断層」	0
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	4
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	4
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	56
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	1008
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1/2}$	4.2
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.7
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	2.01E+19
全 テ ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	291.8
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	14.4
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	3.5
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	3.16E+19
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$	194.5
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.4
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	3.8
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	2.34.E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	14 × 14
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	97.3
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	14.4
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.7
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	8.26.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	12 × 8
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	716.2
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	3.0
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	1.0
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	2.30E+19

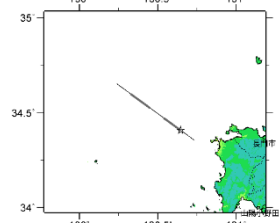
F018001



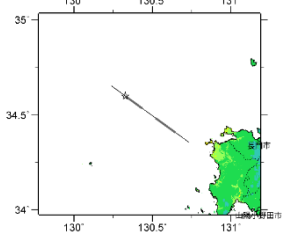
アスペリティと破壊開始点の配置図



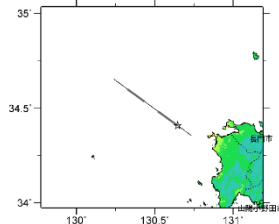
詳細法ケース 1



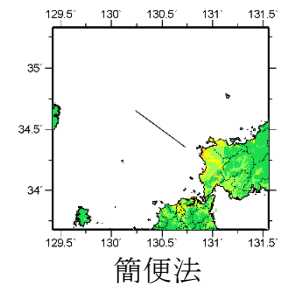
詳細法ケース 2



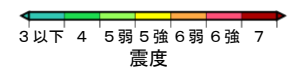
詳細法ケース 3



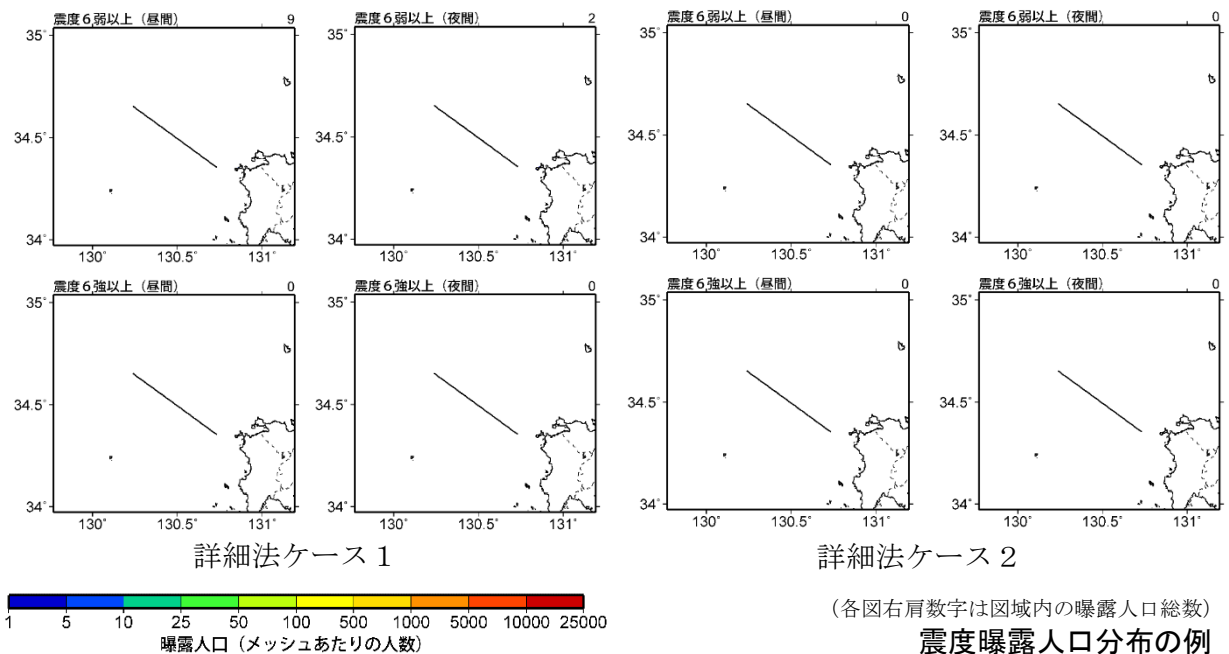
詳細法ケース 4



簡便法



地表震度分布

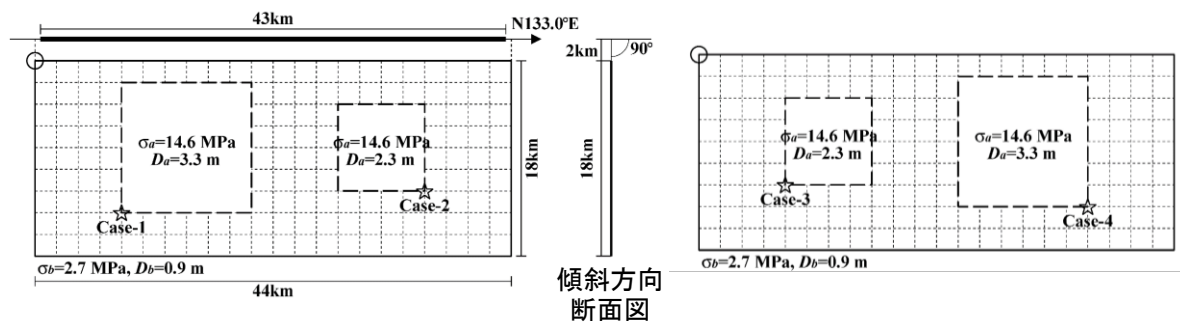


菊川断層帯北部区間
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

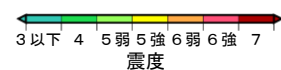
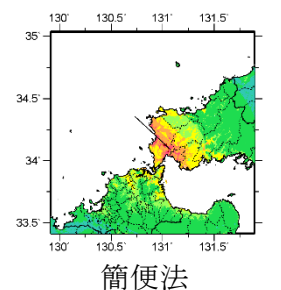
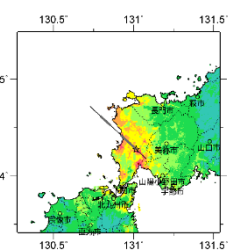
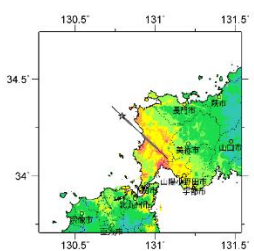
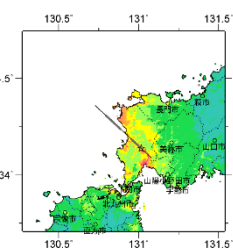
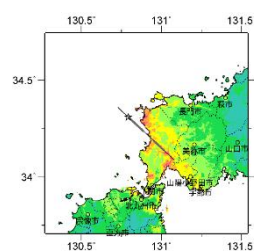
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
菊川断層帯中部区間

菊川断層帯中部区間（F018002）の震源パラメータ

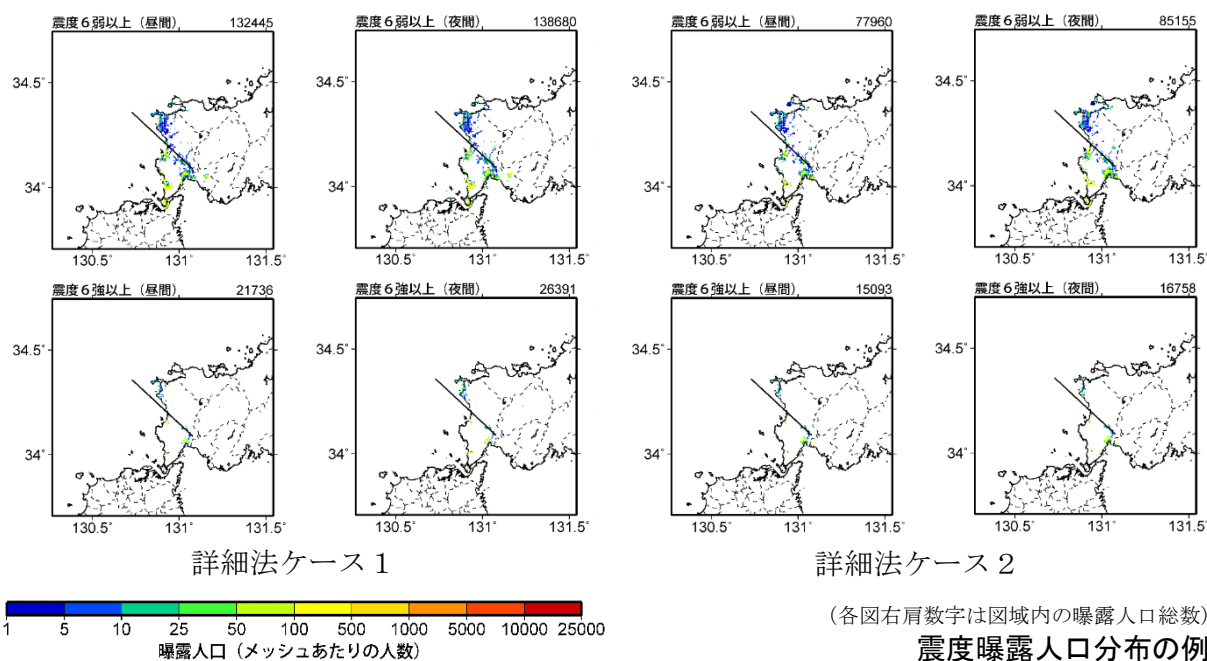
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約43km」	43
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.6
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	3.63E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.0
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.359
断層モデル原点(地中) [°E]			130.729
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	133.0
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「左横ずれ断層」	0
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	44
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	792
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	4.0
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.5
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	1.76E+19
全 テ ス ト ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	215.6
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	14.6
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.9
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.98E+19
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2 / 3)$	143.7
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.6
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	3.3
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	1.46.E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	12 × 12
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	71.9
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	14.6
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.3
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	5.17.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	8 × 8
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	576.4
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.7
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.9
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.65E+19



アスペリティと破壊開始点の配置図



地表震度分布

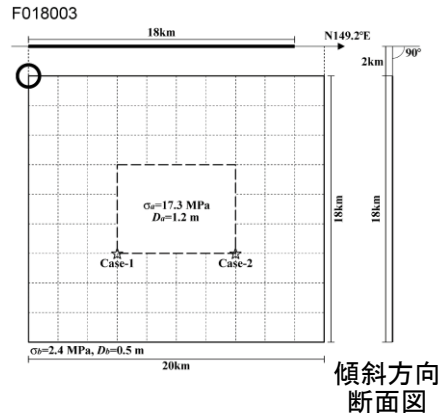


菊川断層帯中部区間
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

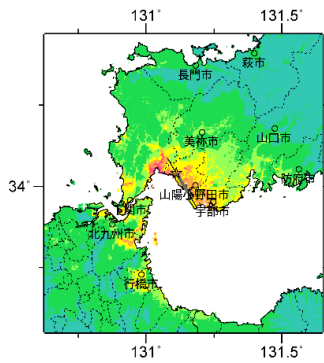
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
菊川断層帯南部区間

菊川断層帯南部区間（F018003）の震源パラメータ

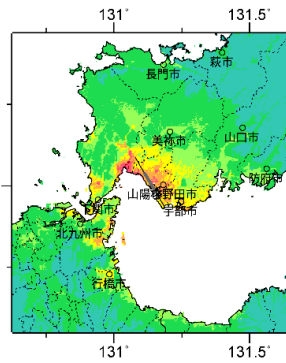
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約18kmもしくはそれ以上」	18
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	6.9
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	6.65E+18
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.5
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.087
断層モデル原点(地中) [°E]			131.078
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	149.2
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「左横ずれ断層」	0
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	20
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	360
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1/2}$	2.4
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	0.6
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1・2
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	9.97E+18
全 テ ス イ ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	49.3
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	17.3
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.2
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.82E+18
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$	49.3
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	17.3
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$	1.2
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	1.82.E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	—	—
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	—	—
	平均すべり量 D_{a2} [m]	—	—
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	—	—
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	—	—
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	310.7
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) / (D_a / W_a) \cdot \sigma_a$	2.4
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.5
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	4.83E+18



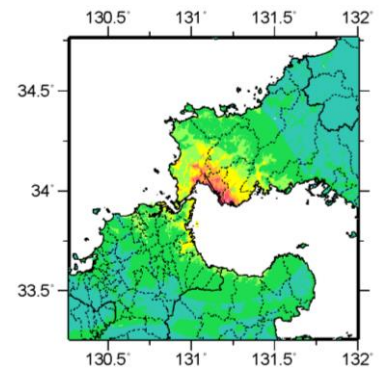
アスペリティと破壊開始点の配置図



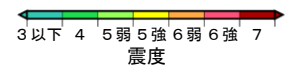
詳細法ケース 1



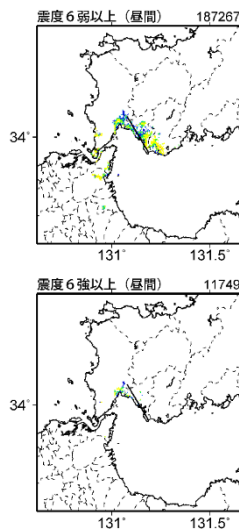
詳細法ケース 2



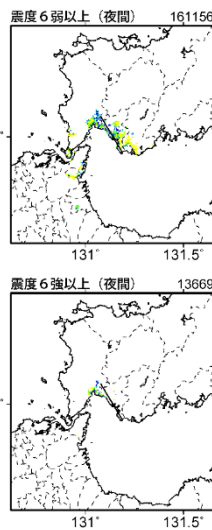
簡便法



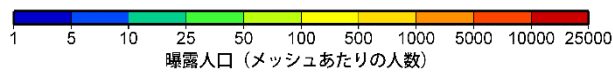
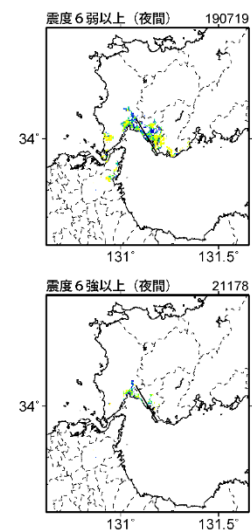
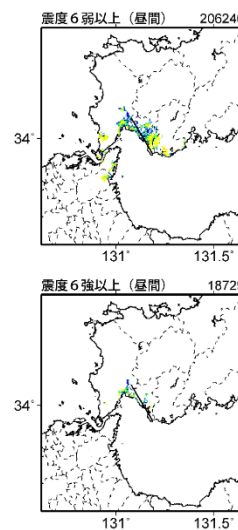
地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



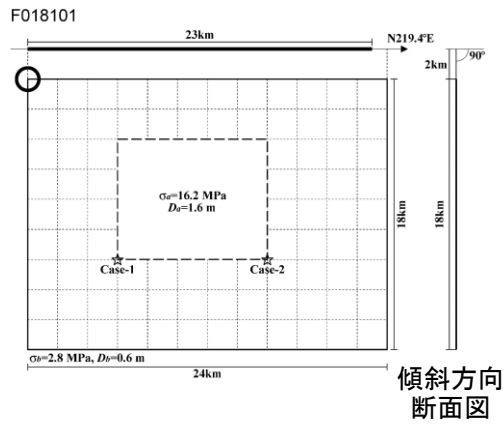
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

菊川断層帯南部区間 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

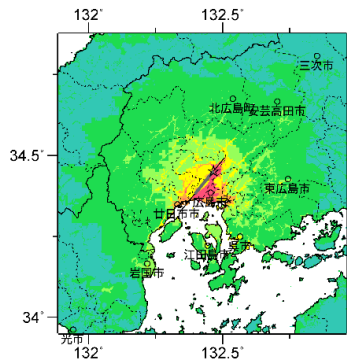
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
岩国－五日市断層帯己斐断層区間

岩国－五日市断層帯己斐断層区間（F018101）の震源パラメータ

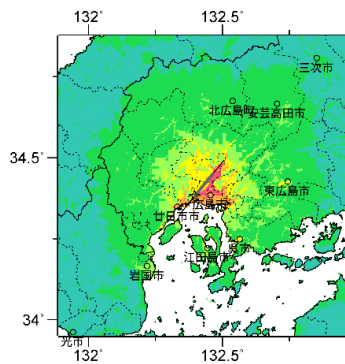
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約23km」	23
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.1
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	1.07E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.6
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.493
断層モデル原点(地中) [°E]			132.507
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	219.4
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	24
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	432
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	2.9
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	0.8
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1・2
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	1.17E+19
全 ア ス ペ リ イ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	77.7
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	16.2
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.6
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	3.86E+18
1 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$	77.7
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	16.2
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$	1.6
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	3.86.E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 8
2 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	—	—
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	—	—
	平均すべり量 D_{a2} [m]	—	—
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	—	—
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	—	—
背景 領域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	354.3
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.6
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	6.87E+18



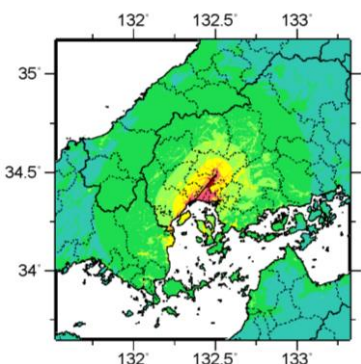
アスペリティと破壊開始点の配置図



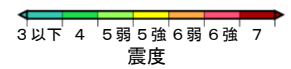
詳細法ケース 1



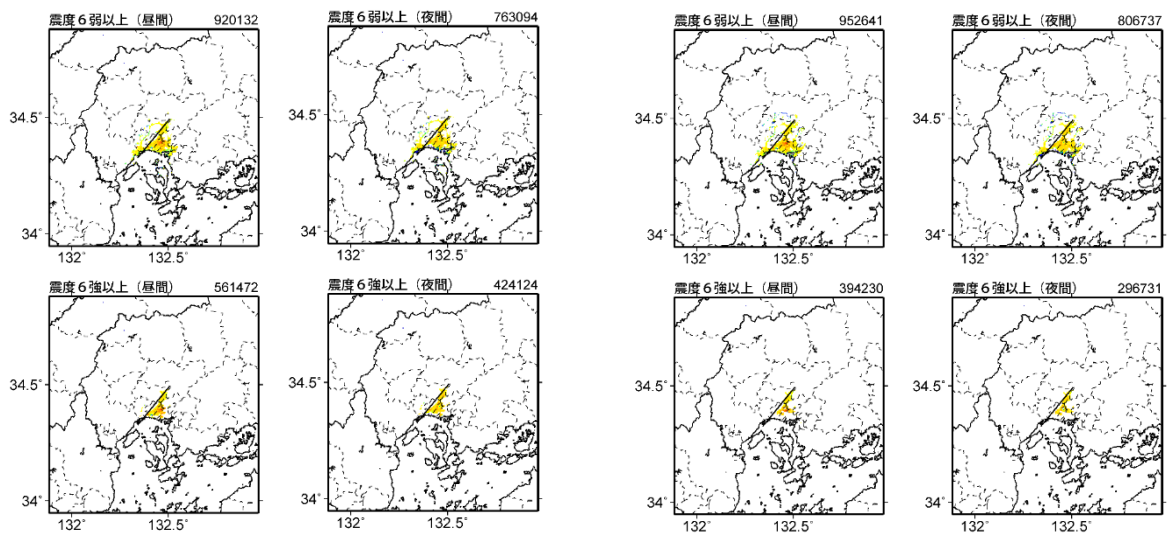
詳細法ケース 2



簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

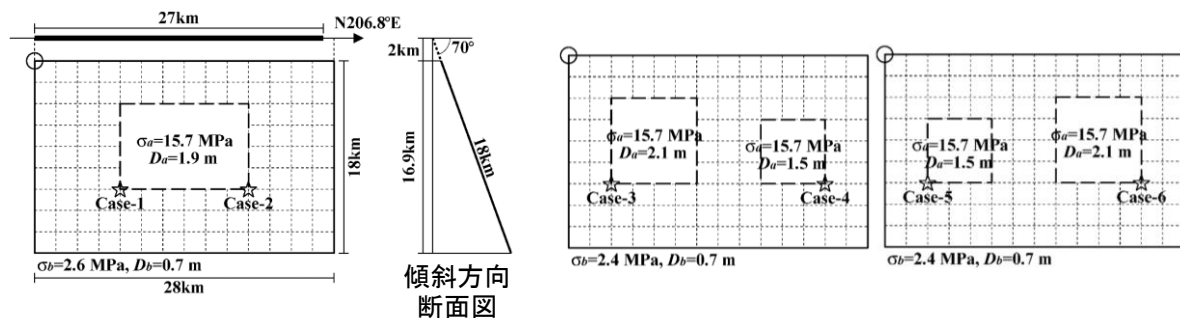
岩国一五日市断層帯己斐断層区間 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

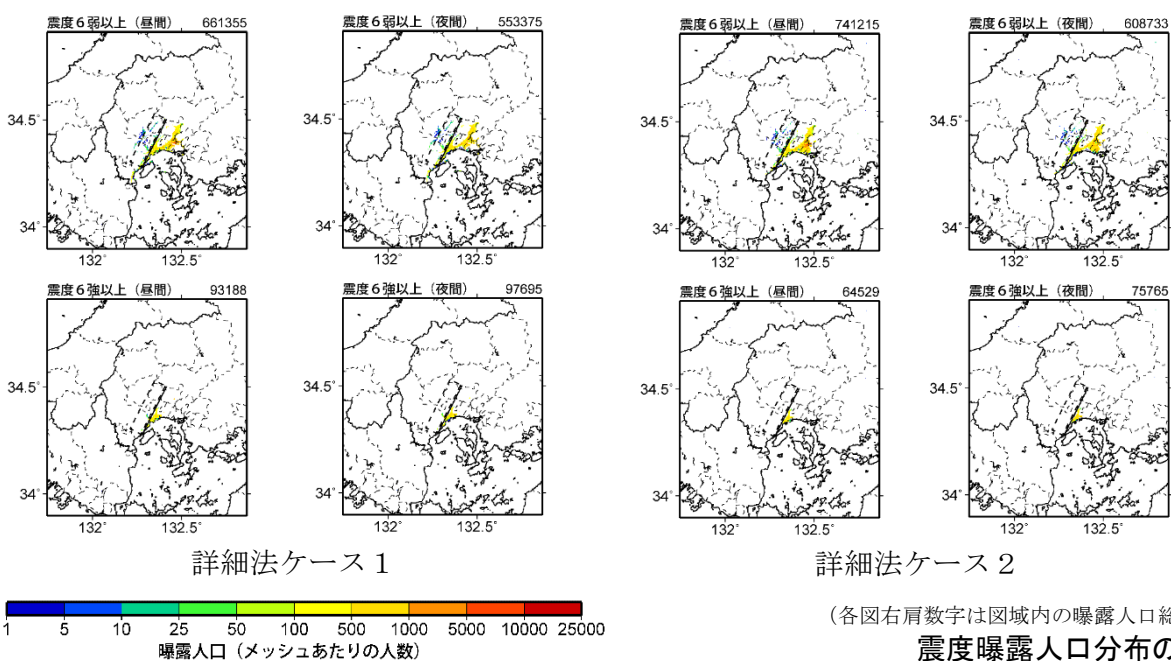
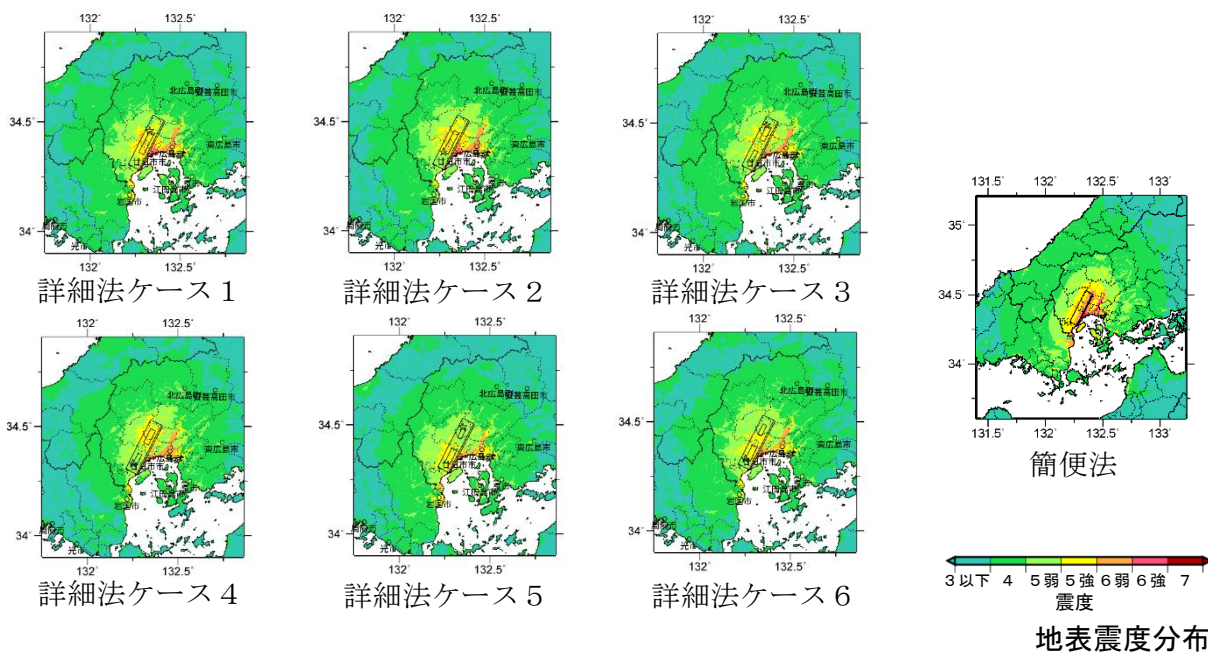
岩国－五日市断層帯五日市断層区間

岩国－五日市断層帯五日市断層区間（F018102）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値	
断層長さ L [km]		「約27km」	27	
地震規模 M		$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	7.2	
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	1.47E+19	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.7	
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.506	
断層モデル原点(地中) [°E]			132.409	
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	206.8	
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	70	
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180	
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2	
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20	
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2	
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	28	
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18	
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	504	
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model}/\pi)^{1/2}$	3.2	
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	0.9	
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1・2	ケース3～6
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.30E+19	
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	101.0	
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	15.7	
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.9	
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	5.88E+18	
1 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$ または $S_a \cdot (2/3)$	101.0	67.4
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.7	15.7
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$ または $(\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	1.9	2.1
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	5.88E+18	4.34E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	12 × 8	8 × 8
2 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	—	33.7
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	—	15.7
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	—	1.5
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	—	1.54E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	—	6 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	403.0	403.0
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.6	2.4
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.7	0.7
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	8.78E+18	8.78E+18



アスペリティと破壊開始点の配置図

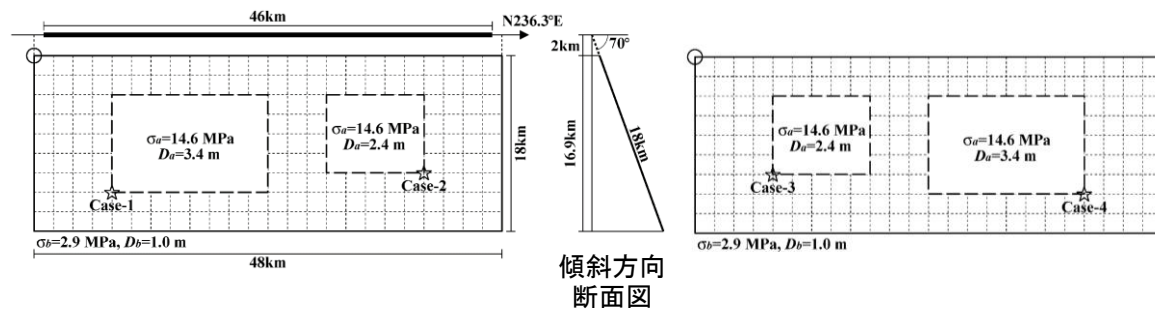


岩国―五日市断層帯五日市断層区間
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

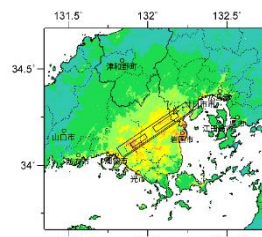
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
岩国－五日市断層帯岩国断層区間

岩国－五日市断層帯岩国断層区間（F018103）の震源パラメータ

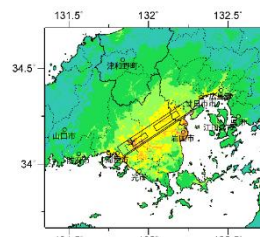
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約46km」	46
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.6
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.14E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.0
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.282
断層モデル原点(地中) [°E]			132.277
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	236.3
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	70
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{\text{top}} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	48
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = L_{\text{model}} \times W_{\text{model}}$	864
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}}/\pi)^{1/2}$	4.0
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	1.5
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.83E+19
全 テ ス ト ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	235.5
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	14.6
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	3.1
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	2.26E+19
ア ス ペ リ テ ィ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$	157.0
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.6
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	3.4
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	1.67.E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	16 × 10
ア ス ペ リ テ ィ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	78.5
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	14.6
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.4
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	5.90.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 8
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	628.5
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.9
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	1.0
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.88E+19



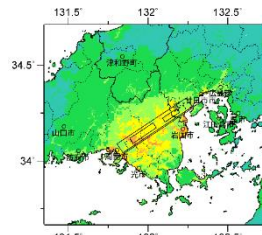
アスペリティと破壊開始点の配置図



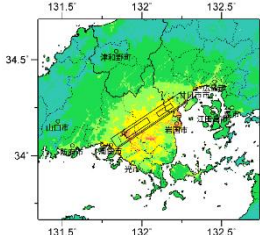
詳細法ケース 1



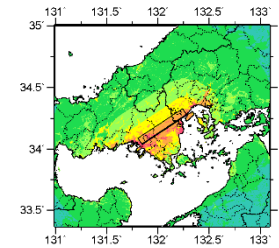
詳細法ケース 2



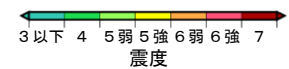
詳細法ケース 3



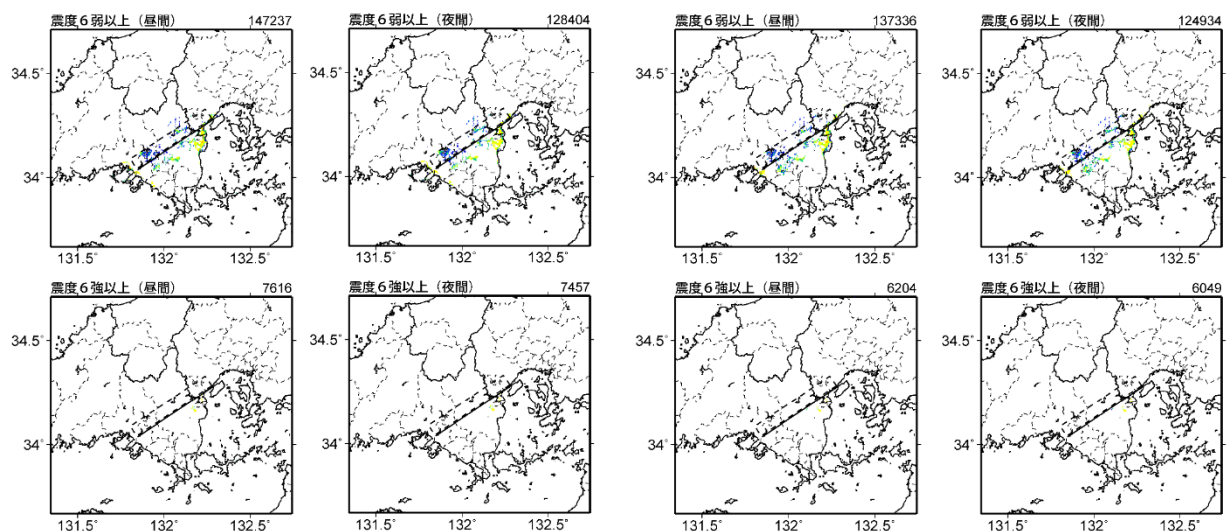
詳細法ケース 4



簡便法

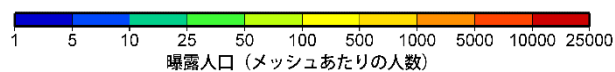


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

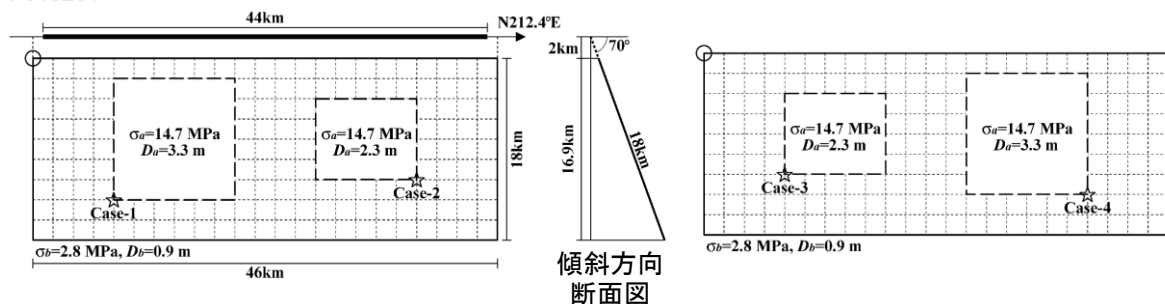
震度曝露人口分布の例

岩国―五日市断層帯岩国断層区間 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

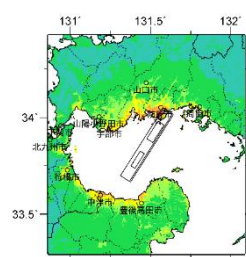
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
周防灘断層帯主部区間

周防灘断層帯主部区間（F018201）の震源パラメータ

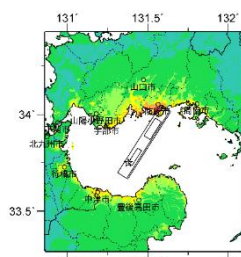
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約44km」	44
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.6
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	3.80E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.0
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.019
断層モデル原点(地中) [°E]			131.673
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	212.4
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	70
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	46
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	828
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	3.9
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.5
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	1.78E+19
全 テ ス イ ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	218.9
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	14.7
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.9
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	2.01E+19
ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2 / 3)$	146.0
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.7
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	3.3
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	1.48.E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	12 × 12
ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	73.0
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	14.7
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.3
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	5.25.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 8
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	609.1
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.9
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.79E+19



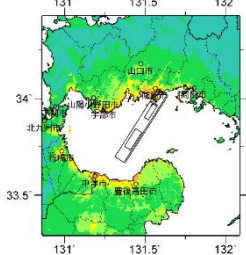
アスペリティと破壊開始点の配置図



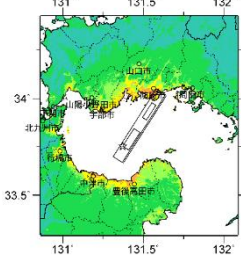
詳細法ケース 1



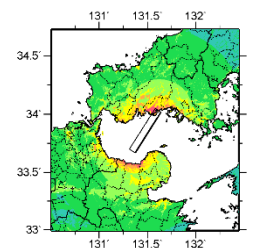
詳細法ケース 2



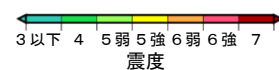
詳細法ケース 3



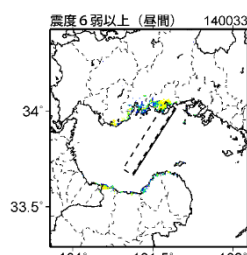
詳細法ケース 4



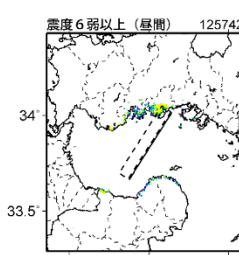
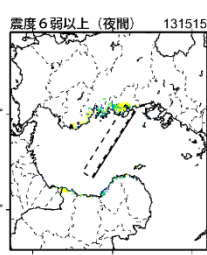
簡便法



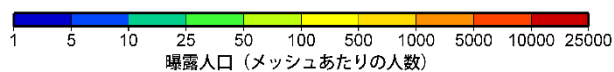
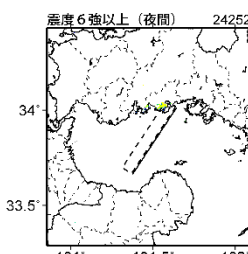
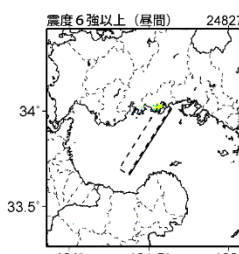
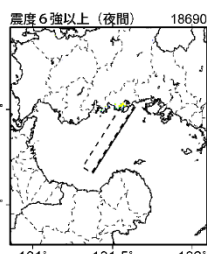
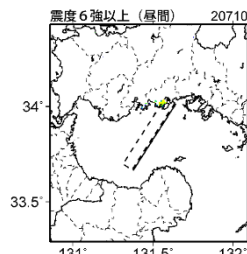
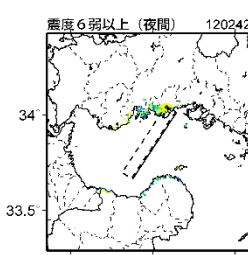
地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



曝露人口 (メッシュあたりの人数)

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

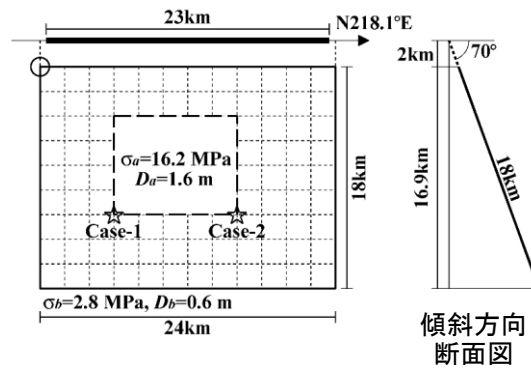
周防灘断層帯主部区間 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
周防灘断層帯秋穂冲断層区間

周防灘断層帯秋穂冲断層区間（F018202）の震源パラメータ

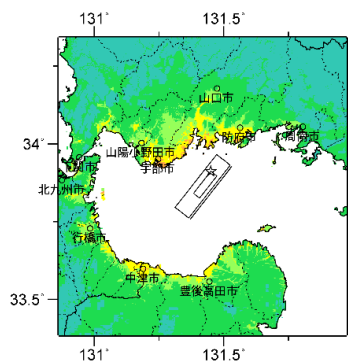
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約23km」	23
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.1
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	1.07E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.6
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	33.932
断層モデル原点(地中) [°E]			131.525
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	218.1
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	70
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	24
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	432
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model}/\pi)^{1/2}$	2.9
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	0.8
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1・2
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.17E+19
全 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	77.7
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	16.2
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.6
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	3.86E+18
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$	77.7
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	16.2
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$	1.6
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	3.86.E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 8
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	—	—
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	—	—
	平均すべり量 D_{a2} [m]	—	—
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	—	—
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	—	—
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	354.3
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.6
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	6.87E+18

F018202

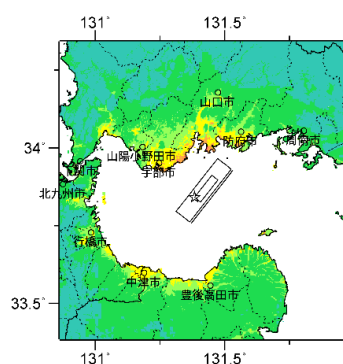


傾斜方向
断面図

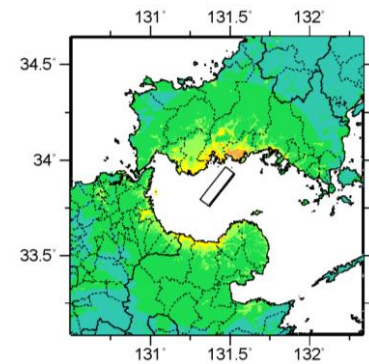
アスペリティと破壊開始点の配置図



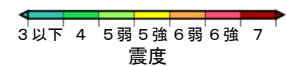
詳細法ケース 1



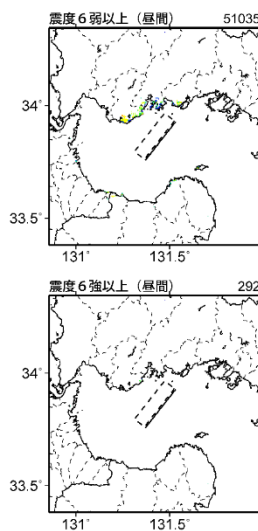
詳細法ケース 2



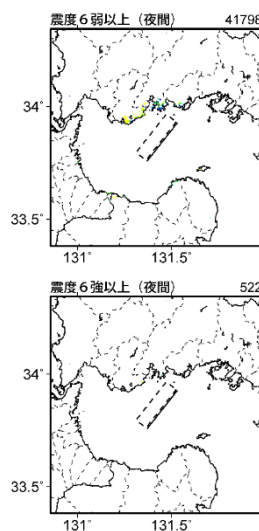
簡便法



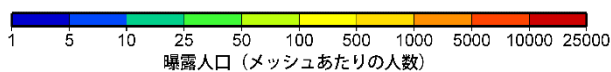
地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



曝露人口 (メッシュあたりの人数)

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

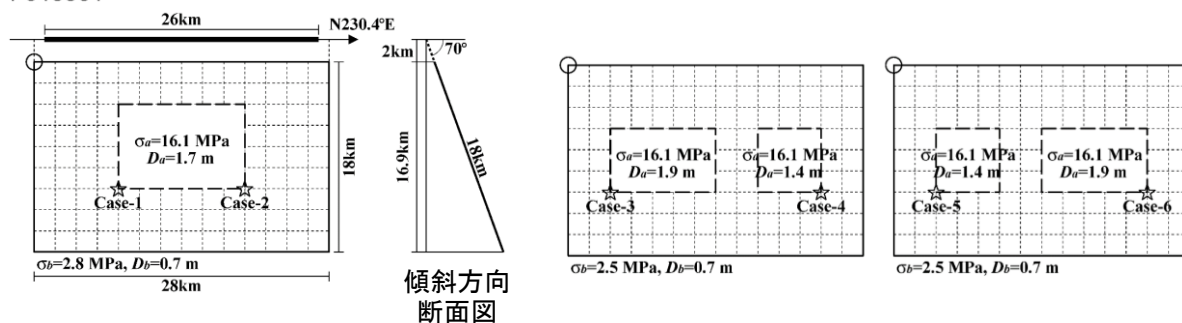
周防灘断層帯秋穂沖断層区間 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
安芸灘断層帯

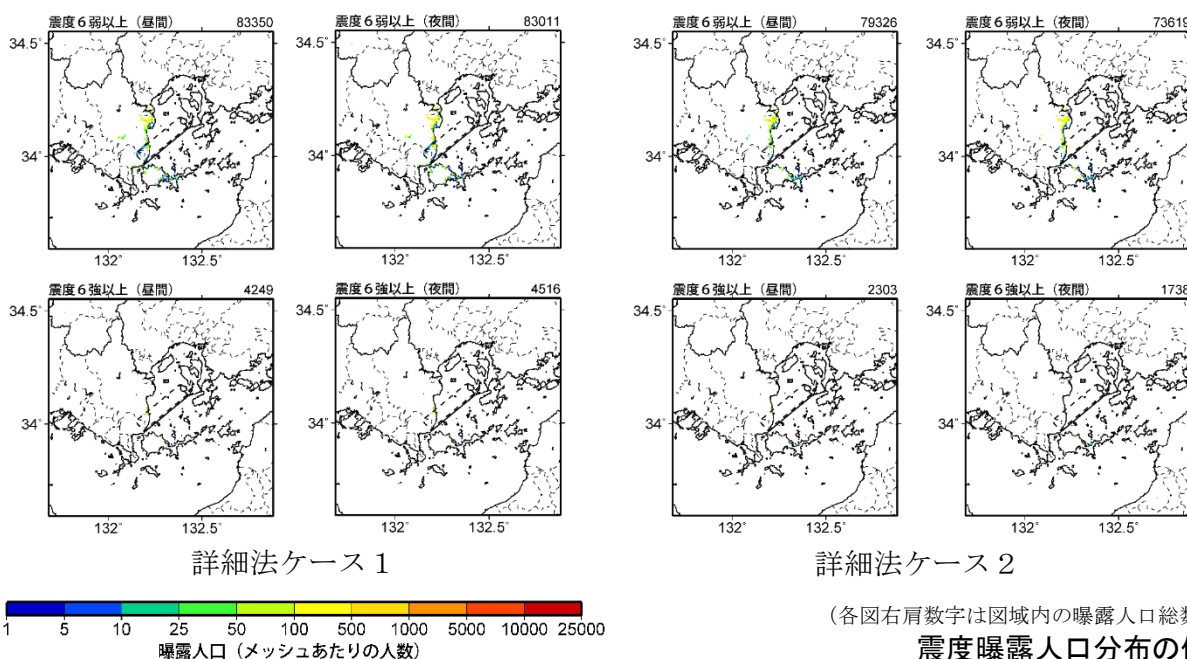
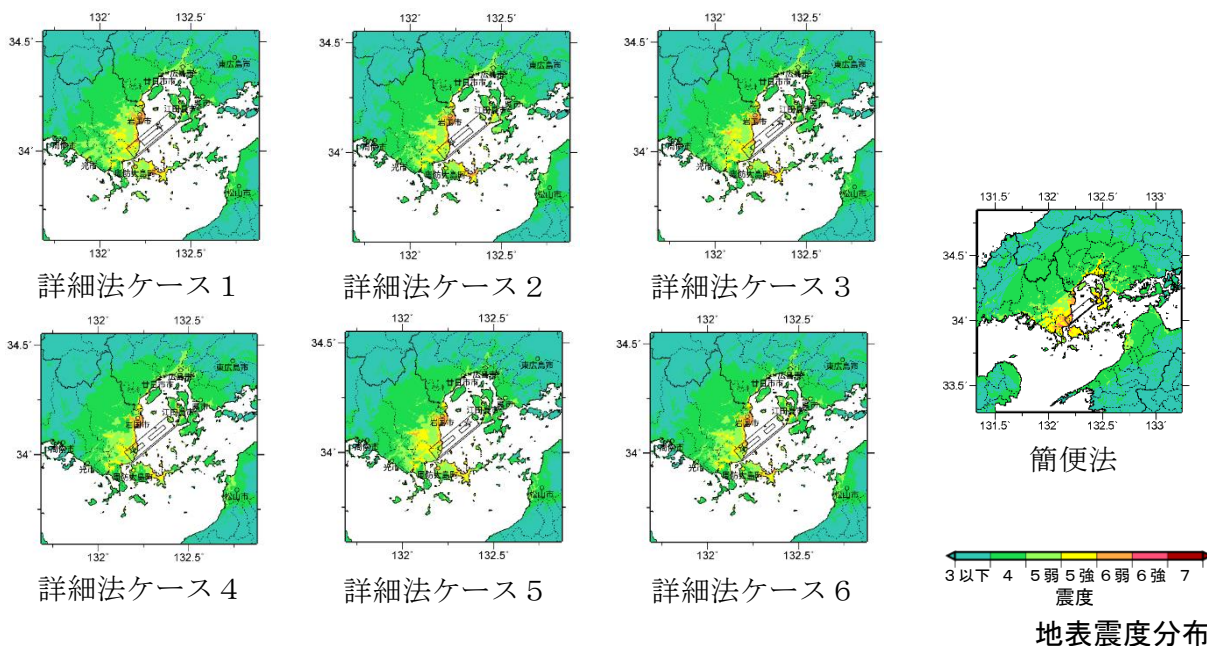
安芸灘断層帯（F018301）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法		設定値	
断層長さ L [km]		「約26km」		26	
地震規模 M		$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$		7.2	
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$		1.36E+19	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$		6.7	
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端		34.130	
断層モデル原点(地中) [°E]				132.422	
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向		230.4	
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく		70	
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」		180	
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方		2	
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく		20	
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$		2	
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う		28	
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う		18	
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$		504	
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model}/\pi)^{1/2}$		2.9	
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$		0.9	
微視的震源パラメータ		設定方法		ケース1・2	ケース3～6
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$		1.27E+19	
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$		91.6	
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$		16.1	
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$		1.7	
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$		4.95E+18	
ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$ または $S_a \cdot (2/3)$		91.6	61.1
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$		16.1	16.1
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$ または $(\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$		1.7	1.9
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$		4.95E+18	3.66E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ		12 × 8	10 × 6
ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$		—	30.5
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$		—	16.1
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$		—	1.4
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$		—	1.29E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ		—	6 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$		412.4	412.4
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$		2.8	2.5
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$		0.7	0.7
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$		8.67E+18	8.67E+18

F018301



アスペリティと破壊開始点の配置図

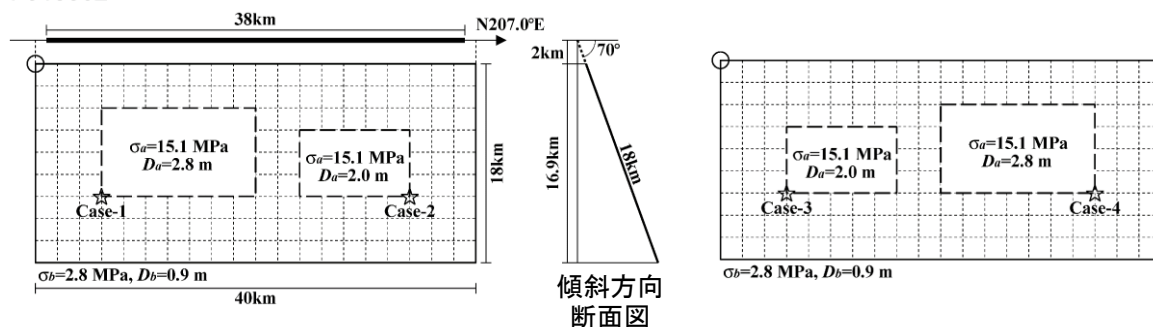


安芸灘断層帯
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

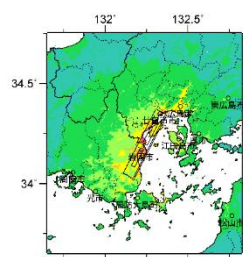
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
広島湾－岩国沖断層帯

広島湾－岩国沖断層帯（F018302）の震源パラメータ

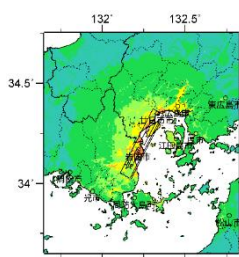
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約38km」	38
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.5
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	2.85E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.9
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.347
断層モデル原点(地中) [°E]			132.366
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	207.0
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	70
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	40
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	720
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	3.6
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.3
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	1.62E+19
全 テ ス ト ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \left\{M_0 / (A \cdot R)\right\} \cdot \beta^2$	172.0
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	15.1
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.5
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.36E+19
ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2 / 3)$	114.7
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.1
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.8
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	1.01.E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	14 × 8
ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	57.3
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	15.1
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.0
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	3.56.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	548.0
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.9
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.49E+19



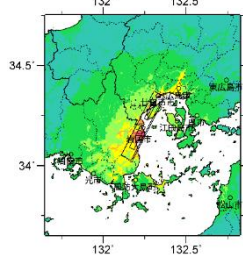
アスペリティと破壊開始点の配置図



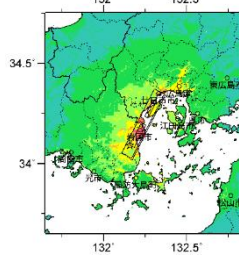
詳細法ケース 1



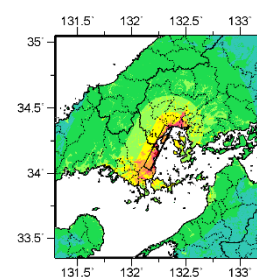
詳細法ケース 2



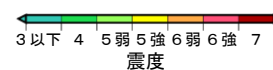
詳細法ケース 3



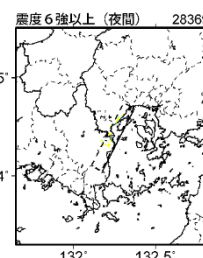
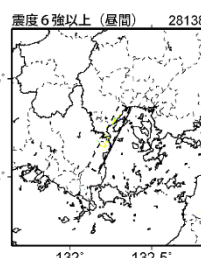
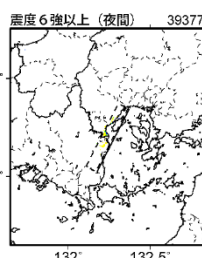
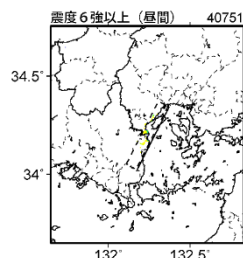
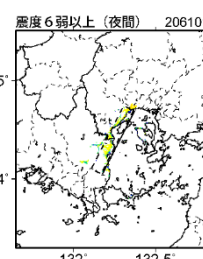
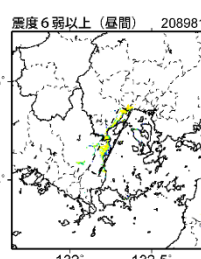
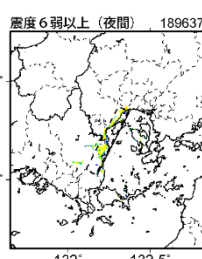
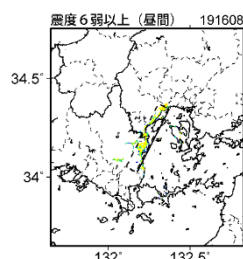
詳細法ケース 4



簡便法

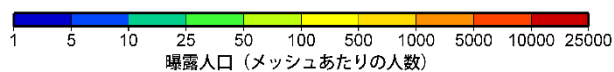


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2

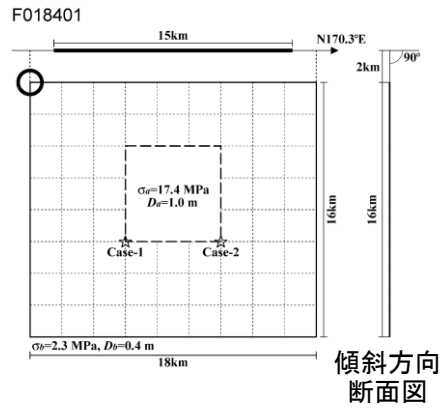
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

広島湾一岩国沖断層帯 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

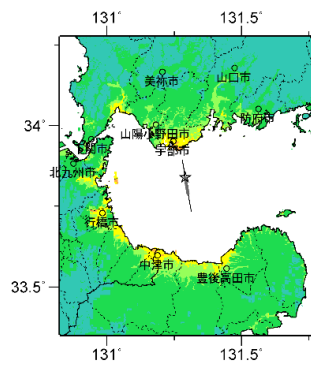
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
宇部南方沖断層

宇部南方沖断層（F018401）の震源パラメータ

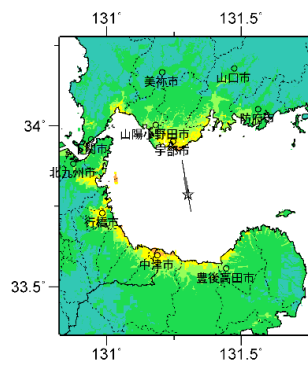
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約15km」	15
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	33.893
断層モデル原点(地中) [°E]			131.280
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	170.3
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「左横ずれ断層」	0
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	16
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	288
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	2.3
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	0.5
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1・2
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	8.85E+18
全 テ ス イ ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	38.4
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	17.4
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.0
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.24E+18
1 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$	38.4
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	17.4
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$	1.0
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	1.24.E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	6 × 6
2 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	—	—
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	—	—
	平均すべり量 D_{a2} [m]	—	—
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	—	—
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	—	—
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	249.6
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.3
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.4
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	3.42E+18



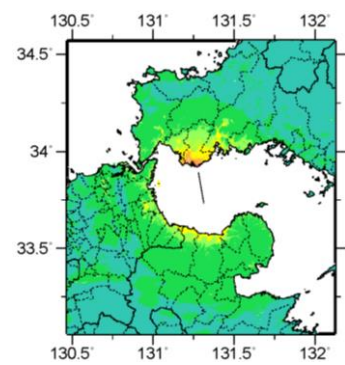
アスペリティと破壊開始点の配置図



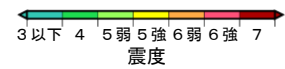
詳細法ケース 1



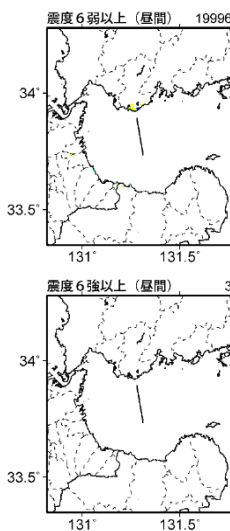
詳細法ケース 2



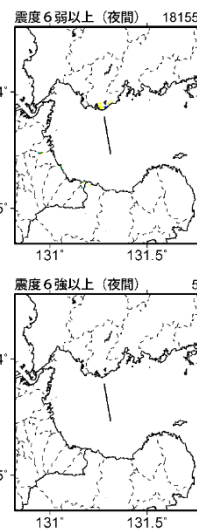
簡便法



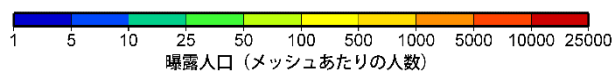
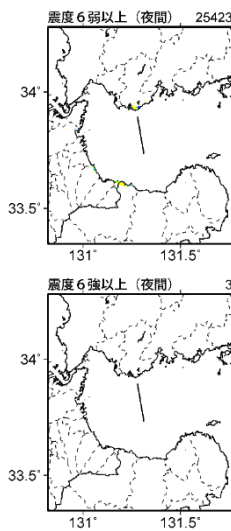
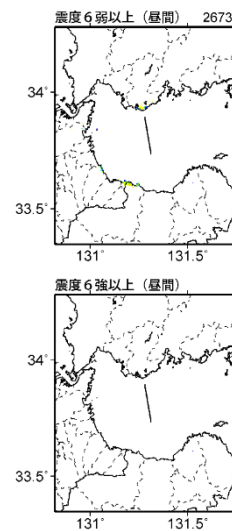
地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



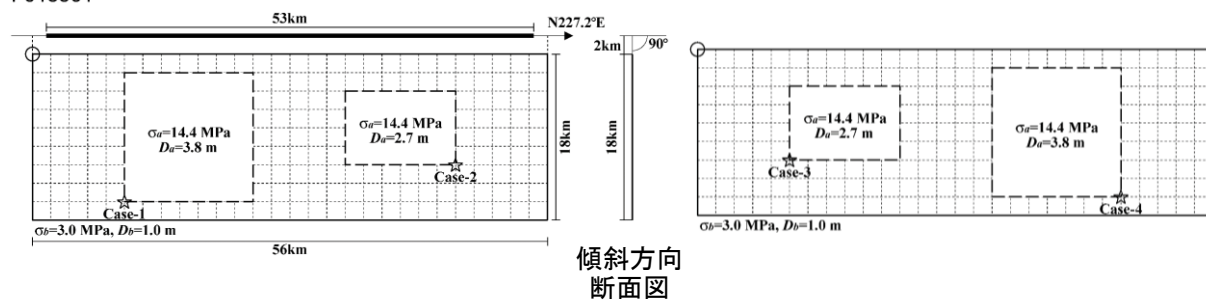
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

宇部南方沖断層 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

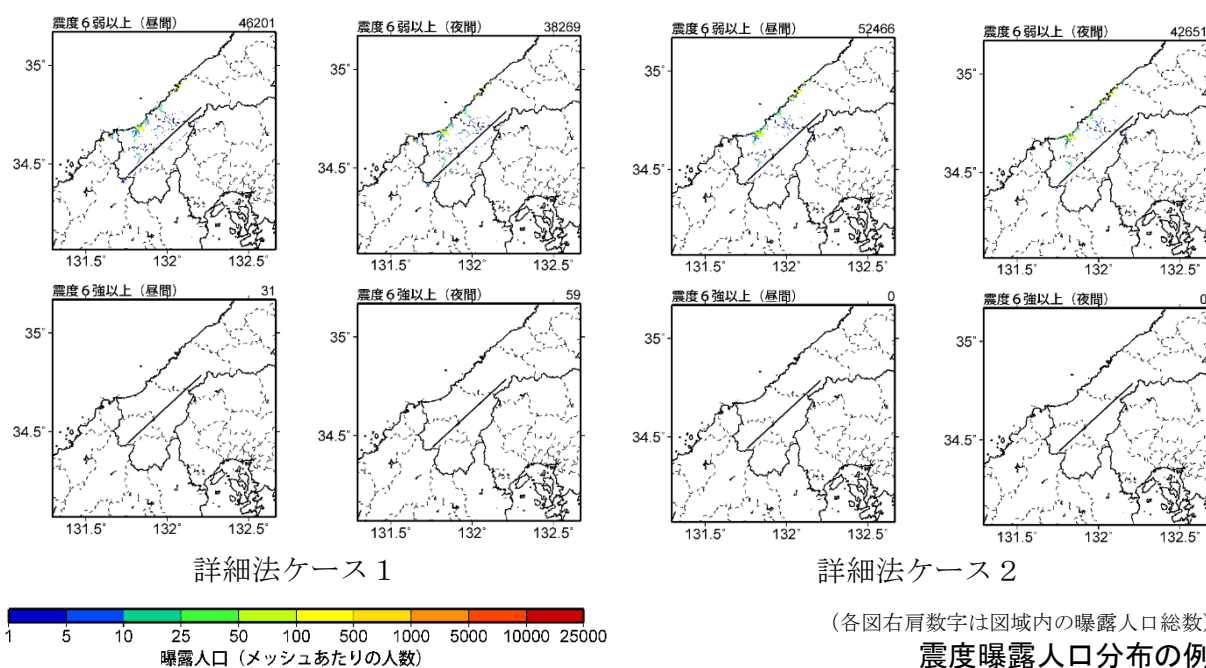
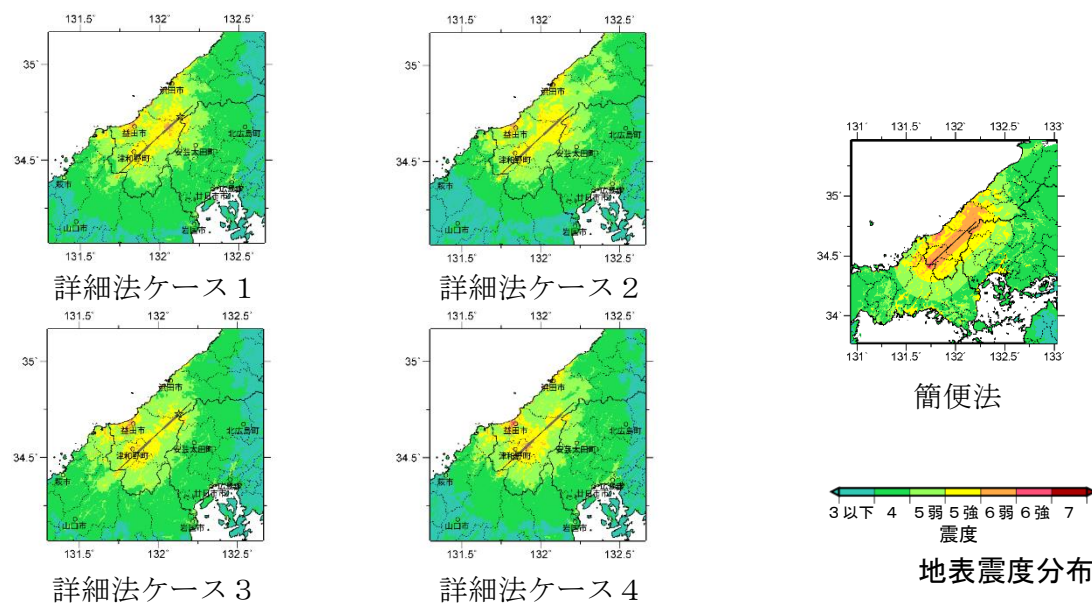
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
弥栄断層

弥栄断層（F018501）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約53km」	53
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.7
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	5.46E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.1
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.787
断層モデル原点(地中) [°E]			132.210
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	227.2
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	56
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	1008
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	4.2
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.7
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	2.01E+19
全 テ ス イ ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	291.8
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	14.4
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	3.5
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	3.16E+19
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2 / 3)$	194.5
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.4
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	3.8
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	2.34.E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	14 × 14
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	97.3
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	14.4
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.7
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	8.26.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	12 × 8
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	716.2
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	3.0
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	1.0
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	2.30E+19



アスペリティと破壊開始点の配置図



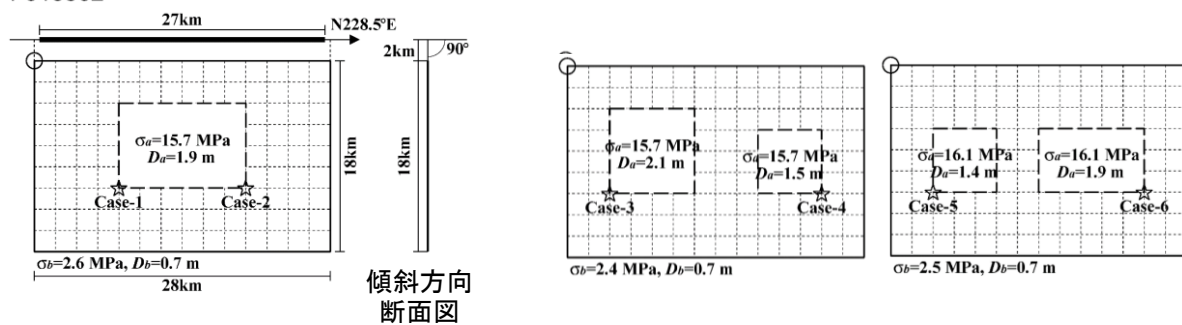
弥栄断層

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

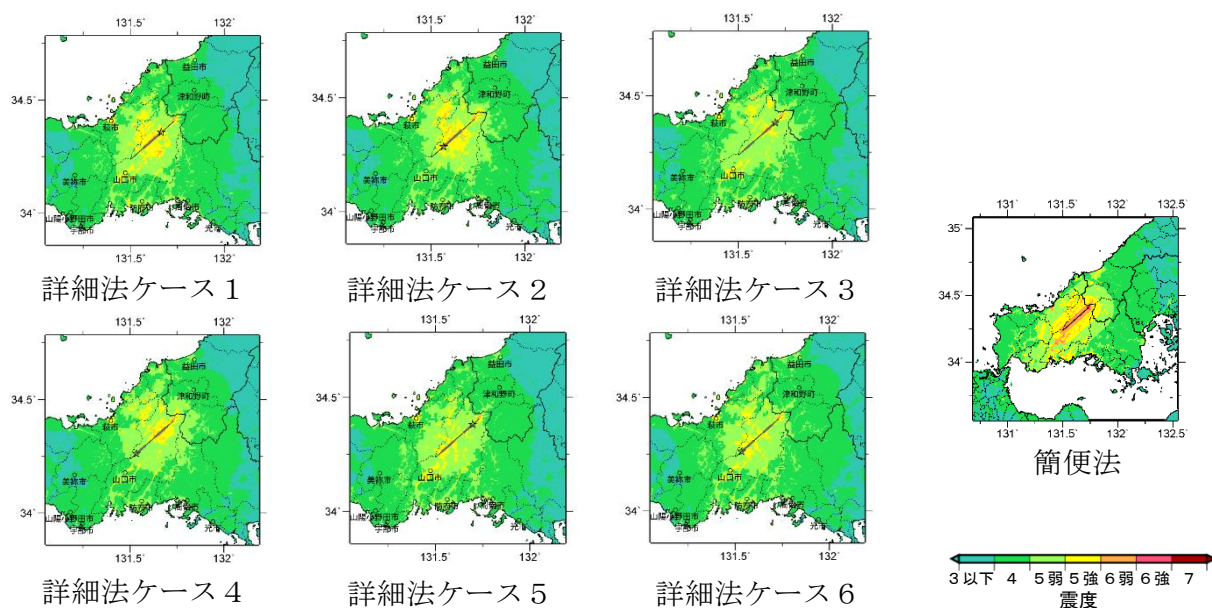
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
地福断層

地福断層（F018502）の震源パラメータ

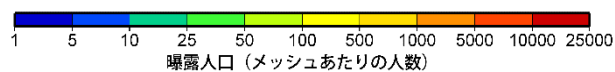
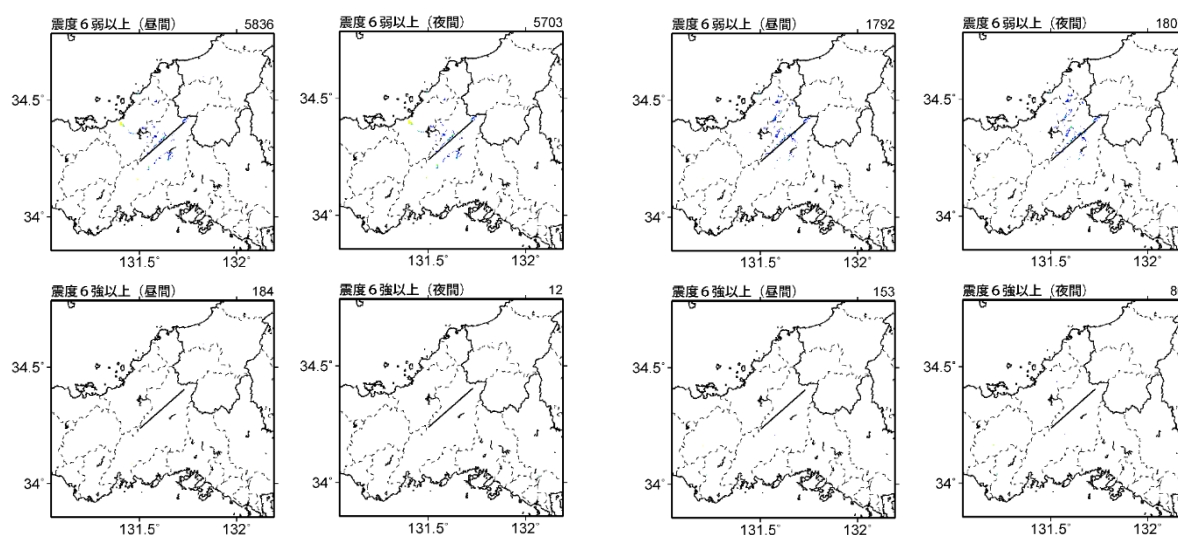
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値	
断層長さ L [km]		「約27km」	27	
地震規模 M		$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	7.2	
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	1.47E+19	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.7	
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.405	
断層モデル原点(地中) [°E]			131.730	
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	228.5	
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90	
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180	
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2	
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20	
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2	
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	28	
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18	
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	504	
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model}/\pi)^{1/2}$	3.2	
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	0.9	
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1・2	ケース3～6
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.30E+19	
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	101.0	
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	15.7	
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	1.9	
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	5.88E+18	
1 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$ または $S_a \cdot (2/3)$	101.0	67.4
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.7	15.7
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$ または $(\gamma_1 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	1.9	2.1
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	5.88E+18	4.34E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	12 × 8	8 × 8
2 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	—	33.7
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	—	15.7
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	—	1.5
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	—	1.54E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	—	6 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	403.0	403.0
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.6	2.4
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.7	0.7
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	8.78E+18	8.78E+18



アスペリティと破壊開始点の配置図



地表震度分布

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

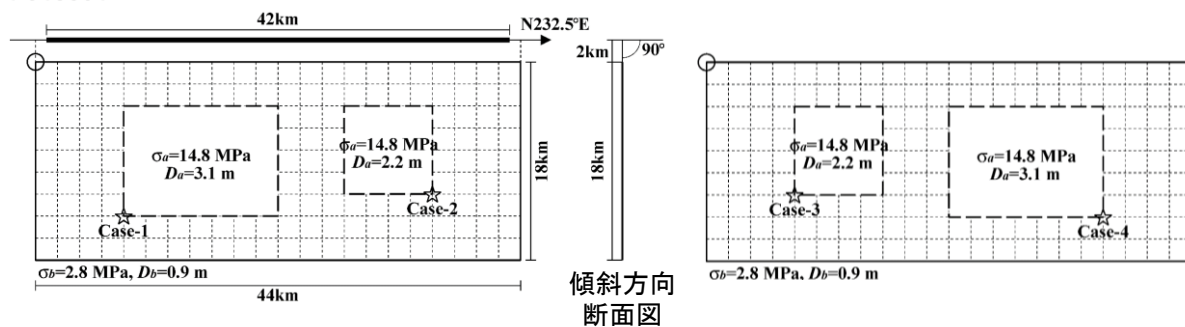
地福断層

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

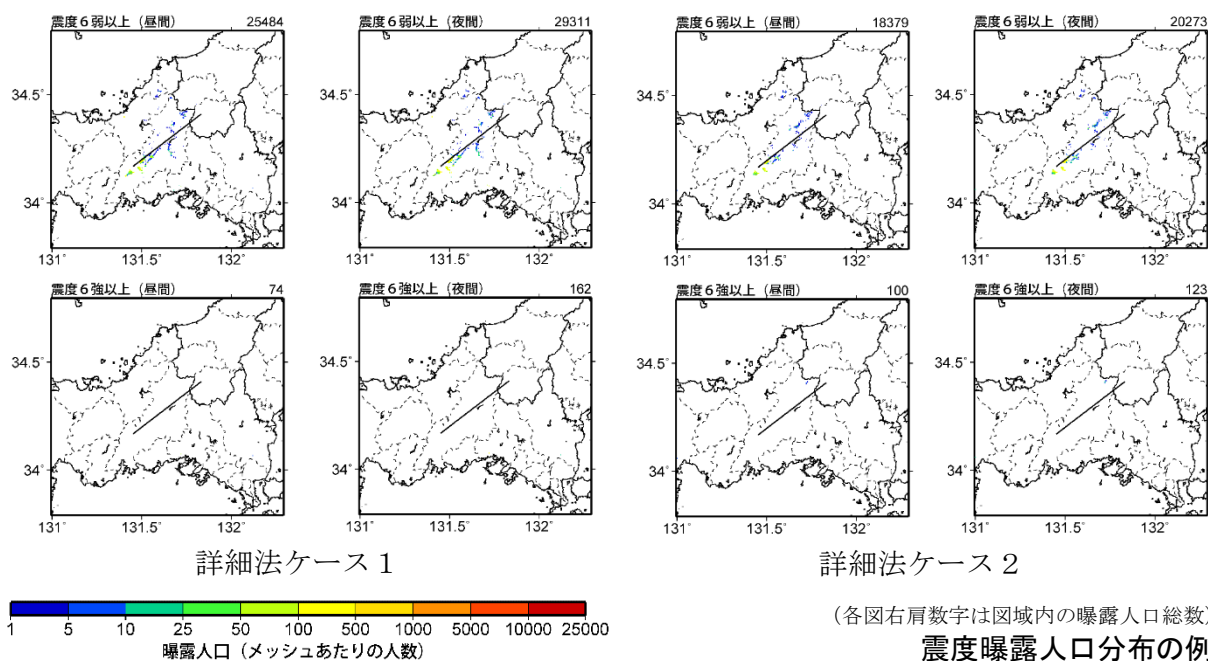
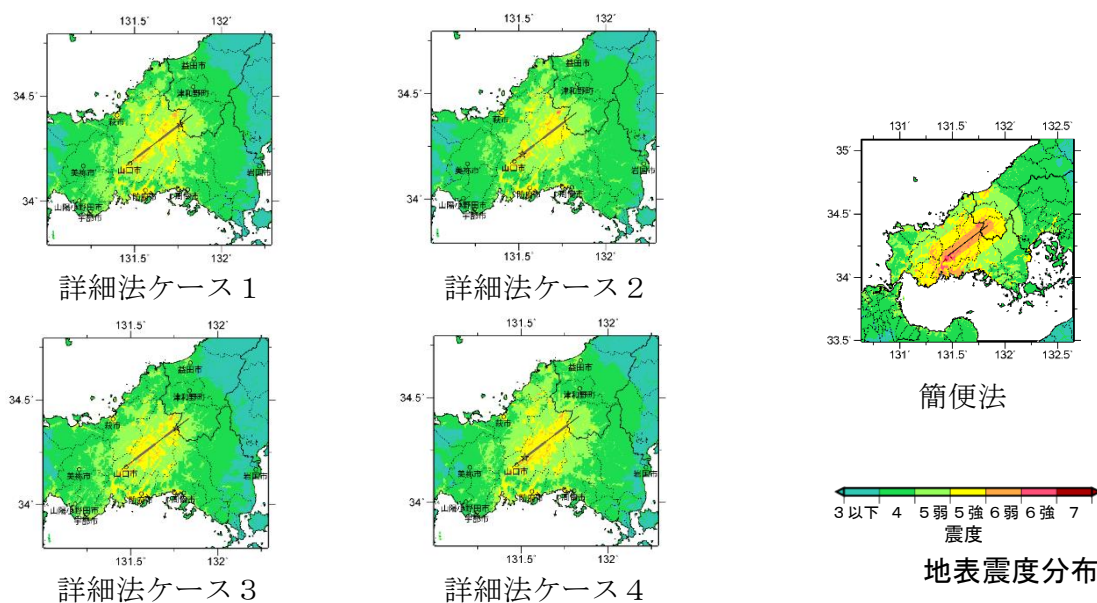
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
大原湖断層

大原湖断層（F018601）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約42km」	42
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.5
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	3.47E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.0
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.410
断層モデル原点(地中) [°E]			131.832
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	232.5
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	44
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	792
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	3.8
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.4
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	1.73E+19
全 テ ス ト ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	202.8
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	14.8
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.8
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.78E+19
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2 / 3)$	135.2
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.8
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	3.1
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	1.31.E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	14 × 10
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	67.6
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	14.8
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.2
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	4.64.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	8 × 8
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	589.2
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.9
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.69E+19



アスペリティと破壊開始点の配置図



大原湖断層

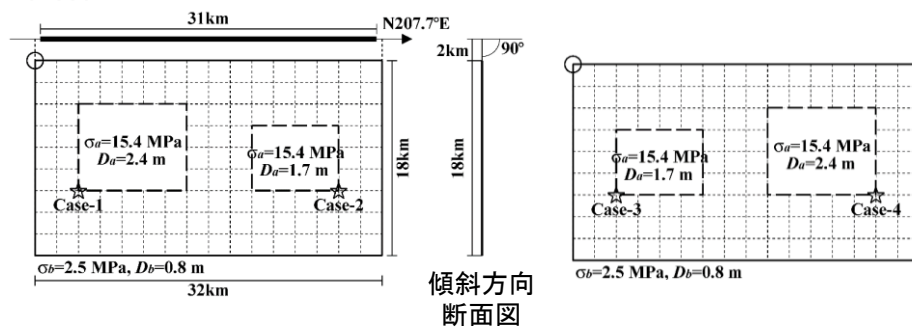
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
小郡断層

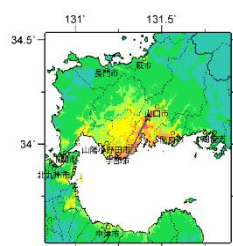
小郡断層（F018602）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約31km」	31
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.3
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	1.92E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.8
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.158
断層モデル原点(地中) [°E]			131.439
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	207.7
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	32
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	576
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model}/\pi)^{1/2}$	3.4
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.1
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	1.42E+19
全 テ ス ト ペ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	126.6
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	15.4
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	2.1
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	8.44E+18
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2/3)$	84.4
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	15.4
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	2.4
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	6.23.E+18
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 8
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	42.2
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	15.4
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	1.7
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	2.20.E+18
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	8 × 6
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	449.4
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.5
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.8
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.08E+19

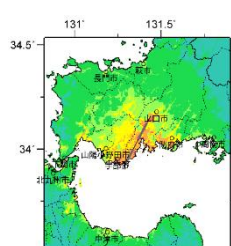
F018602



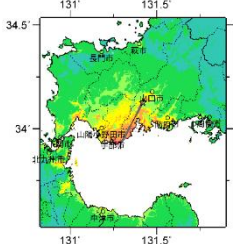
アスペリティと破壊開始点の配置図



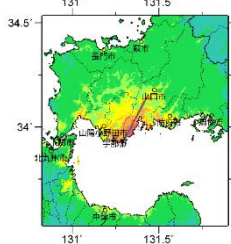
詳細法ケース 1



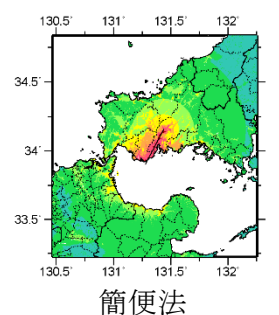
詳細法ケース 2



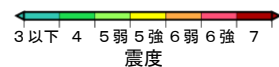
詳細法ケース 3



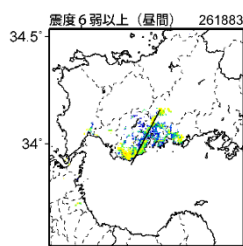
詳細法ケース 4



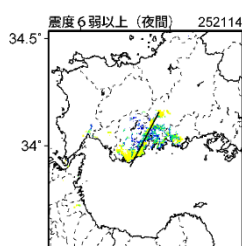
簡便法



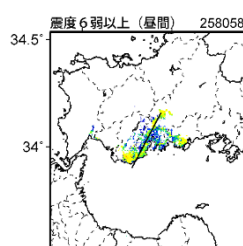
地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



曝露人口 (メッシュあたりの人数)

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

小郡断層

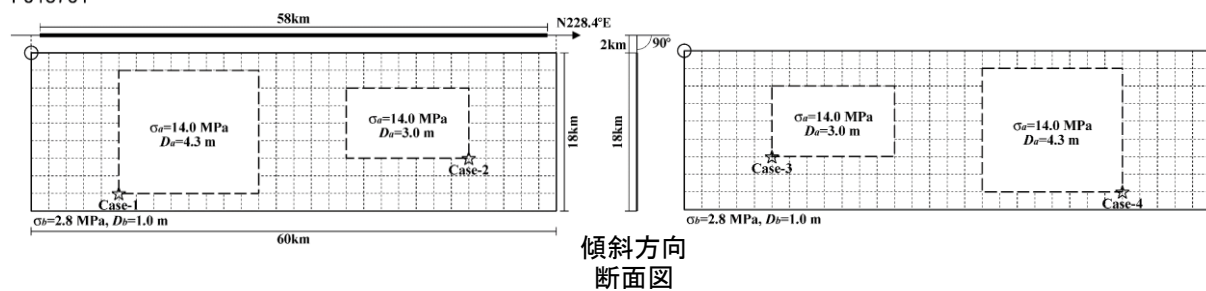
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
筒賀断層

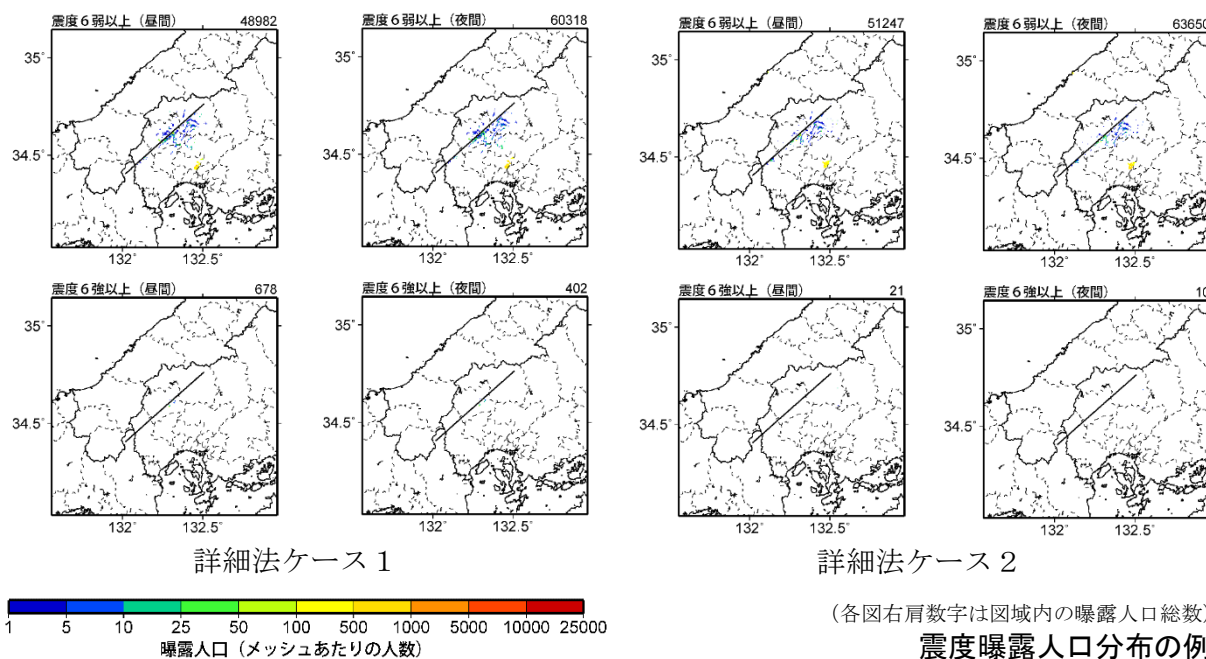
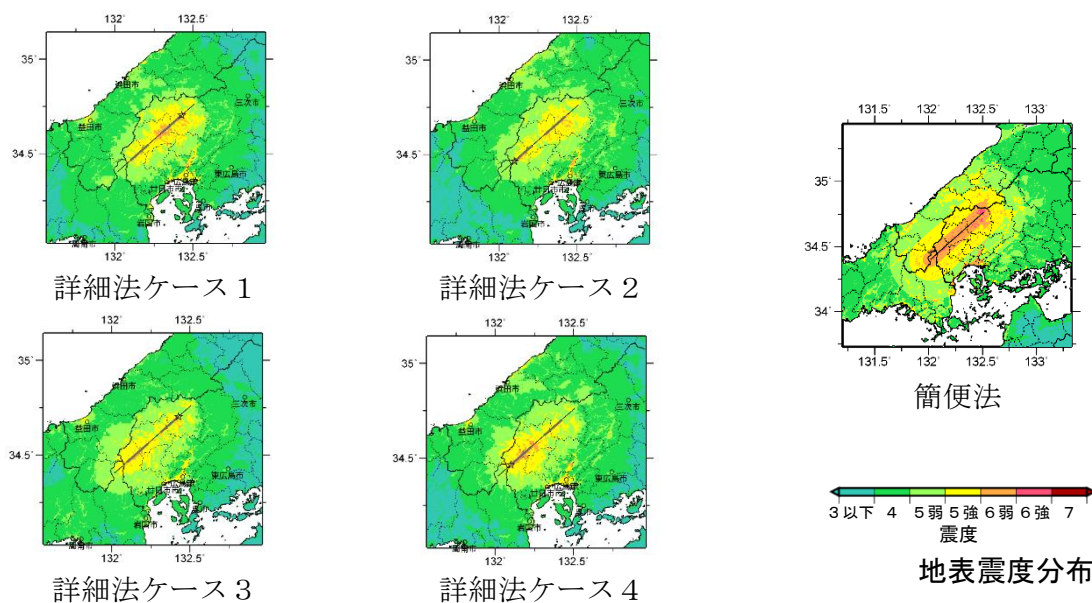
筒賀断層（F018701）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]		「約58km」	58
地震規模 M		$M = \{\log (L) + 2.9\} / 0.6$	7.8
地震モーメント M_0 [Nm]		$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	6.51E+19
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.1
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.763
断層モデル原点(地中) [°E]			132.509
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	228.4
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層」	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	60
断層モデル幅 W_{model} [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル面積 S_{model} [km ²]		$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	1080
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{model} / \pi)^{1 / 2}$	4.5
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{model})$	1.9
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	2.13E+19
全 ア ス ペ リ テ イ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \left\{M_0 / (A \cdot R)\right\} \cdot \beta^2$	344.3
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	14.0
	平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	3.9
	地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	4.15E+19
ア ス ペ リ テ イ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a \cdot (2 / 3)$	229.5
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	14.0
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = (\gamma_1 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	4.3
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	3.07.E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	16 × 14
ア ス ペ リ テ イ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	114.8
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	14.0
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \sum \gamma_i^3) \cdot D_a$	3.0
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	1.08.E+19
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	14 × 8
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{model} - S_a$	735.7
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.8
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	1.0
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	2.36E+19

F018701



アスペリティと破壊開始点の配置図



簡賀断層

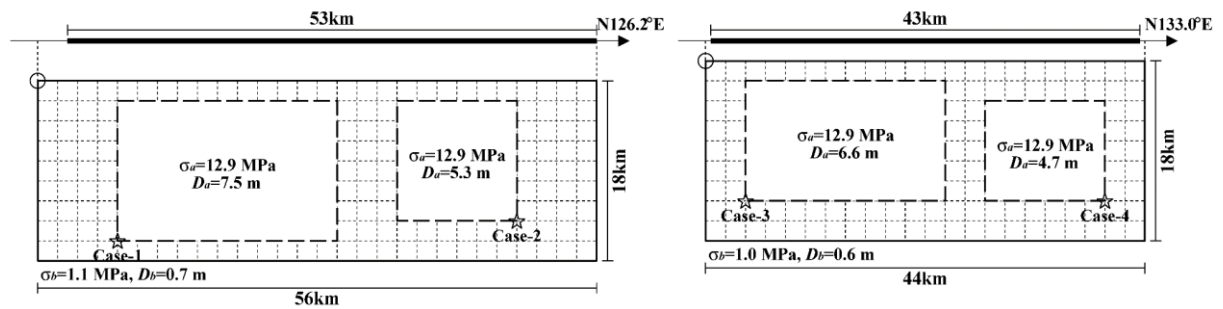
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

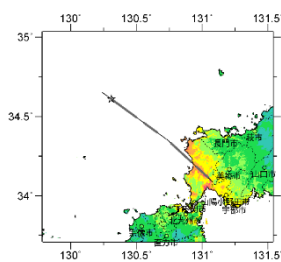
菊川断層帯北部区間＋中部区間

菊川断層帯北部区間＋中部区間（F018011）の震源パラメータ

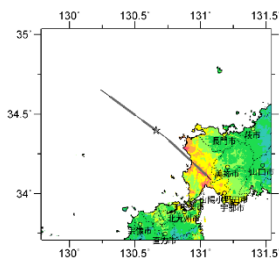
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値	
			北部	中部
断層長さ L [km]		(各区間の長さの和)	96	
地震規模 M		$M = \{\log (M_0) - 10.72\} / 1.17$	8.2	
地震モーメント M_0 [Nm]		入倉・三宅 (2001)	1.80E+20	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.4	
断層モデル総面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = \Sigma S_{\text{model_seg}}$	1800	
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1 / 2}$	5.7	
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	3.21	
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端	34.653	34.359
断層モデル原点(地中) [°E]			130.239	130.729
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	126.2	133.0
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90	90
すべり角 λ [度]		「左横ずれ断層(ともに)」	0	0
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	4	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{\text{top}} = H_s$	4	2
単位区間断層モデル長さ $L_{\text{model_seg}}$ [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	56	44
単位区間断層モデル幅 $W_{\text{model_seg}}$ [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18	18
単位区間断層面積 $S_{\text{model_seg}}$ [km ²]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \times W_{\text{model_seg}}$	1008	792
単位区間地震モーメント $M_{0\text{seg}}$ [Nm]		区間面積の1.5乗に応じて配分	1.06E+20	7.40E+19
単位区間平均すべり量 D_{seg} [m]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \times W_{\text{model_seg}}$	3.38	2.99
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4	
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	2.99E+19	
全 ア ス テ ペ イ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \left\{M_0 / (A \cdot R)\right\} \cdot \beta^2$	802.7	
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta \sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta \sigma$	12.9	
	区間面積 $S_{a\text{seg}}$ [km ²]	区間面積に応じて配分	449.5	353.2
	区間平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	6.75	5.99
	区間地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	9.47E+19	6.60E+19
ア ス テ ペ イ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$	299.7	235.4
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	12.9	12.9
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$	7.48	6.63
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	7.00E+19	4.88E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	22 × 14	16 × 14
ア ス テ ペ イ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	149.8	117.7
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	12.9	12.9
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	5.29	4.69
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	2.47E+19	1.72E+19
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	12 × 12	12 × 10
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	558.5	438.8
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	1.1	1.0
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.66	0.58
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.15E+19	8.00E+18



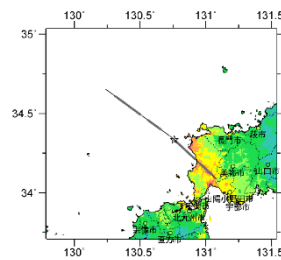
アスペリティと破壊開始点の配置図



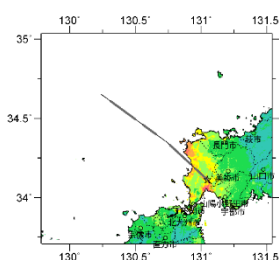
詳細法ケース 1



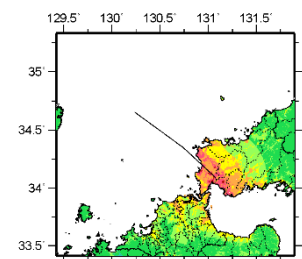
詳細法ケース 2



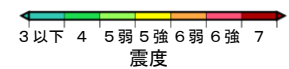
詳細法ケース 3



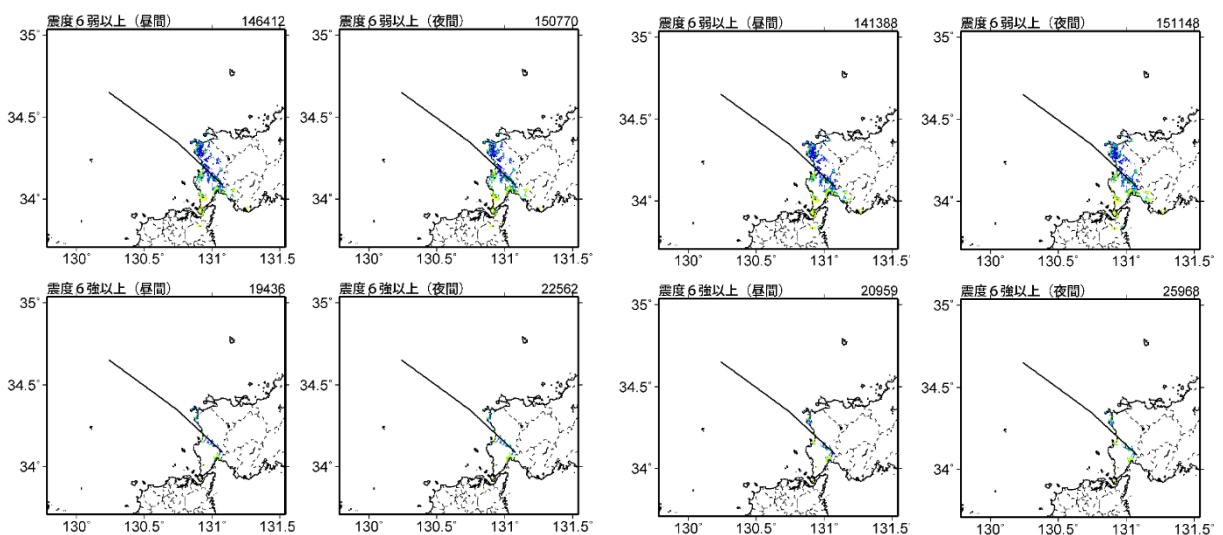
詳細法ケース 4



簡便法

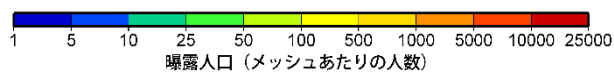


地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

菊川断層帯北部区間+中部区間 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

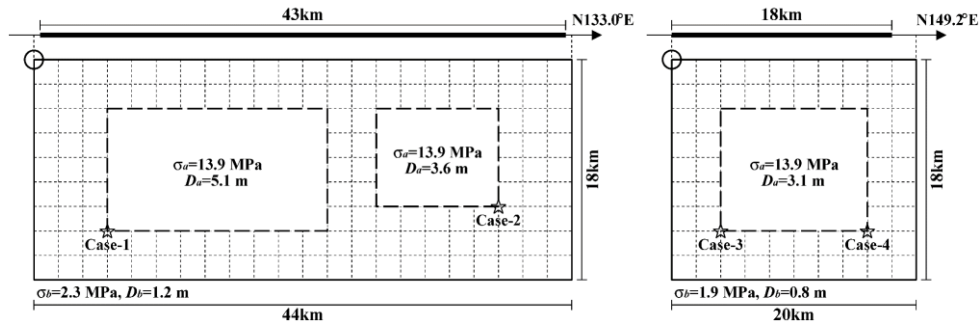
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

菊川断層帯中部区間＋南部区間

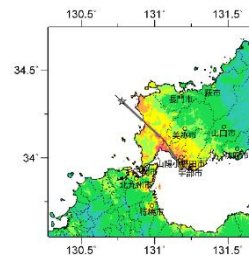
菊川断層帯中部区間＋南部区間（F018012）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値	
			中部	南部
断層長さ L [km]		(各区間の長さの和)	61	
地震規模 M		$M = \{\log (M_0) - 10.72\} / 1.17$	7.8	
地震モーメント M_0 [Nm]		入倉・三宅（2001）	7.38E+19	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log (M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.2	
断層モデル総面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = \Sigma S_{\text{model_seg}}$	1152	
静的平均応力降下量 $\Delta \sigma$ [MPa]		$\Delta \sigma = 7 / 16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}} / \pi)^{1 / 2}$	4.6	
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	2.05	
断層モデル原点(地中) [°N]		地中における端 長期評価の端点を結んだ方向 長期評価に基づく 「左横ずれ断層(ともに)」 地震基盤と2kmの深い方 長期評価に基づく	34.359	34.087
断層モデル原点(地中) [°E]			130.729	131.078
走向 θ [度]			133.0	149.2
傾斜角 δ [度]			90	90
すべり角 λ [度]			0	0
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{\text{top}} = H_s$	2	2
単位区間断層モデル長さ $L_{\text{model_seg}}$ [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	44	20
単位区間断層モデル幅 $W_{\text{model_seg}}$ [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18	18
単位区間断層面積 $S_{\text{model_seg}}$ [km ²]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \times W_{\text{model_seg}}$	792	360
単位区間地震モーメント $M_{0\text{seg}}$ [Nm]		区間面積の1.5乗に応じて配分	5.65E+19	1.73E+19
単位区間平均すべり量 D_{seg} [m]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \times W_{\text{model_seg}}$	2.29	1.54
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4	
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1 / 3}$	2.22E+19	
全 ア ス テ ペ イ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7 \pi / 4) \cdot \left\{M_0 / (A \cdot R)\right\} \cdot \beta^2$	381.5	
	実効応力 σ_a [MPa]		13.9	
	区間面積 $S_{a\text{seg}}$ [km ²]	区間面積に応じて配分	262.3	119.2
	区間平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	4.57	3.08
	区間地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	3.74E+19	1.15E+19
ア ス テ ペ イ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$	174.9	119.2
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	13.9	13.9
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$	5.07	3.08
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	2.76E+19	1.15E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	14 × 12	12 × 10
ア ス テ ペ イ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1 / 3)$	87.4	—
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	13.9	—
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	3.58	—
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	9.78E+18	—
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	10 × 8	—
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	529.7	240.8
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b / W_b) \cdot (\pi^{1 / 2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	2.3	1.9
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	1.15	0.78
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	1.91E+19	5.85E+18

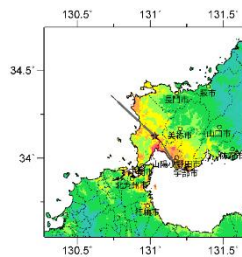
F018012



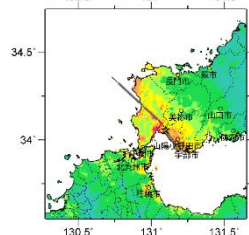
アスペリティと破壊開始点の配置図



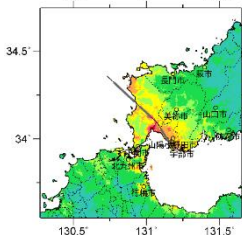
詳細法ケース 1



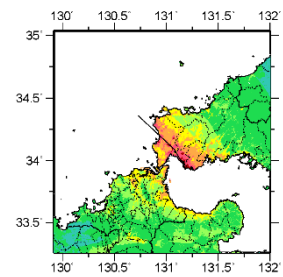
詳細法ケース 2



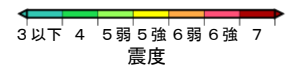
詳細法ケース 3



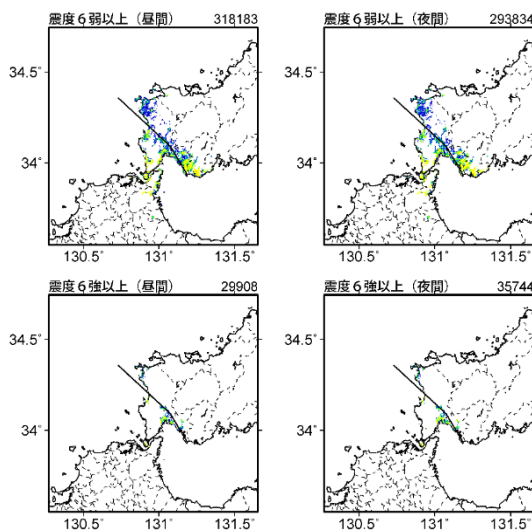
詳細法ケース 4



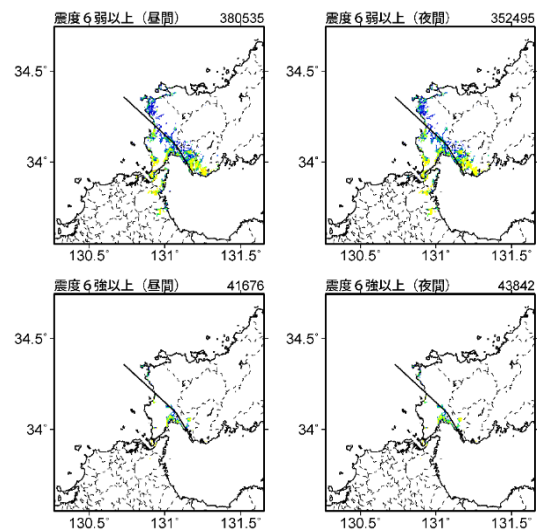
簡便法



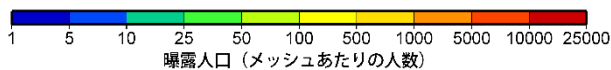
地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

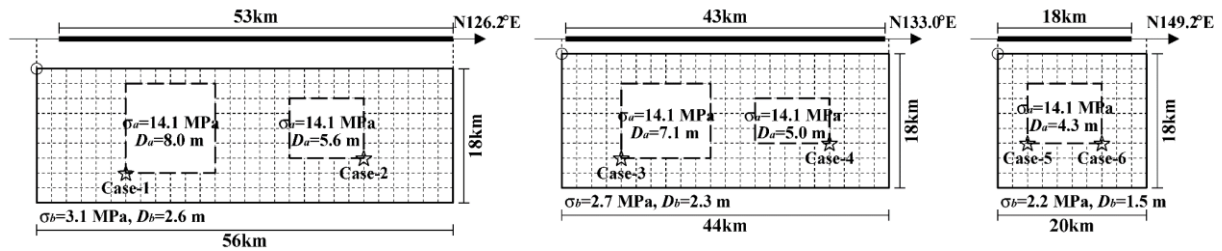
菊川断層帯中部区間+南部区間 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
菊川断層帯全体

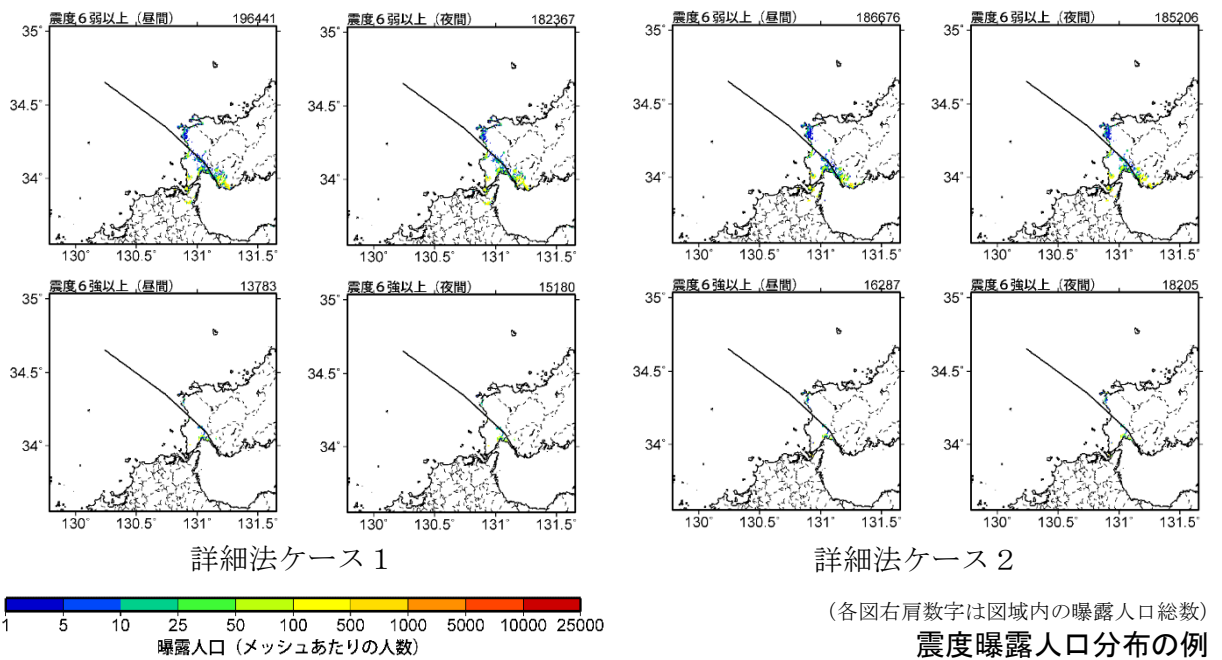
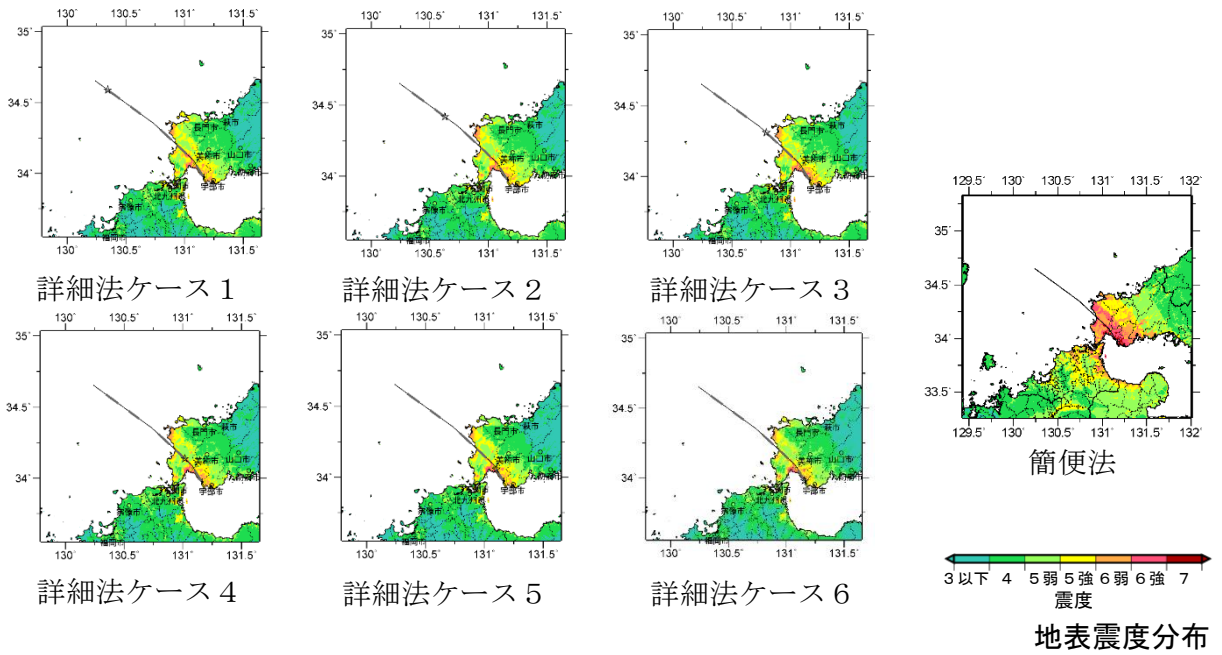
菊川断層帯全体（F018021）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		設定値		
		北部	中部	南部
断層長さ L [km]		114		
地震規模 M		8.2		
地震モーメント M_0 [Nm]		2.16E+20		
モーメントマグニチュード M_w		7.5		
断層モデル総面積 S_{model} [km ²]		2160		
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.1		
平均滑り量 D [m]		3.20		
断層モデル原点(地中) [°N]		34.653	34.359	34.087
断層モデル原点(地中) [°E]		130.239	130.729	131.078
走向 θ [度]		126.2	133.0	149.2
傾斜角 δ [度]		90	90	90
すべり角 λ [度]		0	0	0
地震発生層上限深さ H_s [km]		4	2	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		20	20	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		4	2	2
単位区間断層モデル長さ $L_{\text{model_seg}}$ [km]		56	44	20
単位区間断層モデル幅 $W_{\text{model_seg}}$ [km]		18	18	18
単位区間断層面積 $S_{\text{model_seg}}$ [km ²]		1008	792	360
単位区間地震モーメント $M_{0\text{seg}}$ [Nm]		1.13E+20	7.88E+19	2.41E+19
単位区間平均すべり量 D_{seg} [m]		3.59	3.19	2.15
微視的震源パラメータ		ケース1～6		
短周期レベル A [Nm/s ²]		2.52E+19		
全 ア ス ペ リ	面積 S_a [km ²]	475.2		
	実効応力 σ_a [MPa]	14.1		
	区間面積 $S_{a\text{ seg}}$ [km ²]	221.8	174.2	79.2
	区間平均すべり量 D_a [m]	7.2	6.4	4.3
	区間地震モーメント M_{0a} [Nm]	4.98E+19	3.47E+19	1.06E+19
ア ス ペ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	147.8	116.2	79.2
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	14.1	14.1	14.1
	平均すべり量 D_{a1} [m]	7.97	7.06	4.30
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	3.68E+19	2.56E+19	1.06E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	12 × 12	12 × 10	10 × 8
ア ス ペ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	73.9	58.1	—
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	14.1	14.1	—
	平均すべり量 D_{a2} [m]	5.63	4.99	—
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	1.30E+19	9.05E+18	—
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	10 × 8	10 × 6	—
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	786.2	617.8	280.8
	実効応力 σ_b [MPa]	3.1	2.7	2.2
	平均すべり量 D_b [m]	2.58	2.29	1.54
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	6.33E+19	4.41E+19	1.35E+19

F018021



アスペリティと破壊開始点の配置図



菊川断層帯全体 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

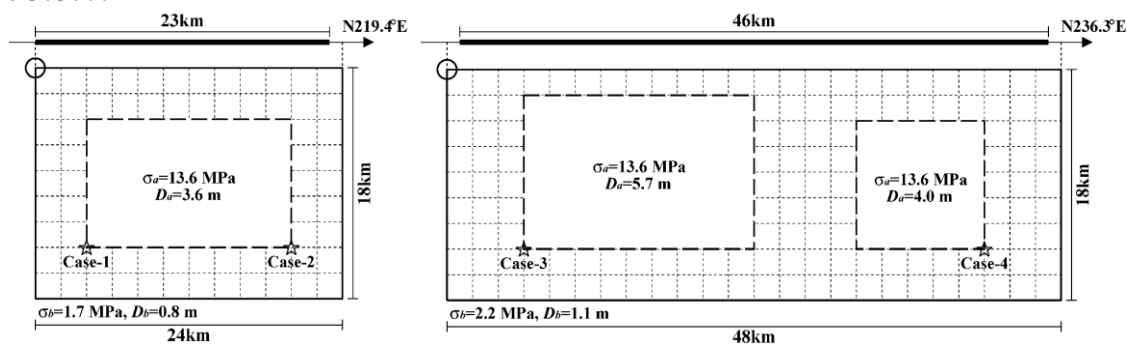
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

岩国－五日市断層帯己斐断層区間＋岩国断層区間

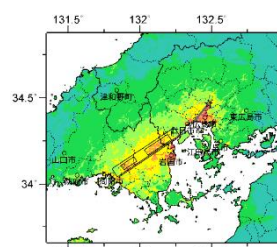
岩国－五日市断層帯己斐断層区間＋岩国断層区間（F018111）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値	
			己斐断層	岩国断層
断層長さ L [km]		『約78km』	78	
地震規模 M		$M = \{\log(M_0) - 10.72\} / 1.17$	7.9	
地震モーメント M_0 [Nm]		入倉・三宅（2001）	9.34E+19	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.2	
断層モデル総面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = \Sigma S_{\text{model_seg}}$	1296	
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}}/\pi)^{1/2}$	4.9	
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	2.31	
断層モデル原点(地中) [°N]			34.493	34.282
断層モデル原点(地中) [°E]		地中における端	132.507	132.277
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	219.4	236.3
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	90	70
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層(ともに)」	180	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{\text{top}} = H_s$	2	2
単位区間断層モデル長さ $L_{\text{model_seg}}$ [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	24	48
単位区間断層モデル幅 $W_{\text{model_seg}}$ [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18	18
単位区間断層面積 $S_{\text{model_seg}}$ [km ²]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \times W_{\text{model_seg}}$	432	864
単位区間地震モーメント $M_{0\text{seg}}$ [Nm]		区間面積の1.5乗に応じて配分	2.44E+19	6.90E+19
単位区間平均すべり量 D_{seg} [m]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \times W_{\text{model_seg}}$	1.81	2.56
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4	
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	2.40E+19	
全 ア ス テ ペ イ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	464.3	
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	13.6	
	区間面積 $S_{a\text{seg}}$ [km ²]	区間面積に応じて配分	154.8	309.5
	区間平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	3.62	5.12
	区間地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	1.75E+19	4.95E+19
ア ス テ ペ イ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$	154.8	206.3
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	13.6	13.6
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$	3.62	5.67
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	1.75E+19	3.65E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	16 × 10	18 × 12
ア ス テ ペ イ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	—	103.2
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	—	13.6
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	—	4.01
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	—	1.29E+19
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	—	10 × 10
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	277.2	554.5
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	1.7	2.2
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.80	1.13
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	6.92E+18	1.96E+19

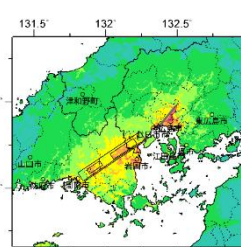
F018111



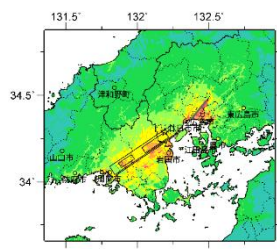
アスペリティと破壊開始点の配置図



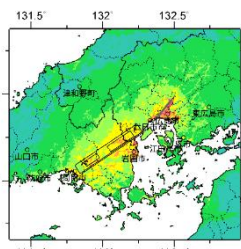
詳細法ケース 1



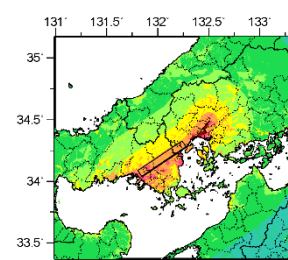
詳細法ケース 2



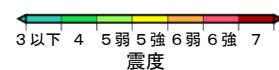
詳細法ケース 3



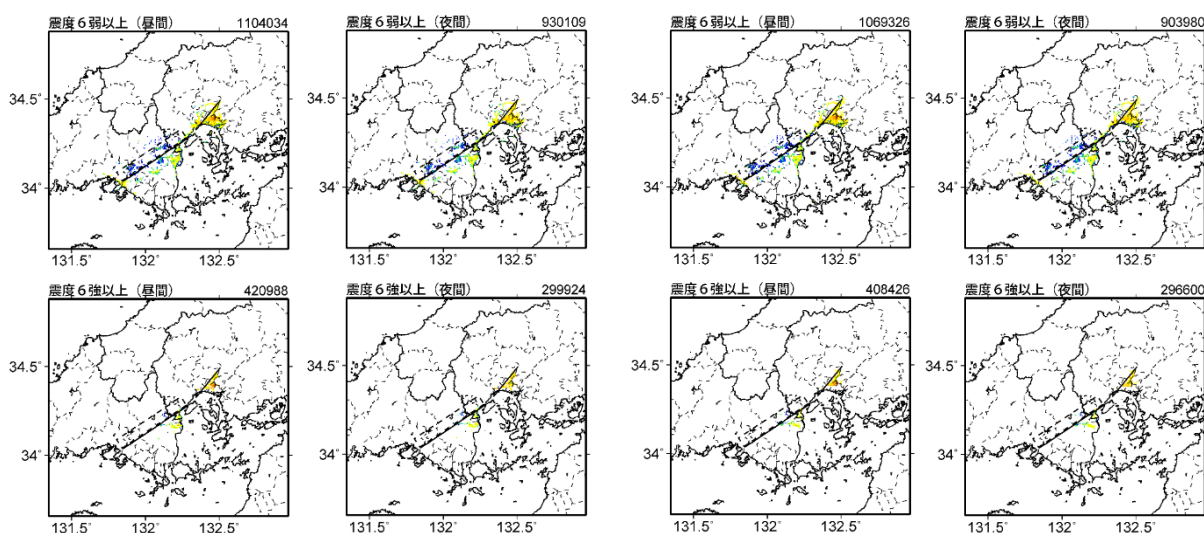
詳細法ケース 4



簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1

詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)
震度曝露人口分布の例

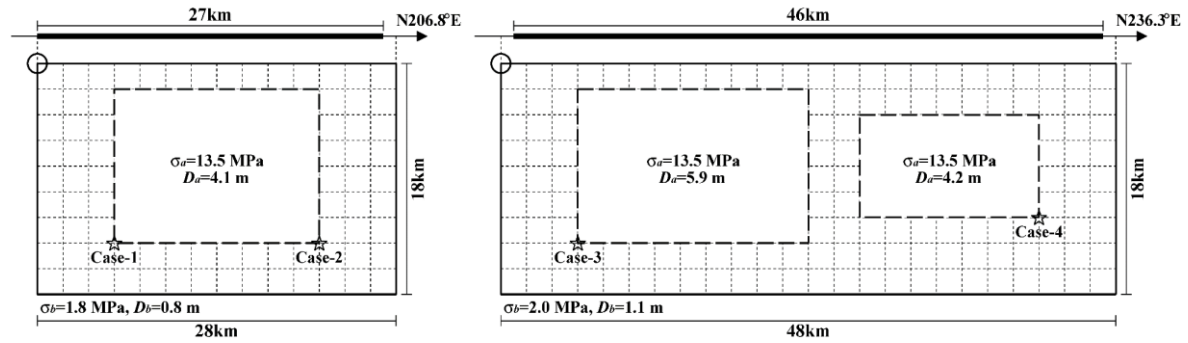
岩国－五日市断層帯己斐断層区間＋岩国断層区間
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

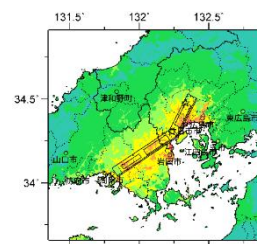
岩国－五日市断層帯五日市断層区間＋岩国断層区間

岩国－五日市断層帯五日市断層区間＋岩国断層区間（F018112）の震源パラメータ

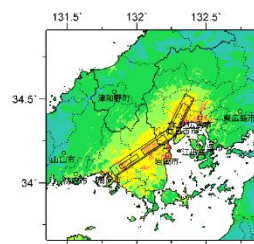
巨視的震源パラメータ		「長期評価」または設定方法	設定値	
			五日市断層	岩国断層
断層長さ L [km]		(各区間の長さの和)	73	
地震規模 M		$M = \{\log(M_0) - 10.72\} / 1.17$	7.9	
地震モーメント M_0 [Nm]		入倉・三宅（2001）	1.04E+20	
モーメントマグニチュード M_w		$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	7.3	
断層モデル総面積 S_{model} [km ²]		$S_{\text{model}} = \Sigma S_{\text{model_seg}}$	1368	
静的平均応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		$\Delta\sigma = 7/16 \cdot (M_0 / R^3), R = (S_{\text{model}}/\pi)^{1/2}$	5.0	
平均滑り量 D [m]		$D = M_0 / (\mu \cdot S_{\text{model}})$	2.44	
断層モデル原点(地中) [°N]			34.506	34.282
断層モデル原点(地中) [°E]		地中における端	132.409	132.277
走向 θ [度]		長期評価の端点を結んだ方向	206.8	236.3
傾斜角 δ [度]		長期評価に基づく	70	70
すべり角 λ [度]		「右横ずれ断層(ともに)」	180	180
地震発生層上限深さ H_s [km]		地震基盤と2kmの深い方	2	2
地震発生層下限深さ H_d [km]		長期評価に基づく	20	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]		$D_{\text{top}} = H_s$	2	2
単位区間断層モデル長さ $L_{\text{model_seg}}$ [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	28	48
単位区間断層モデル幅 $W_{\text{model_seg}}$ [km]		「レシピ」の(イ)の手順に従う	18	18
単位区間断層面積 $S_{\text{model_seg}}$ [km ²]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \times W_{\text{model_seg}}$	504	864
単位区間地震モーメント $M_{0\text{seg}}$ [Nm]		区間面積の1.5乗に応じて配分	3.21E+19	7.20E+19
単位区間平均すべり量 D_{seg} [m]		$S_{\text{model_seg}} = L_{\text{model_seg}} \times W_{\text{model_seg}}$	2.04	2.67
微視的震源パラメータ		設定方法	ケース1～4	
短周期レベル A [Nm/s ²]		$A = 2.46 \times 10^{10} \times (M_0 \times 10^7)^{1/3}$	2.49E+19	
全 ア ス テ ペ イ リ	面積 S_a [km ²]	$S_a = \pi r^2, r = (7\pi/4) \cdot \{M_0 / (A \cdot R)\} \cdot \beta^2$	508.0	
	実効応力 σ_a [MPa]	$\sigma_a = \Delta\sigma_a = (S / S_a) \cdot \Delta\sigma$	13.5	
	区間面積 $S_{a\text{seg}}$ [km ²]	区間面積に応じて配分	187.2	320.9
	区間平均すべり量 D_a [m]	$D_a = \gamma_D \cdot D, \gamma_D = 2.0$	4.08	5.34
	区間地震モーメント M_{0a} [Nm]	$M_{0a} = \mu \cdot D_a \cdot S_a$	2.38E+19	5.35E+19
ア ス テ ペ イ リ 1	面積 S_{a1} [km ²]	$S_{a1} = S_a$	187.2	213.9
	実効応力 σ_{a1} [MPa]	$\sigma_{a1} = \sigma_a$	13.5	13.5
	平均すべり量 D_{a1} [m]	$D_{a1} = D_a$	4.08	5.92
	地震モーメント M_{0a1} [Nm]	$M_{0a1} = \mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$	2.38E+19	3.95E+19
	計算用面積 $L_{a1} \times W_{a1}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	16 × 12	18 × 12
ア ス テ ペ イ リ 2	面積 S_{a2} [km ²]	$S_{a2} = S_a \cdot (1/3)$	—	107.0
	実効応力 σ_{a2} [MPa]	$\sigma_{a2} = \sigma_a$	—	13.5
	平均すべり量 D_{a2} [m]	$D_{a2} = (\gamma_2 / \Sigma \gamma_i^3) \cdot D_a$	—	4.19
	地震モーメント M_{0a2} [Nm]	$M_{0a2} = \mu \cdot D_{a2} \cdot S_{a2}$	—	1.40E+19
	計算用面積 $L_{a2} \times W_{a2}$ [km×km]	2kmメッシュサイズ	—	14 × 8
背 景 領 域	面積 S_b [km ²]	$S_b = S_{\text{model}} - S_a$	316.8	543.1
	実効応力 σ_b [MPa]	$\sigma_b = (D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2} / D_a) \cdot r \cdot \Sigma \gamma_i^3 \cdot \sigma_a$	1.8	2.0
	平均すべり量 D_b [m]	$D_b = M_{0b} / (\mu \cdot S_b)$	0.83	1.09
	地震モーメント M_{0b} [Nm]	$M_{0b} = M_0 - M_{0a}$	8.25E+18	1.85E+19



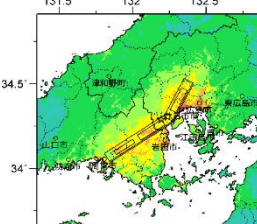
アスペリティと破壊開始点の配置図



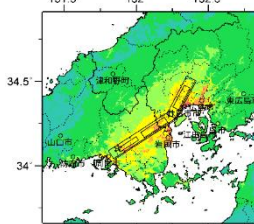
詳細法ケース 1



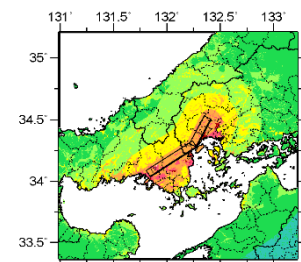
詳細法ケース 2



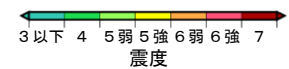
詳細法ケース 3



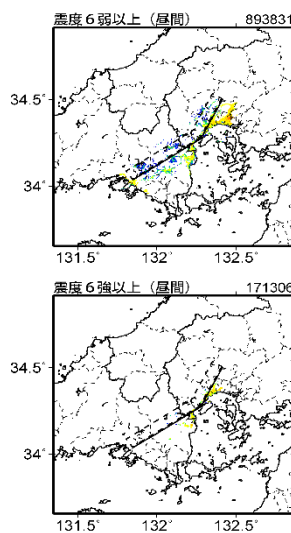
詳細法ケース 4



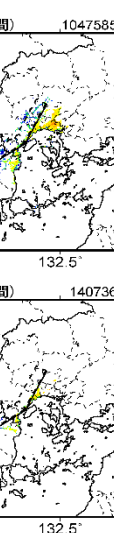
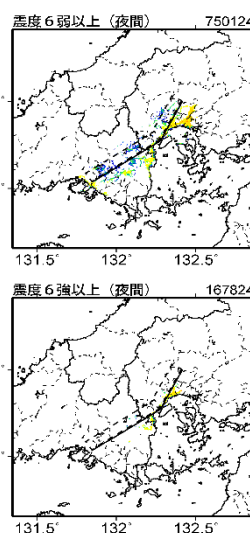
簡便法



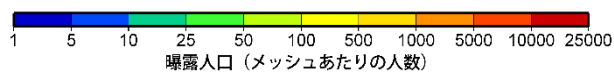
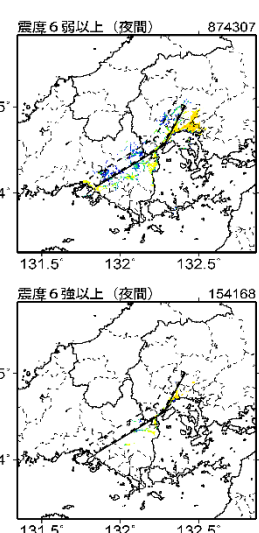
地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

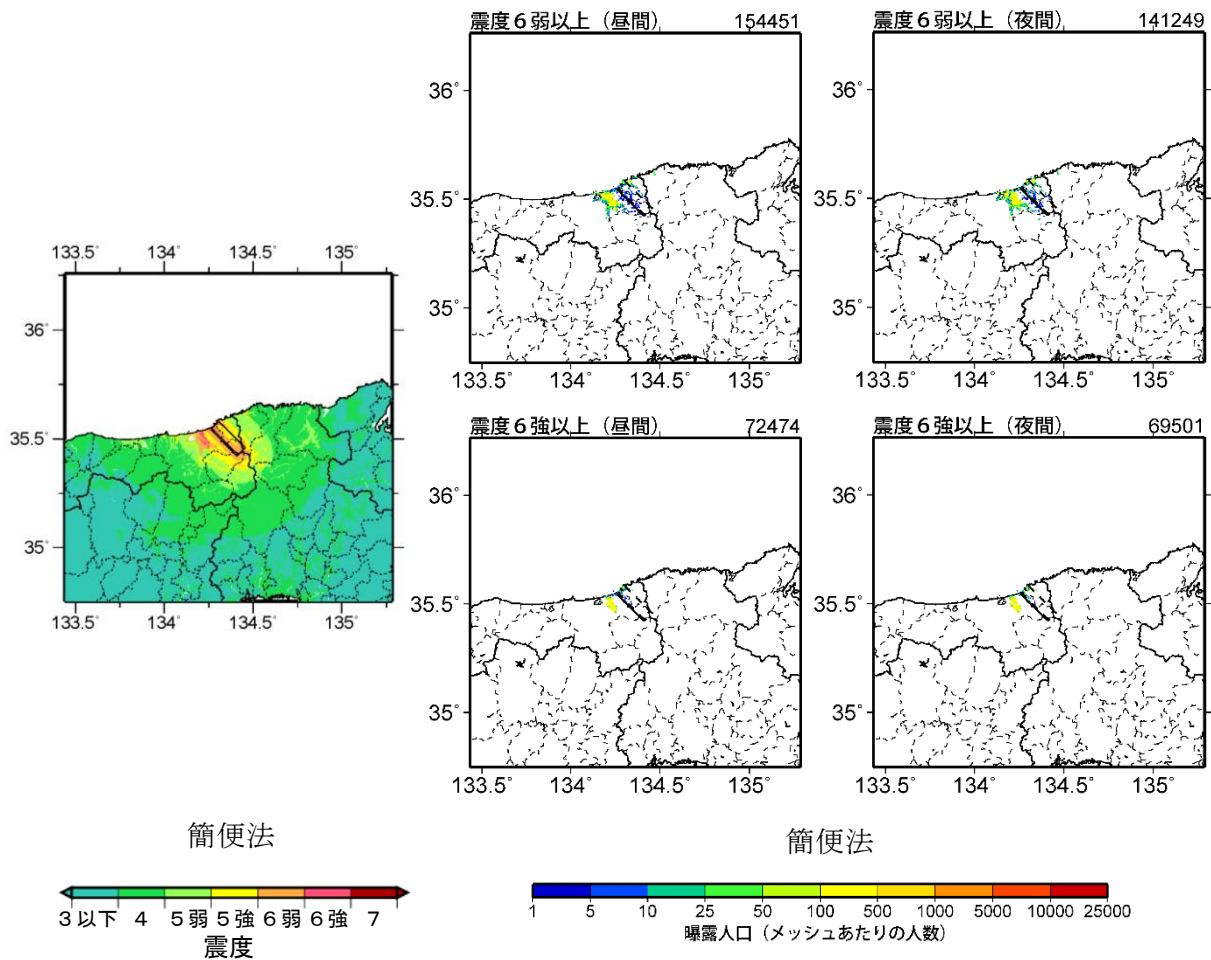
震度曝露人口分布の例

岩国－五日市断層帯五日市断層区間＋岩国断層区間
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
雨滝－釜戸断層

雨滝－釜戸断層（F017201）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]	「約13km」	15
地震規模 M	$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]	$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]	地中における端	35.427
断層モデル原点(地中) [°E]		134.415
走向 θ [度]	長期評価の端点を結んだ方向	315.0
傾斜角 δ [度]	長期評価に基づく	70
地震発生層上限深さ H_s [km]	地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]	長期評価に基づく	15
断層モデル上端深さ D_{top} [km]	$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	20
断層モデル幅 W_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	14
断層モデル面積 S_{model} [km ²]	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	280



地表震度分布

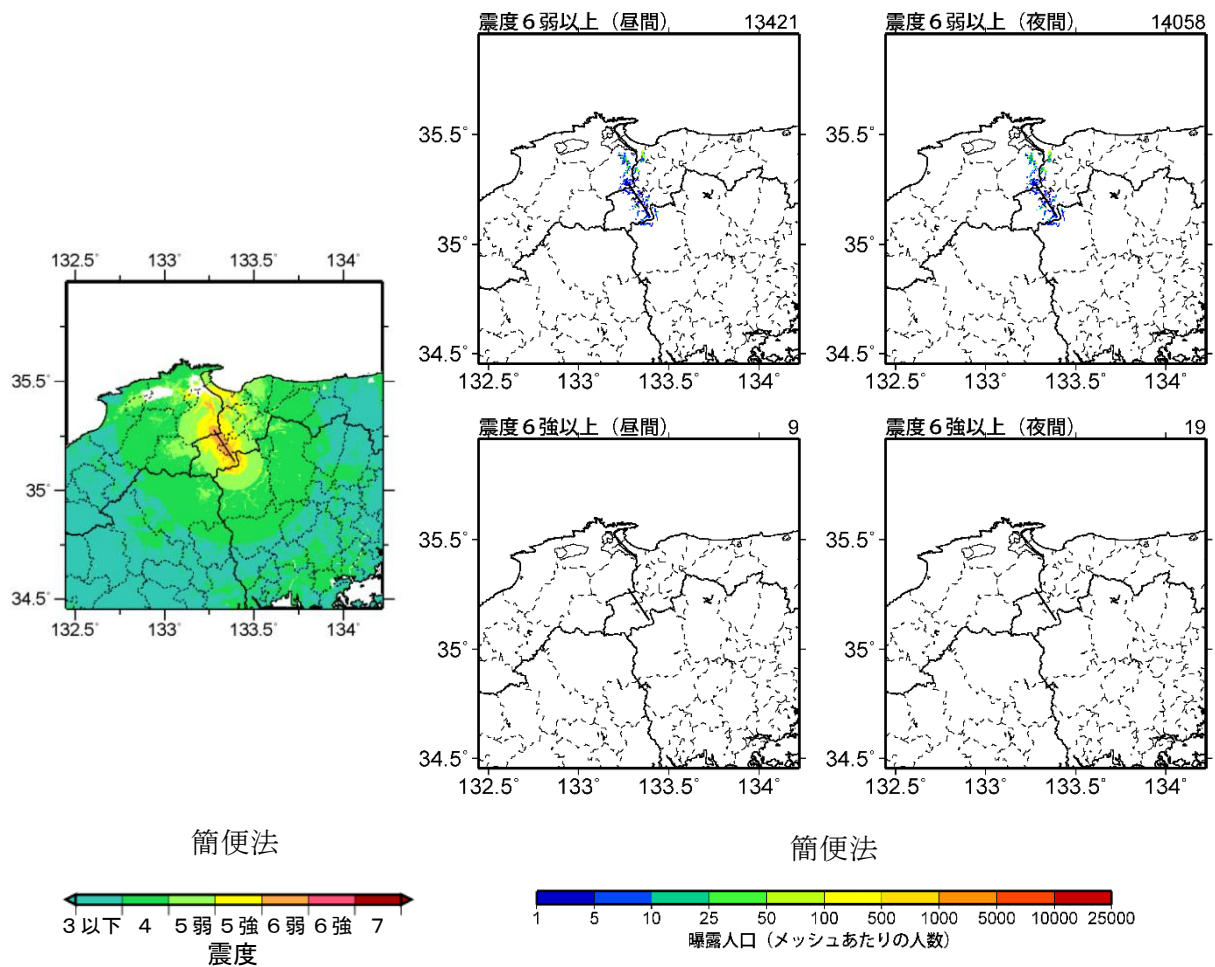
震度曝露人口分布の例

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

日南湖断層

日南湖断層（F017401）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]	「約13km」	15
地震規模 M	$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]	$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]	地中における端	35.277
断層モデル原点(地中) [°E]		133.276
走向 θ [度]	長期評価の端点を結んだ方向	146.5
傾斜角 δ [度]	長期評価に基づく	90
地震発生層上限深さ H_s [km]	地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]	長期評価に基づく	15
断層モデル上端深さ D_{top} [km]	$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	20
断層モデル幅 W_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	14
断層モデル面積 S_{model} [km ²]	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	280



地表震度分布

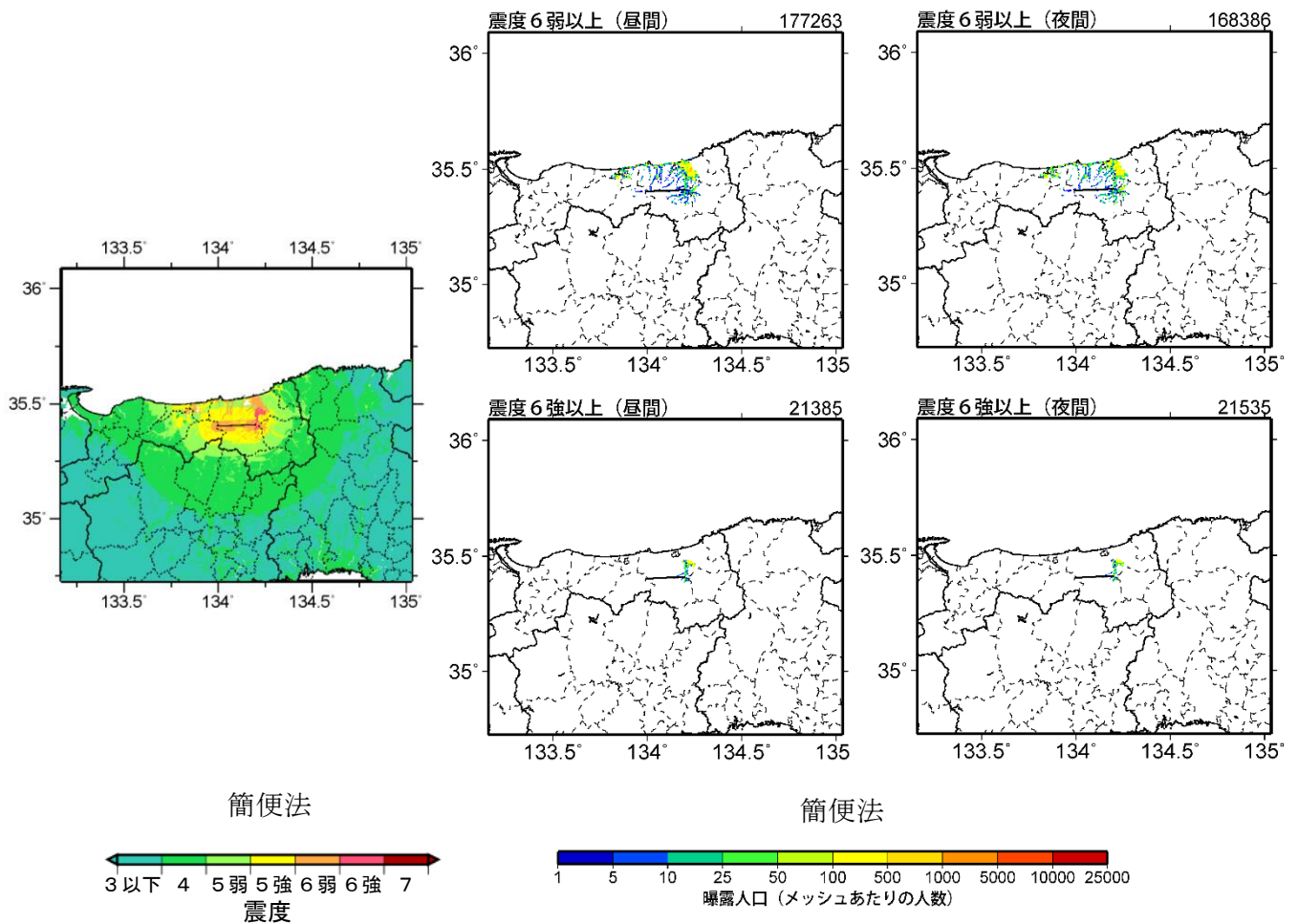
震度曝露人口分布の例

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

岩坪断層

岩坪断層（F017501）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]	「約10km」	15
地震規模 M	$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]	$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]	地中における端	35.403
断層モデル原点(地中) [°E]		133.992
走向 θ [度]	長期評価の端点を結んだ方向	87.8
傾斜角 δ [度]	長期評価に基づく	90
地震発生層上限深さ H_s [km]	地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]	長期評価に基づく	15
断層モデル上端深さ D_{top} [km]	$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	20
断層モデル幅 W_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	14
断層モデル面積 S_{model} [km ²]	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	280



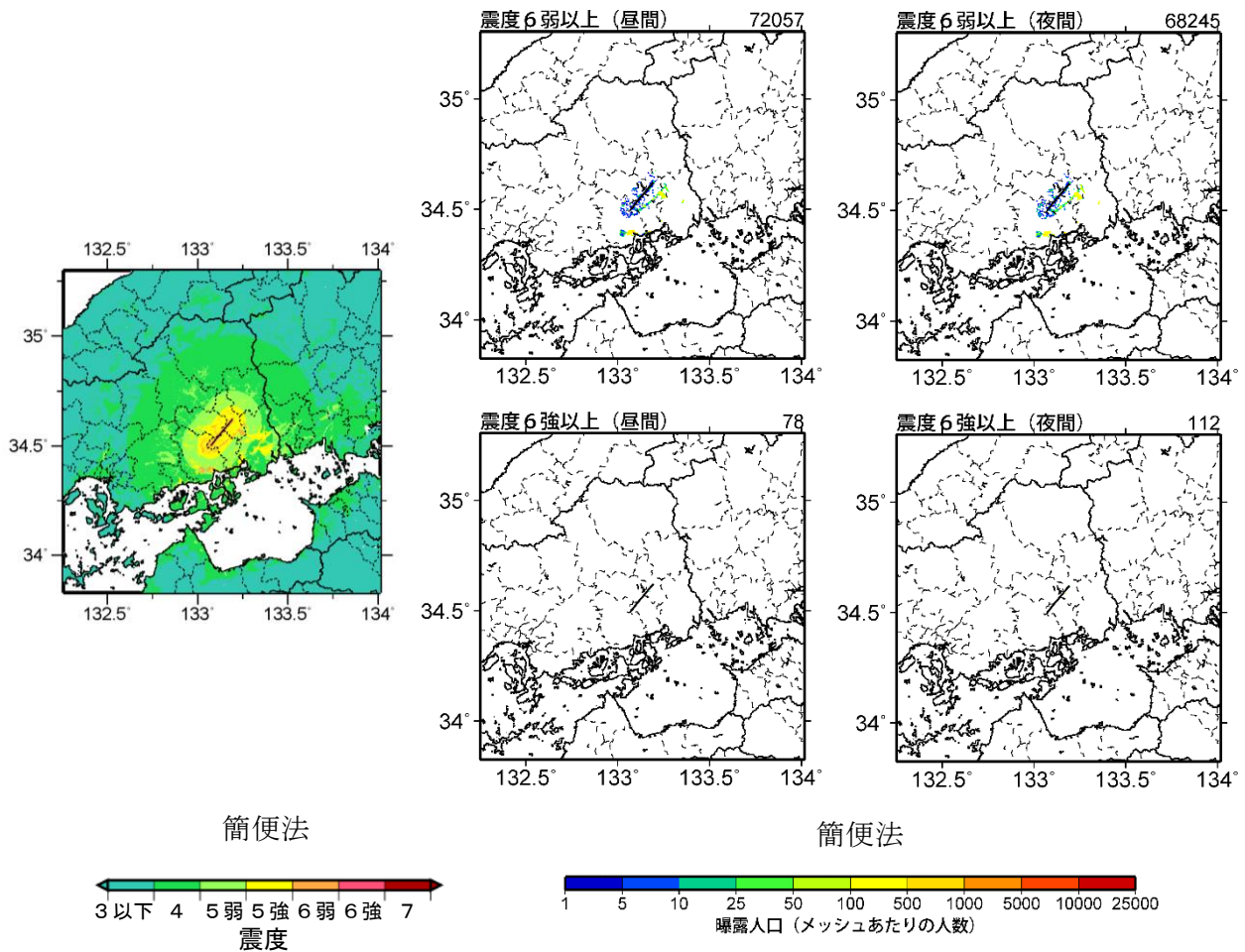
地表震度分布

震度曝露人口分布の例

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）
宇津戸断層

宇津戸断層（F017801）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]	「約12km」	15
地震規模 M	$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]	$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]	地中における端	34.622
断層モデル原点(地中) [°E]		133.193
走向 θ [度]	長期評価の端点を結んだ方向	219.6
傾斜角 δ [度]	長期評価に基づく	90
地震発生層上限深さ H_s [km]	地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]	長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]	$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル幅 W_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	16
断層モデル面積 S_{model} [km ²]	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	288



地表震度分布

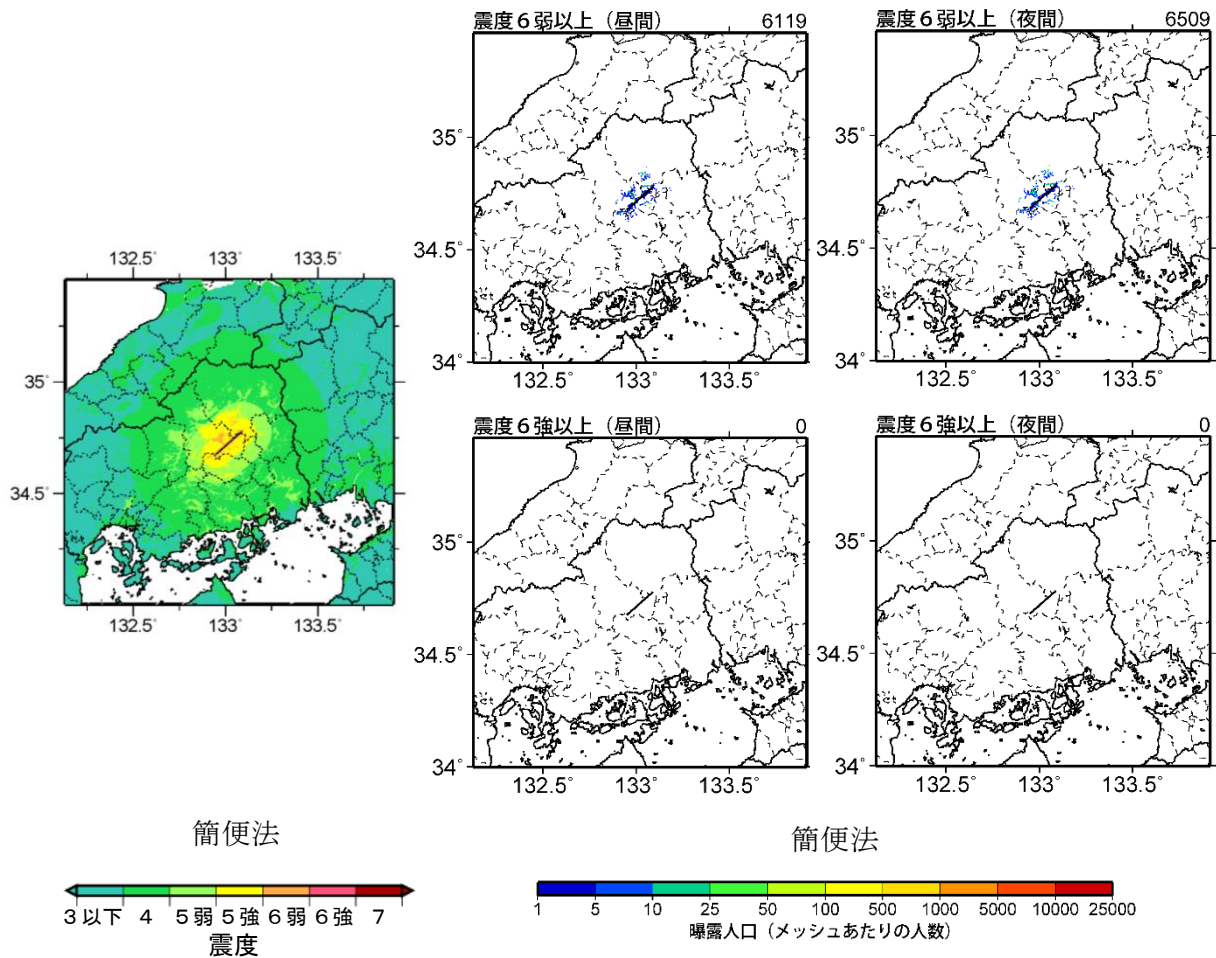
震度曝露人口分布の例

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

安田断層

安田断層（F017901）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]	「約5km」	15
地震規模 M	$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]	$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]	地中における端	34.779
断層モデル原点(地中) [°E]		133.090
走向 θ [度]	長期評価の端点を結んだ方向	228.6
傾斜角 δ [度]	長期評価に基づく	90
地震発生層上限深さ H_s [km]	地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]	長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]	$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル幅 W_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	16
断層モデル面積 S_{model} [km ²]	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	288



地表震度分布

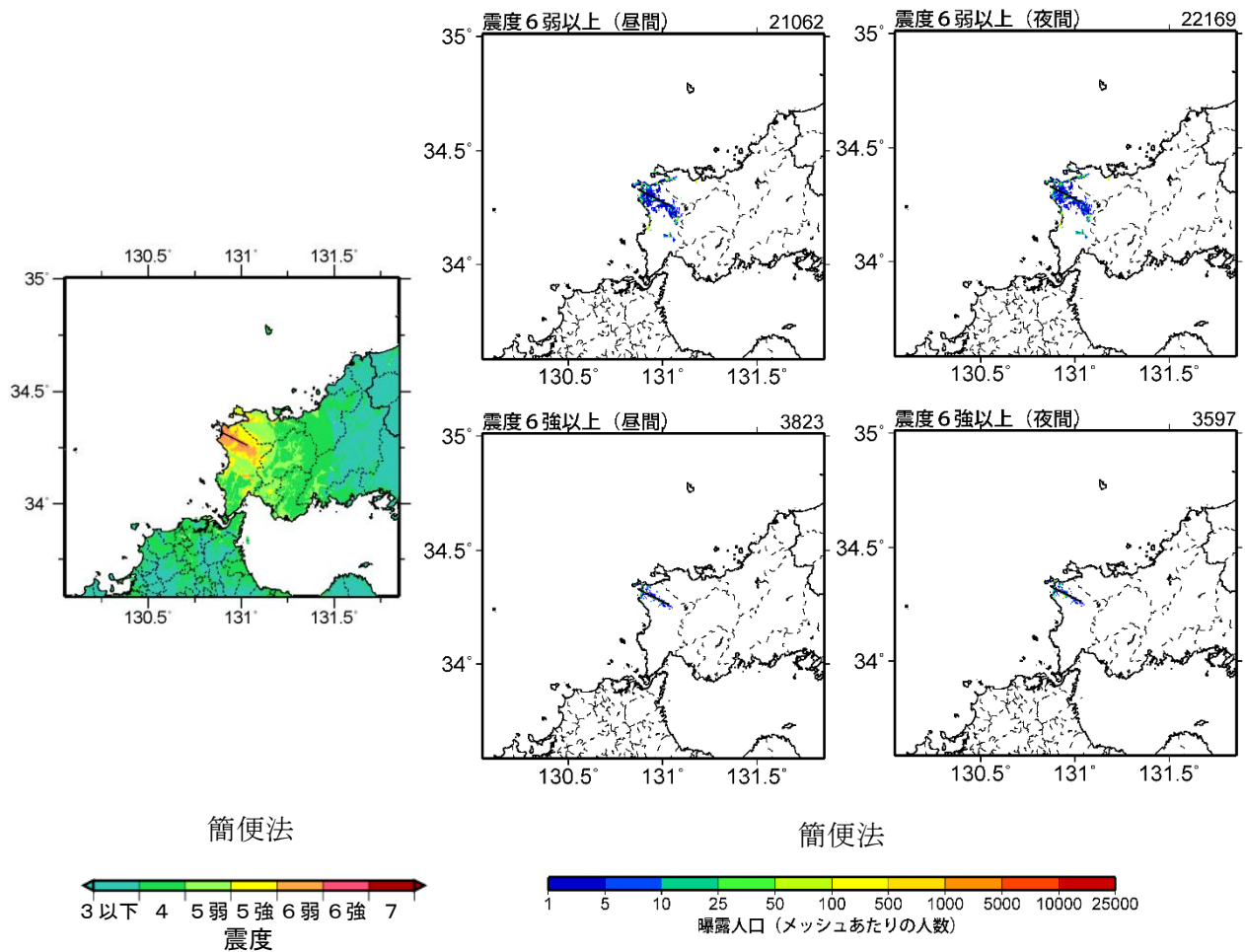
震度曝露人口分布の例

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

滝部断層

滝部断層（F018801）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]	「約6km」	15
地震規模 M	$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]	$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]	地中における端	34.330
断層モデル原点(地中) [°E]		130.867
走向 θ [度]	長期評価の端点を結んだ方向	116.6
傾斜角 δ [度]	長期評価に基づく	90
地震発生層上限深さ H_s [km]	地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]	長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]	$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル幅 W_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	16
断層モデル面積 S_{model} [km ²]	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	288



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

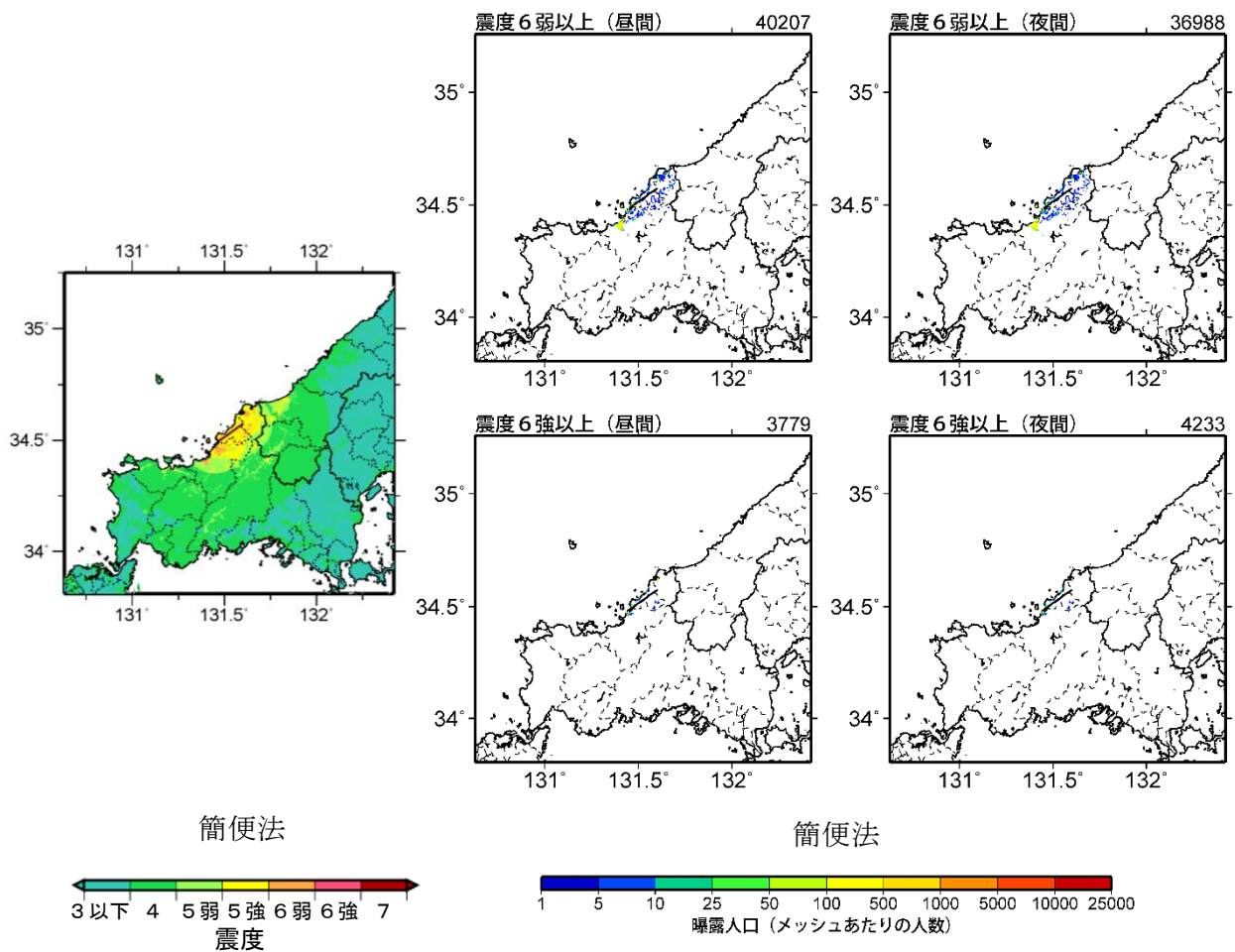
震度曝露人口分布の例

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

奈古断層

奈古断層（F018901）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]	「約13km」	15
地震規模 M	$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]	$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]	地中における端	34.574
断層モデル原点(地中) [°E]		131.601
走向 θ [度]	長期評価の端点を結んだ方向	234.4
傾斜角 δ [度]	長期評価に基づく	90
地震発生層上限深さ H_s [km]	地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]	長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]	$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル幅 W_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	16
断層モデル面積 S_{model} [km ²]	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	288



地表震度分布

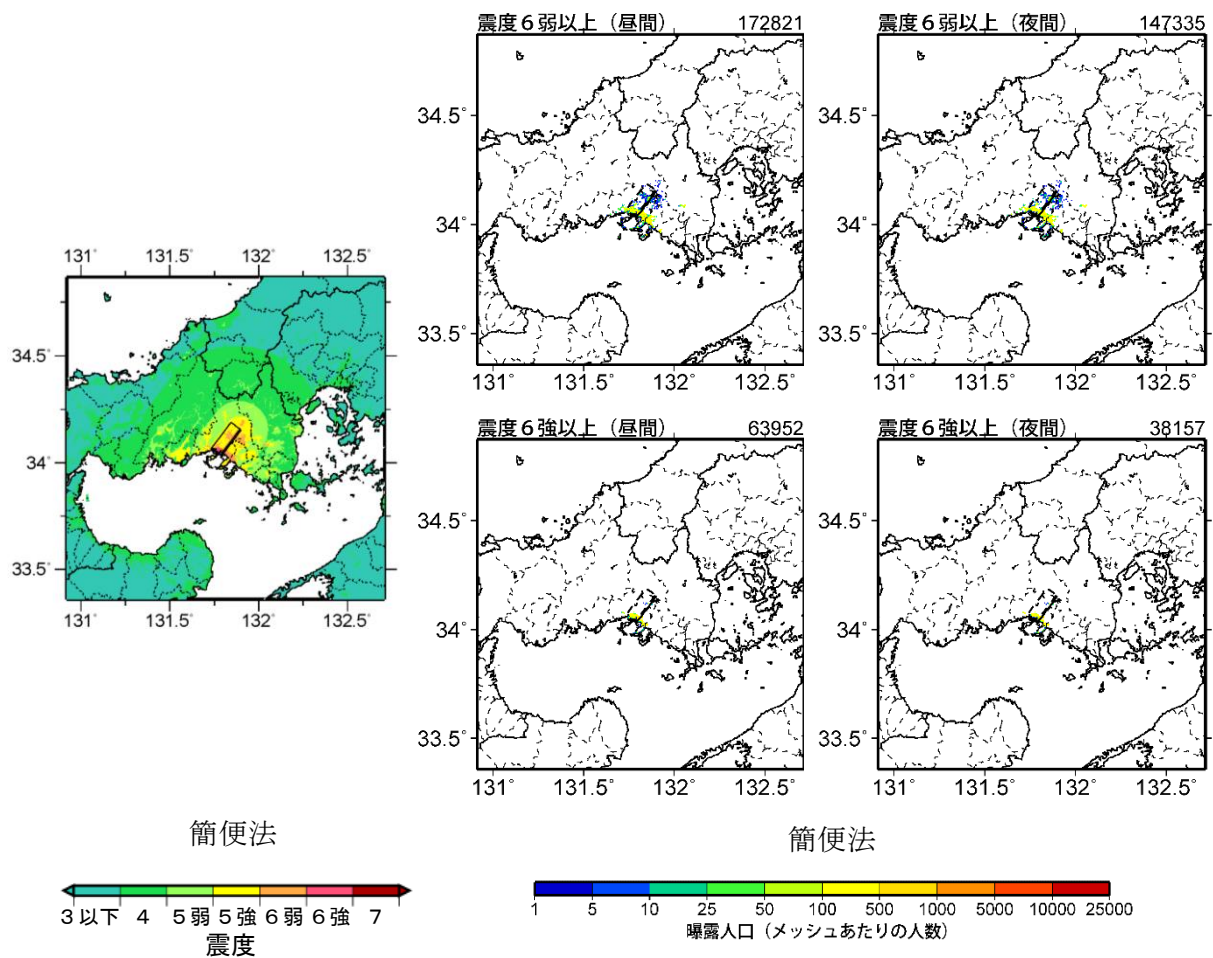
震度曝露人口分布の例

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

栄谷断層

栄谷断層（F019001）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]	「約8km」	15
地震規模 M	$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]	$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]	地中における端	34.158
断層モデル原点(地中) [°E]		131.895
走向 θ [度]	長期評価の端点を結んだ方向	217.2
傾斜角 δ [度]	長期評価に基づく	70
地震発生層上限深さ H_s [km]	地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]	長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]	$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル幅 W_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	16
断層モデル面積 S_{model} [km ²]	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	288



地表震度分布

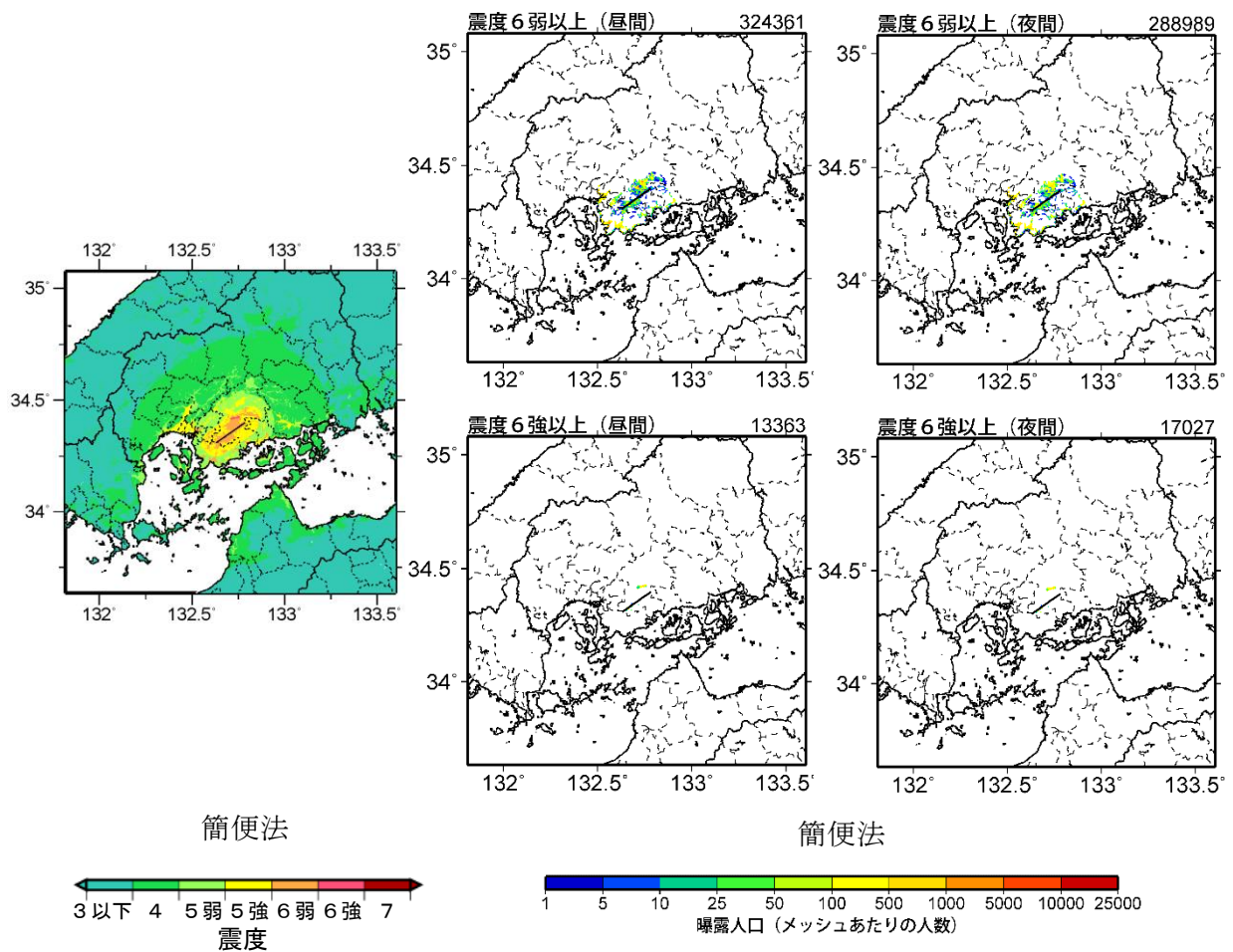
震度曝露人口分布の例

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

黒瀬断層

黒瀬断層（F019101）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	「長期評価」または設定方法	設定値
断層長さ L [km]	「約4km」	15
地震規模 M	$M = \{\log(L) + 2.9\} / 0.6$	6.8
地震モーメント M_0 [Nm]	$\log M_0 = 1.17 \cdot M + 10.72$	4.66E+18
モーメントマグニチュード M_w	$M_w = \{\log(M_0) - 9.1\} / 1.5$	6.4
断層モデル原点(地中) [°N]	地中における端	34.399
断層モデル原点(地中) [°E]		132.784
走向 θ [度]	長期評価の端点を結んだ方向	234.9
傾斜角 δ [度]	長期評価に基づく	90
地震発生層上限深さ H_s [km]	地震基盤と2kmの深い方	2
地震発生層下限深さ H_d [km]	長期評価に基づく	20
断層モデル上端深さ D_{top} [km]	$D_{top} = H_s$	2
断層モデル長さ L_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	18
断層モデル幅 W_{model} [km]	「レシピ」の(イ)の手順に従う	16
断層モデル面積 S_{model} [km ²]	$S_{model} = L_{model} \times W_{model}$	288



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例